ミノルタ株式会社

ホームページ

個々の製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問(FAQ)とその回答などのサポート情報については、以下フォトイメージングのホームページをご覧ください。

http://www.photo.minolta.co.jp/

弊社デジタル製品の商品情報については、以下のホームページをご覧ください。

http://www.dimage.minolta.co.jp/

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-5351-9410

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　03-3356-6303

受付時間　10:00～18:00（日・祝日定休）

1AG6P1P1509--
9223-2788-61 SY-A302
Printed in Japan

MINOLTA

DiMAGE F200

使用説明書

MINOLTA

The essentials of imaging

www.minolta.com

DiMAGE F200

J 使用説明書

基本撮影

撮影モード

動画撮影モード
再生モード

セットアップモード

パソコン接続
その他

目次

セットアップモード 135

カメラの細かい設定について説明しています。必要に応じてお読みください。

パソコンとの接続 152

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する方法を説明しています。

その他 171

一般的な注意事項や、トラブル時の処置等を記載しています。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発熱注意）

⚠ 警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- 指定された電池以外は使わないでください。
- 電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
- 表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。
- 電池のショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。
- 新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池、充電状態の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- リチウム電池は充電しないでください。
- 充電式電池を充電する場合は、専用の充電器をご使用ください。
- 万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

⚠ 警告

ACアダプタをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（ACアダプタの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

⚠ 警告

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因になります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（ACアダプタの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載のフォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

⚠ 警告

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（ACアダプタの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。
しばらく操作しないでいると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池が熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

⚠ 注意

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

ACアダプタ使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプタを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプタが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、ACアダプタをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

WindowsおよびMicrosoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、米国アップルコンピュータ社の米国およびその他の国における商標です。
SDロゴは商標です。
USB DIRECT-PRINTは、セイコーエプソン社の商標です。
その他の会社名や製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ミノルタディマージュF200は、コンパクトでありながら400万画素という高画質を達成した、スタイリッシュなデジタルカメラです。ミノルタGTレンズに独自の画像処理 "CxProcess" を搭載して画質を追及するとともに、自動追尾AFやフルオートシーンセレクターなど先進的なオート機能も満載、画質や機能にこだわる方にも満足して撮影・再生・画像処理等お楽しみいただけます。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

- カメラ本体（DiMAGE F200）
- ハンドストラップ HS-DG100
- 単3形ニッケル水素電池2本
- ニッケル水素電池充電器
- IRリモコン RC-3
- USBケーブル USB-500
- AVケーブル AVC-200
- DiMAGE Viewer CD-ROM
- SDメモリーカード
- 本使用説明書
- DiMAGE Viewer 使用説明書（ソフトウェア DiMAGE Viewer用）
- アフターサービスのご案内
- ミノルタからのお知らせ

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されている「ミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページから、オンラインユーザー登録を行なっていただけます。

各部の名称

＊の付いたところは、直接手で触れないでください。（　）内は参照ページです。

ボディ前面

ボディ背面

1コマ撮影　41
セルフタイマー撮影　41
リモコン撮影　42
連続撮影　45
ブラケット（露出ずらし）撮影　46

ファインダー接眼窓*（13）

フォーカス表示（緑ランプ）（13、29）

シーンセレクターボタン（33）

フラッシュモード／撮影データ表示ボタン（31、104）

フラッシュ表示（オレンジランプ）（13、30）

ドライブモードボタン（41）

ズームレバー（26、58）

露出補正ボタン（36）／十字キー

液晶モニター*（14）

ストラップ取り付け部（18）

メニューボタン

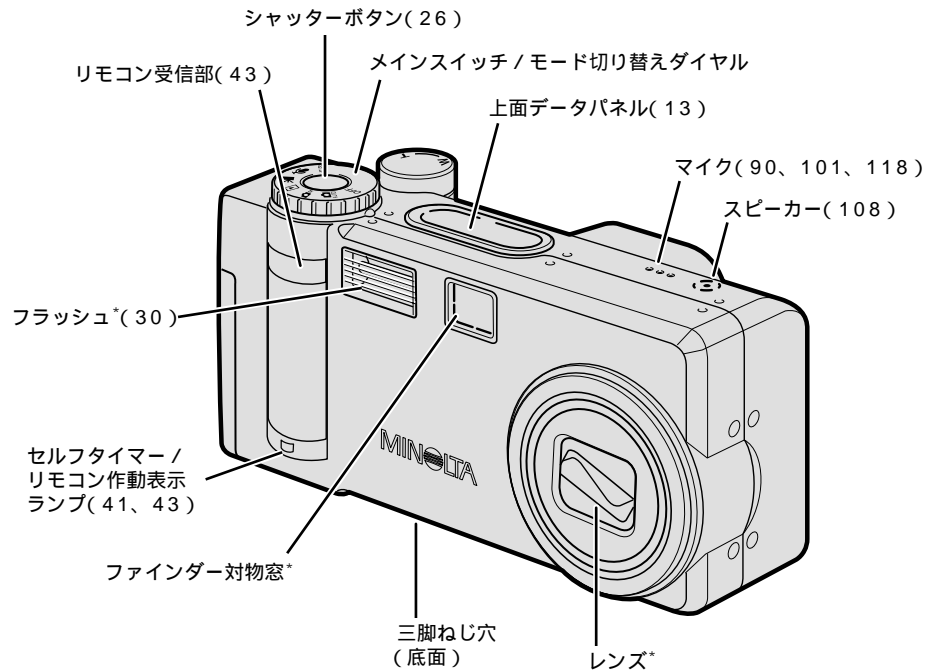
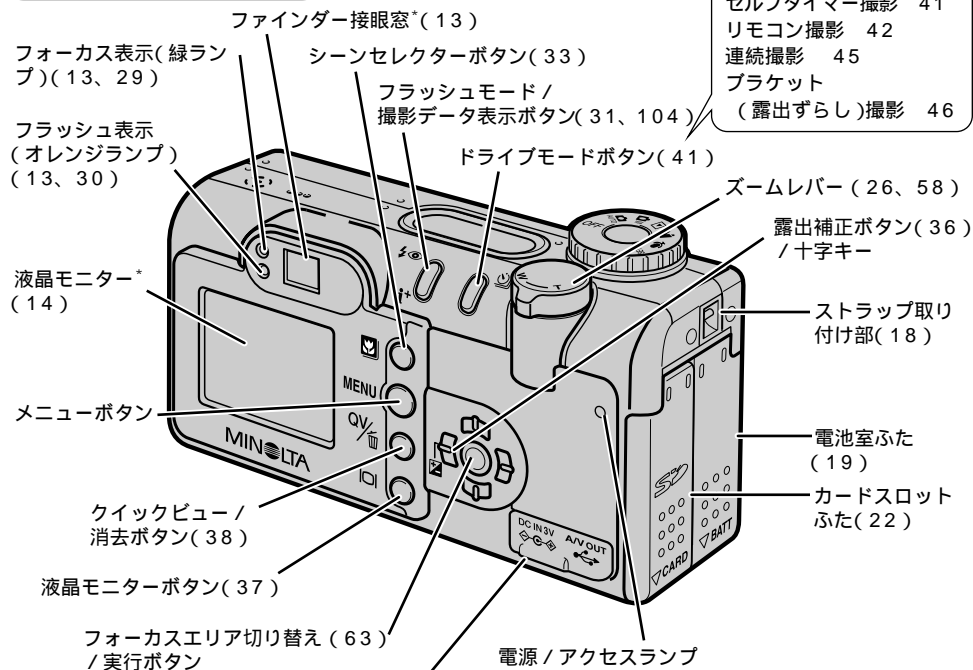
電池室ふた（19）

カードスロットふた（22）

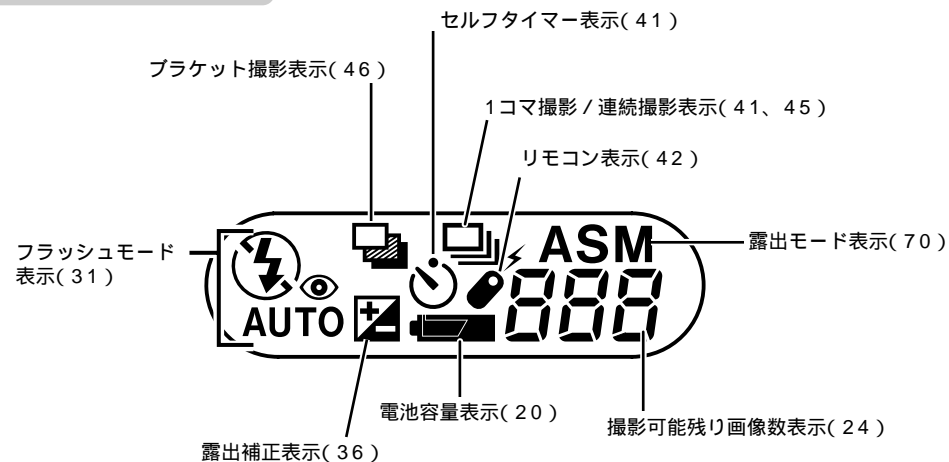
クイックビュー／消去ボタン（38）

液晶モニターボタン（37）

フォーカスエリア切り替え（63）／実行ボタン

端子カバー
DC電源入力端子（21）
USB／AV出力端子（153、110）

電源／アクセスランプ

緑色点灯	カメラがONになっています。
緑色 ゆっくり点滅 （3分間）	障害物があったため、カメラをONにしてもレンズが前方に伸びませんでした。いったんメインスイッチをOFFにしてください。
赤色 すばやく点滅	カードへのアクセス中です。 カードを取り出さないでください。

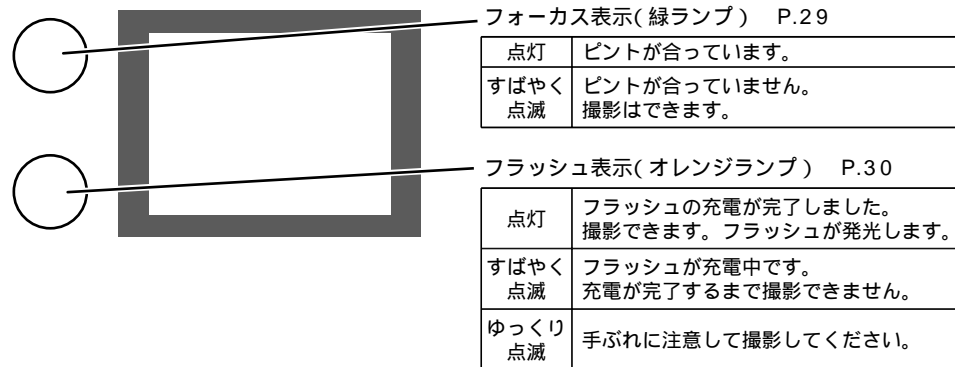
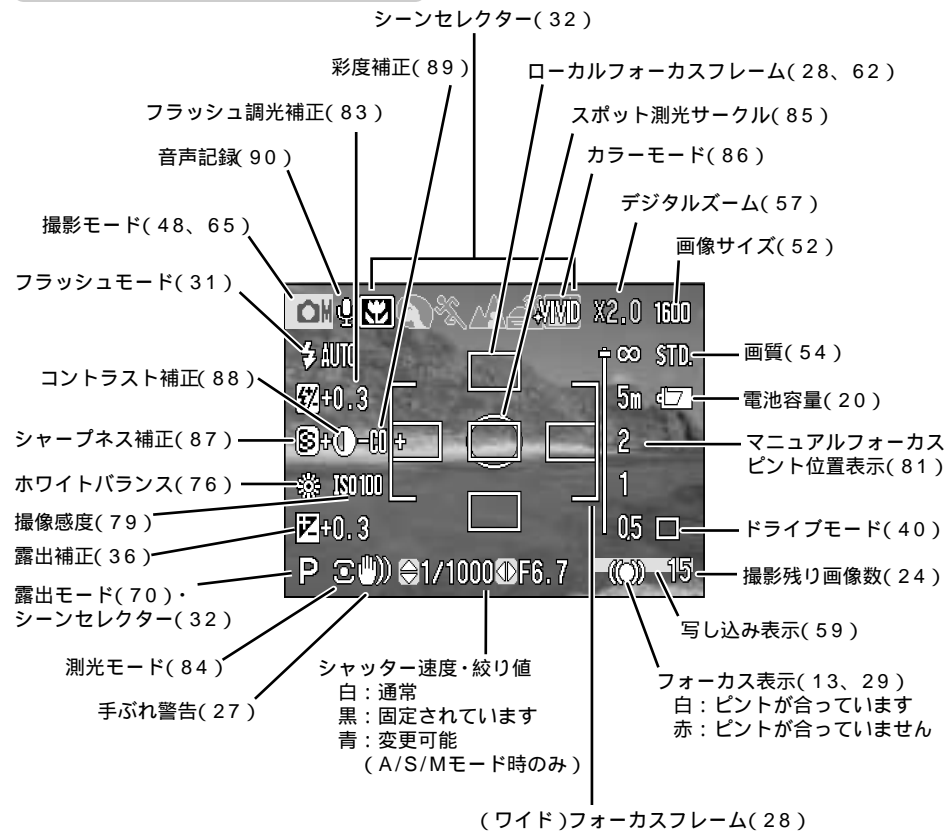
上面データパネル

※このページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

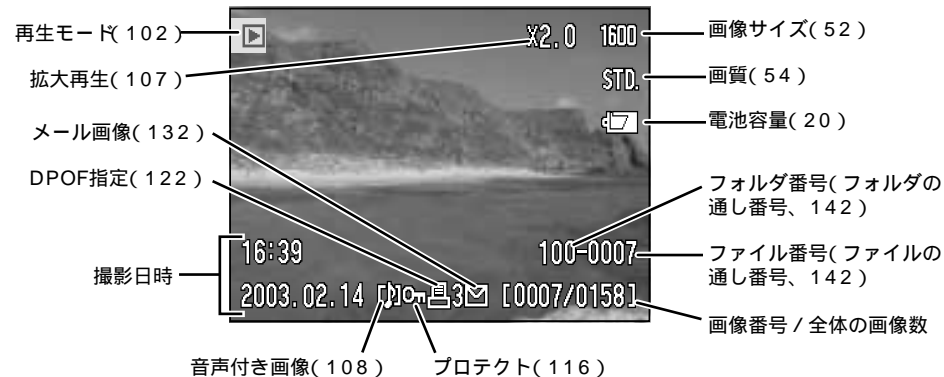
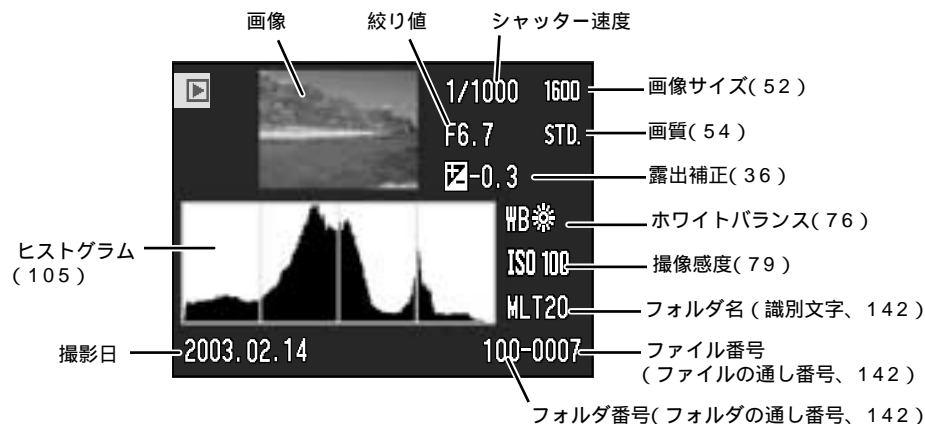
ファインダー

フォーカス表示（緑ランプ）→P.29

点灯	ピントが合っています。
すばやく 点滅	ピントが合っていません。 撮影はできます。

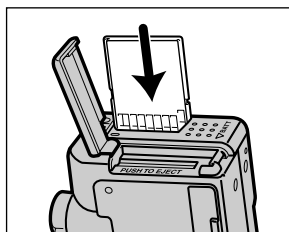
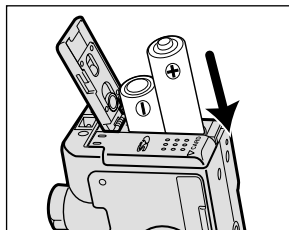
フラッシュ表示（オレンジランプ）→P.30

点灯	フラッシュの充電が完了しました。 撮影できます。フラッシュが発光します。
すばやく 点滅	フラッシュが充電中です。 充電が完了するまで撮影できません。
ゆっくり 点滅	手ぶれに注意して撮影してください。

液晶モニター（撮影モード時）

※これらのページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

液晶モニター（再生モード、1コマ再生時）

液晶モニター（再生モード、ヒストグラム表示）

早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

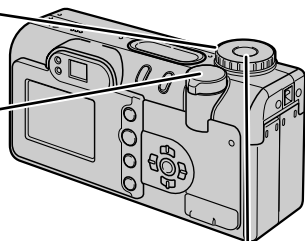
準備をする

1.電池を入れます。→P.19

2.SDメモリーカードを入れます。→P.22

撮影する

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを AUTO に合わせます。→P.26

2.ズームレバーで撮りたいものの大きさを決めます。→P.26

●ズームレバーをT側に押すと望遠に、W側に押すと広角になります。

3.シャッターボタンを押して撮影します。→P.27

撮影した画像を確認する（クイックビュー）→P.38

1.撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

2.十字キーの左右で見たい画像を選びます。

3.見終わった後、シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

画像を消去する →P.39

1.撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

2.十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

3.もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。

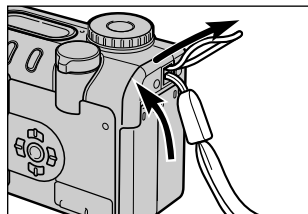
4.左の画面が出た後、十字キーの左側で「はい」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押すと消去されます。

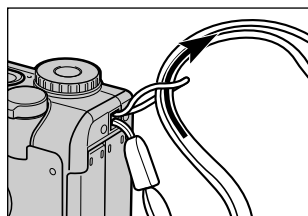
●「いいえ」のままで実行ボタンを押すと消去されません。

5.消去後、シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

基本撮影

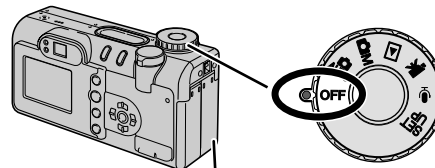
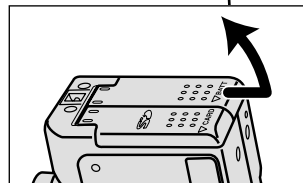
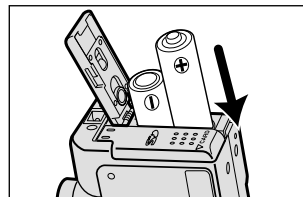
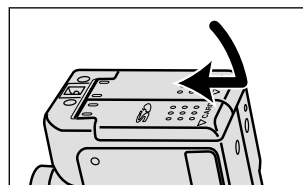
この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

ストラップを取り付ける

1.ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

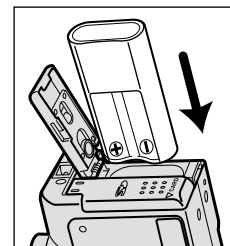
- 先端を細くして通してください。
- 取り付け部に対して垂直に押し込むようにすると通りやすくなります。通らない場合は、先の細い物で先端を引っ張り出してください。

2.通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

電池を入れる

単3形ニッケル水素電池2本、またはリチウム電池（CR-V3）1個を使用します。付属の電池はニッケル水素電池で、お買い上げの際には充電されていません。付属の充電器の取扱説明書をよくお読みの上、完全に充電してからお使いください。

- リチウム電池は充電しないでください。そのままお使いください。
- 上記以外の電池は性能が保証できませんので、このカメラでは使用しないでください。

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせます。

2.電池室ふたを、矢印の方向にスライドさせて開けます。

3.電池室内部の＋／－表示にしたがって電池を入れます。

リチウム電池の場合

4.電池室ふたを閉めます。

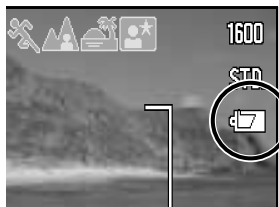
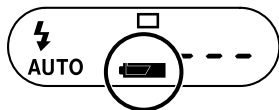
- 最後まで確実に閉めてください。

次ページへ続く

「日付／時刻を設定してください」のメッセージが出たときは

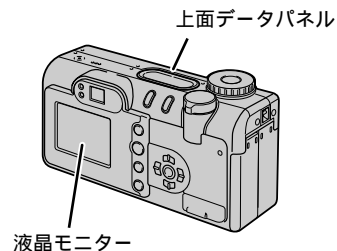
日付／時刻を設定してください

長時間（1日程度）電池を抜いたままにしておくと、日時の設定が失われます。このようなメッセージが現れたら、日時を再設定してください。→P.150

電池容量の確認

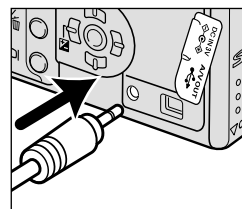
メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFF以外に合わせると、電池の容量が上面データパネルと液晶モニターに表示されます。

上面ﾃﾞｰﾀﾊﾟﾈﾙ	液晶モニター	電池容量
点灯	白色点灯（約3秒間）	電池容量は十分です。
点灯	白色点灯（約3秒間）	電池容量が少なくなりました。 ●節電のためフラッシュ発光直後は液晶モニターが消灯します。
	赤色点灯	電池の交換をおすすめします。 ●この状態でもまだ撮影はできます。 ●節電のためフラッシュ発光直後は液晶モニターが消灯します。
のみ点灯	電池がなくなりました	新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池の向き（＋/－）を確認してください。
- 長時間の撮影や再生には、別売のACアダプタAC-6の使用をおすすめします。→次ページ
- 電池容量がなくなったとき（上の表の一番下）は、19ページを参照して新たに電池を入れ換えてください。

パワーセーブ（操作しないでいると自動的に表示が消えます）

このカメラは、約30秒以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に液晶モニターが消灯します。また約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に上面データパネルも消灯します（パワーセーブ）。シャッターボタンを軽く押すなど、何らかの操作を行なえば、撮影が再開できます。

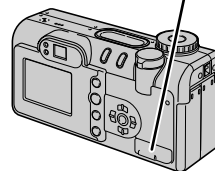
- パワーセーブまでの時間（初期設定は1分）は変更することができます。→P.140

ACアダプタ（別売り）

屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプタ AC-6を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。

接続のしかた

1. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせます。
2. DC電源入力端子にACアダプタを接続します（左図）。
3. ACアダプタをコンセントに差し込みます。

取り外し方

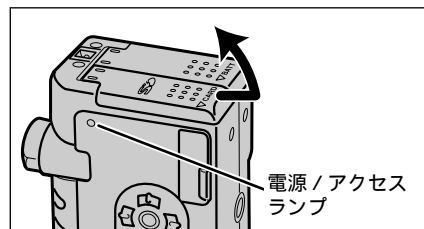
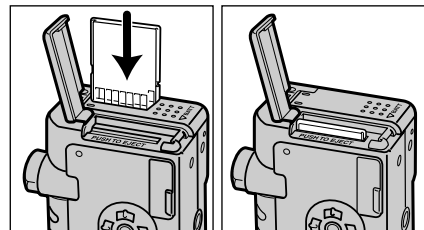
メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせてから、ACアダプタを取り外します。

カードを入れる

入れ方

画像を記録するには、SDメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いいただけます。

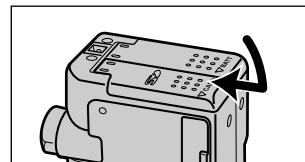
ライトプロテクトスイッチ

● SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、カードがロックされ、書き込みが禁止されてカード内の画像等を保護することができます。撮影する際には、スイッチを上に上げてください。

カードを入れ換えるときには、電源／アクセスランプが赤く点滅していない（＝カードアクセス中でない）のを確認してから入れてください。

1.カードスロットふたを、矢印の方向にスライドさせて開けます。

2.カードのラベルをカメラの前面側、接点を背面側に向け、ラベル上の▲マークを挿入口に向けて、カチッと音がするまで押し込みます。

● 中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。

● カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。

● 奥まで入ると、カードはロックされます。

3.カードスロットふたを閉めます。

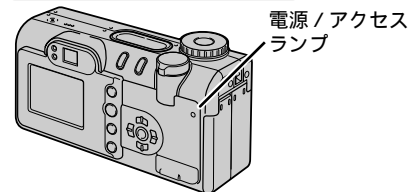
● 最後まで確実に閉めてください。

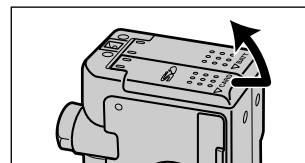
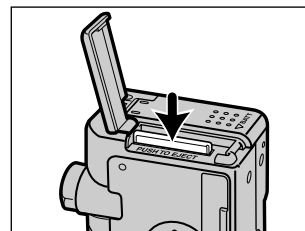
● 閉まらない場合は、下記の要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

● カードを入れないまま撮影しようとすると、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。

● マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

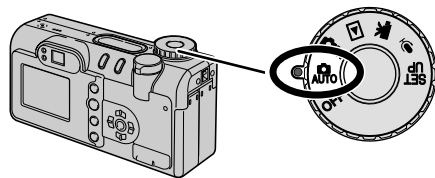
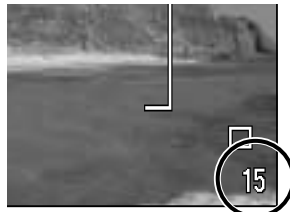
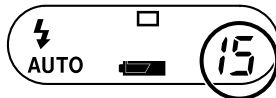
● マルチメディアカード使用時に、上面データパネルに「- - -」が現れたり、液晶モニターに「このカードは使えません」というメッセージが表示される場合は、カードの上下や裏表を逆に入れていないかを確認してください。

取り出し方

電源／アクセス
ランプ

電源／アクセスランプが赤く点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

1.カメラがOFFになっているのを確認後、カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2.カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。

● ロックが外れ、カードが出てきます。

3.カードを取り出し、ふたを閉めます。

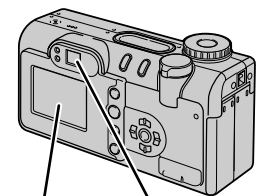
撮影できる画像数

カードを入れてメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを AUTO または M に合わせると、上面データパネルと液晶モニターに、撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量や、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として16MBのSDメモリーカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約14枚です（画像サイズ2272×1704、画質スタンダード）。

● 画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影や音声付きで撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は →P.56

カードに空きがありません

● 液晶モニターに「カードに空きがありません」、上面データパネルに000が表示されたときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては撮影後に、撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。
● 残り画像数が999枚を超える場合は、999と表示されます。999枚以下になるとカウントが始まります。

カメラを構える

撮影される画像は、ファインダーと液晶モニターで確認することができます。カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。
● 脇を閉め、両手でしっかりと構えます。
● 縦位置で撮影するときは、フラッシュをレンズより上にしてください。
● レンズやカメラの前面に、特にフラッシュに、指や髪の毛、ストラップ等がかからないようにしてください。
● 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

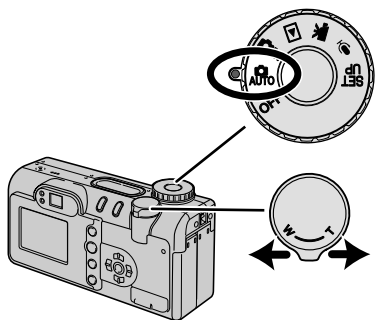
ファインダーを見て撮影する

ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。
● 広角側で1.0m、望遠側で3.0mより近いものを撮影するときは、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差ができます。液晶モニターで構図を決めてください。
● ファインダーを使って撮影するときは、液晶モニターをOFFにすると電池の消耗を軽減することができます。→P.37

液晶モニターを見て撮影する

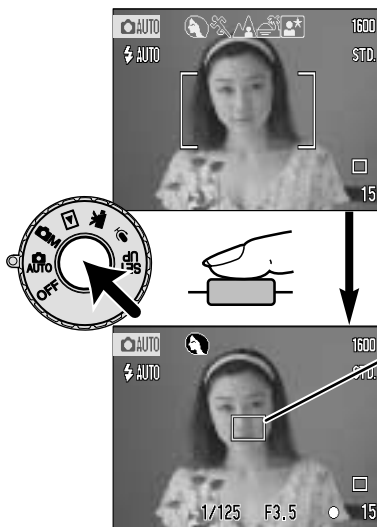
さまざまなデータが表示されるので便利です。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

撮影する

ここでは、すべての設定がカメラまかせのフルオート（全自動）撮影について説明しています。

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを AUTO に合わせます。

●電源／アクセスランプが緑色に点灯します。

2.液晶モニターまたはファインダーを見ながら、ズームレバーで写したいものの大きさを決めます。

●ズームレバーをT側に押すと望遠に、W側に押すと広角になります。

3.ピントを合わせたいものに［　］を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

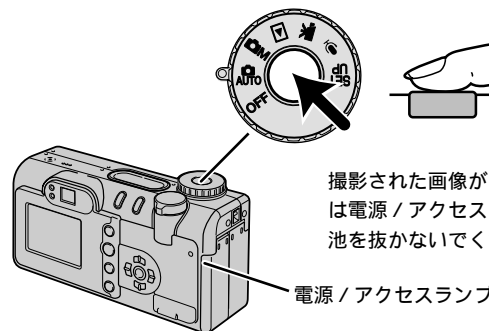
●シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。

●［　］の中のものにピントが合います。※ピントが合わないときは →P.29

●ファインダーで撮影する場合は、ファインダー中央部にピントを合わせたいものを配置してください。

●半押しするとピントが合います。ピントが合うと、ピント合わせに使われたセンサーが赤く表示され、ピントの合っている位置をお知らせします。

●ピントが合うと、液晶モニター右下に白い○または(◯)（フォーカス表示）が点灯します。ファインダー左の緑ランプも点灯します。

※半押ししたときの表示について →次ページ

4.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●撮影された画像が自動的にカードに記録（保存）されます。書き込み中は電源／アクセスランプが赤く点滅しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

電源／アクセスランプ

●カメラから約50cm以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロ撮影を行なってください。→P.33

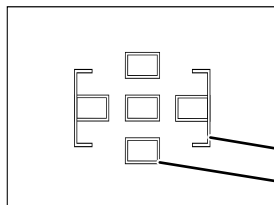
●撮影後シャッターボタンから指を離さずにそのまま押し続けていると、押している間撮影した画像が液晶モニターに表示されます（液晶モニター点灯時のみ）。

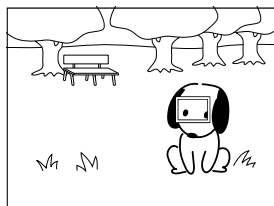
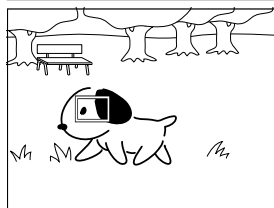
※常に表示させるには →アフタービュー、P.60

●シャッターボタンを半押ししたときに現れる表示の意味は以下の通りです。

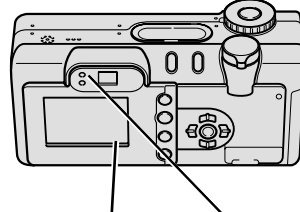
液晶モニター下部	ファインダー左側緑・オレンジランプ	状況
白色○点灯	緑色点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。
白色(◯)点灯	緑色点灯	動いているものにピントを合わせ続けています。撮影できます。
赤色●点灯	緑色すばやく点滅	ピントが合わない、または撮りたいものに近づき過ぎています（P.29）。撮影はできます。
	オレンジ色点灯	フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。フラッシュが発光します。
	オレンジ色すばやく点滅	フラッシュが充電中です。充電が完了するまで撮影できません。
	オレンジ色ゆっくり点滅	シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

●撮影後は、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせて電源を切ってください。

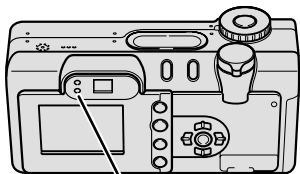
ピント合わせ

ワイドフォーカスフレーム［　］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が5つあります。シャッターボタンを半押しすると、この5つのセンサーのいずれかが作動し、自動的にピント合わせが行われます。

ワイドフォーカスフレーム
ローカルフォーカスフレーム（センサー）

被写体が静止している場合は、シャッターボタンを半押しするとカメラが被写体を判別し、適切なローカルフォーカスフレームが自動的に選択され、そこでピントを合わせます。液晶モニターには○が点灯します。

被写体が動いている、または静止状態から動き始めた場合は、シャッターボタンを半押しし続けると、カメラが被写体を追ってピントを合わせ続けます（自動追尾AF）。この間は、液晶モニターには((○))が点灯します。

- 以下の場合は自動追尾AFはできず、ピントが合いません。液晶モニター右下の赤い●が点灯します。
  - ・被写体の動きが速すぎるとき
  - ・被写体がローカルフォーカスフレームのある位置から外れたとき
- 以下の場合は自動追尾AFは作動しません。シャッターボタンを半押しした時にピントが固定されます。
  - ・液晶モニターを消灯しているとき（P.37）
  - ・暗いところで撮影しているとき
  - ・デジタルズーム、セルフタイマー、リモコン撮影時
- 上記の5つのローカルフォーカスフレームのうち、任意のフレームを選ぶこともできます。→P.62
- 自動追尾AFは、マニュアル撮影モードMではメニューで設定することができます。→P.80

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターとファインダー横のフォーカス表示が、ピントの状態をお知らせします。

液晶モニター右下	ファインダー横緑ランプ	状況
白色○点灯	緑色点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。
白色((○))点灯	緑色点灯	動いているものにピントを合わせ続けています。撮影できます。
赤色●点灯	緑色 すばやく点滅	ピントが合いません。以下を確認してください。撮影はできます。 撮りたいものに近づき過ぎていませんか？ カメラから約50cm以上離れたものにピントが合います。それより近くの物を撮影するときは、マクロ撮影を行なってください。→P.33 動いている被写体が速すぎたり、［　］から外れていませんか？ 動きが速すぎたり［　］から外れたりするとピントが合いません。 オートフォーカスの苦手な被写体ではありませんか？ オートフォーカスの苦手な被写体（P.62）だと、オートフォーカスではピント合わせができません。フォーカスロック撮影（P.64）またはマニュアルフォーカス撮影（P.81）を行なってください。

フラッシュ撮影

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを AUTO に合わせると、フラッシュは自動発光モードになり、暗いときや逆光のときはフラッシュが自動的に発光します。
ファインダー横のオレンジランプがフラッシュの状態をお知らせします。

ファインダー横 オレンジランプ	状況
オレンジ色点灯	フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。フラッシュが発光します。
オレンジ色 すばやく点滅	フラッシュが充電中です。充電が完了するまで撮影できません。ランプが消えるのを待ってから撮影してください。（充電時間は新品電池で約5秒です。）
オレンジ色 ゆっくり点滅	シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

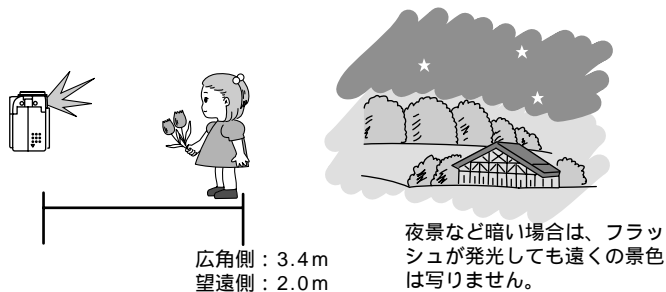
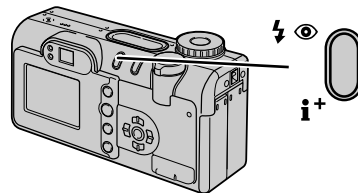
● このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。

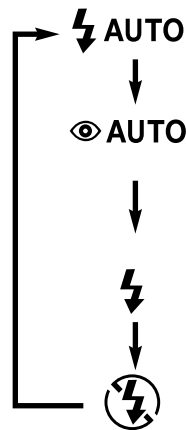
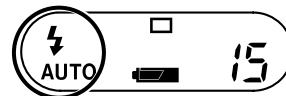
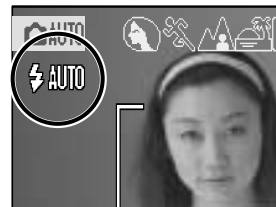
フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.4m、最望遠側では2.0mを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離も変わります。→P.79

広角側：3.4m
望遠側：2.0m

夜景など暗い場所は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

フラッシュモードの切り替え

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが AUTO 位置にあるときに、フラッシュモードボタンを押すと、以下の順序でフラッシュモードが切り替わります。

⚡AUTO **自動発光**
フラッシュは必要時には自動的に発光します。

👁AUTO **赤目軽減自動発光**
暗いところで人物を撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードでは撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのを和らげます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。

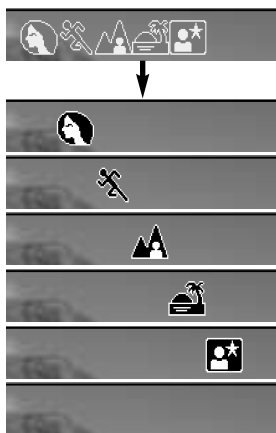
強制発光
フラッシュは必ず発光します。

発光禁止
フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場合にお使いください。液晶モニターに手ぶれマークが現れたとき（ファインダー横オレンジランプはゆっくり点滅）は、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

※液晶モニターと上面データパネルで表示は多少異なります。

シーンセレクター

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを AUTO に合わせると、液晶モニターの上側に、撮影場面を表す絵表示が並びます。そのまま撮影すると、カメラが撮影場面を判断し、自動的にその場にふさわしい設定が選ばれます（フルオートシーンセレクター）。撮影者が意図的にシーンを選ぶこともできます。

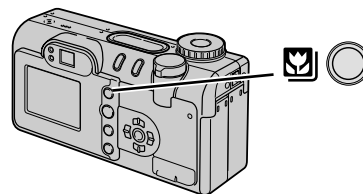
フルオートシーンセレクター

シャッターボタンを半押しすると、レンズの焦点距離や被写体までの距離等からカメラが撮影場面を判断し、その場面にふさわしい設定が自動的に選ばれます。

● 半押しすると、カメラが選んだ場面が液晶モニターに表示されます。どの場面にも当てはまらなかった場合は何も表示されず、通常のフルオート撮影になります。

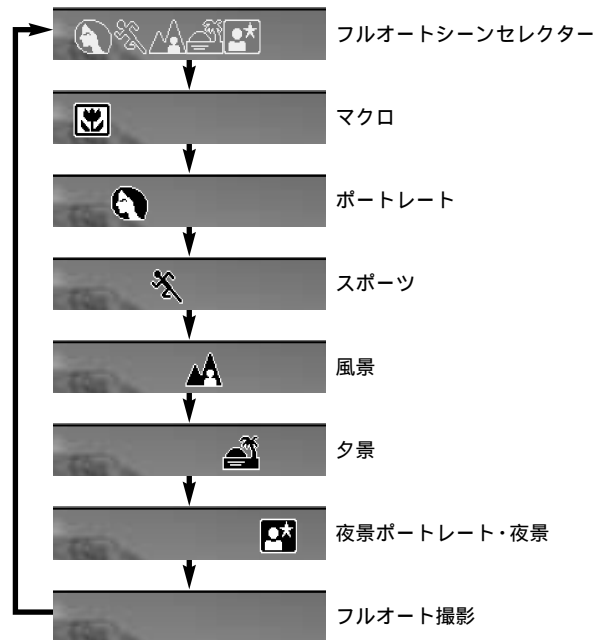
※各モードについての詳細は →P.34

● フラッシュモードは各撮影シーンによって自動的に設定されます。変更することもできます。→P.31

● 人物の入らない夜景のみの撮影の場合は、フラッシュを発光させずに撮影してください。→P.35

撮影シーンを選ぶ

撮影者が意図的に撮影シーンを選ぶこともできます。前ページの6つに加え、マクロ撮影を選ぶこともできます。

シーンセレクターボタンを押して、撮影したい画面の絵表示を液晶モニターに表示させます。

● ボタンを押すたびに、以下の順序で撮影シーンが切り替わります。

マクロ

カメラから約20cm〜60cm（レンズ先端から約14.5〜54.5cm）の間のものを撮影する場合に使います。レンズは自動的に最望遠位置に設定されます。

- 上記の範囲外の被写体にはピントが合いません。液晶モニター／ファインダー横のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします。→P.29
- フラッシュが自動発光または赤目軽減自動発光のときにマクロを選択すると、発光禁止に変わります。フラッシュを発光させることもできます（P.31）が、発光させると正しい露出が得られません。またフラッシュ光がレンズでさえぎられて画面に影ができることがあります。
- このモードでは、ピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押ししなくても常にピント位置が調整され続けます（フルタイムAF、→P.82）。
- マクロでは、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲とに差がありますので、液晶モニターで構図を決めてください。液晶モニターボタンで液晶モニターを消灯させていても（P.37）、マクロを選択すると液晶モニターは点灯します。

ポートレート

人物を美しく引き立たせ、人の肌をなめらかに再現します。

- 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

スポーツ

速く動いているものでもぶれにくいように、またやや遠いところにある被写体をくっきりと描写します。

- このモードでは、動く被写体にピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押ししなくても常にピント位置が調整され続けます（フルタイムAF、→P.82）。
- フラッシュ光が届かない場合はフラッシュを使用しないでください。
  ※フラッシュ光の届く距離 →P.30、フラッシュモードの変更 →P.31

風景

色は鮮やかに、輪郭はくっきりと描写します。全体的にピントが合って見えるように再現します。

- フラッシュモードボタンで発光禁止に切り替えて撮影することをおすすめします。→P.31
- 被写体が暗いときはシャッター速度が遅くなりますので、液晶モニターに手ぶれマークが現れたとき（ファインダー横オレンジランプはゆっくり点滅）は、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

夕景

夕焼けの赤さを美しく描写することができます。夕景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- 人物のいない夕景のみの場合は、フラッシュモードボタンで発光禁止に切り替えて撮影することをおすすめします。→P.31
- シャッター速度が遅くなりますので、液晶モニターに手ぶれマークが現れたとき（ファインダー横オレンジランプはゆっくり点滅）は、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。
- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。やむを得ず置く場合はメインスイッチをOFFにしてください。

夜景ポートレート・夜景

黒をしっかりと再現し、明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出して、美しい夜景を描写します。夜景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

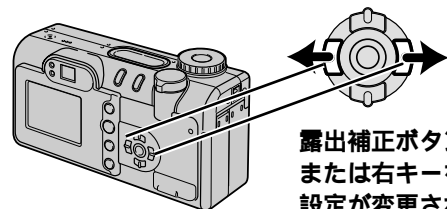
- 人物のいない夜景のみの場合は、フラッシュモードボタンで発光禁止に切り替えて撮影することをおすすめします。→P.31
- シャッター速度が遅くなりますので、液晶モニターに手ぶれマークが現れたとき（ファインダー横オレンジランプはゆっくり点滅）は、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

露出補正

画面全体を明るくしたり暗くしたりします。－2.0～＋2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。

＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

露出補正＋側

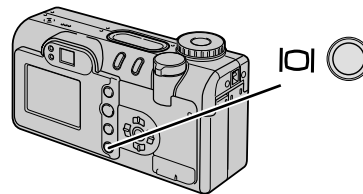
露出補正－側

露出補正ボタン/十字キーの、左キーまたは右キーを押すと、露出補正の設定が変更されます。

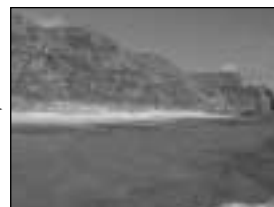
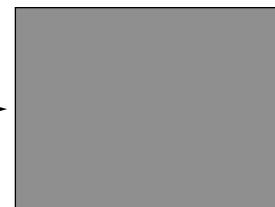
- 右を押すと画面は明るくなります（＋側に露出補正）。左を押すと暗くなります（－側に露出補正）。
- 液晶モニターに±が現れ、設定した露出補正値が表示されます。

- 設定後、シャッターボタンを半押しすると元の画像に戻ります。
- 0以外に設定すると、上面データパネルには±が、液晶モニターには±と数値が表示されます。

- 露出補正を解除するときは、同じ要領で±0を選んでください。メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがAUTO位置にあるときは、ダイヤルを切り替えても0に戻ります。
- 露出補正は液晶モニターを使って行なってください。液晶モニター消灯時に露出補正ボタン／十字キーを押すと、液晶モニターは一時的に点灯します。この場合は設定後自動的に消灯しますが、設定した露出補正は有効です。

液晶モニター表示の切り替え（撮影モード）

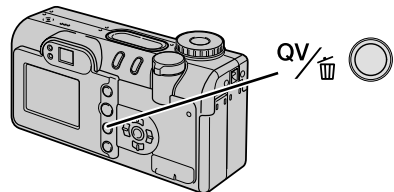
液晶モニターの表示を切り替えることができます。

液晶モニターボタンを押します。

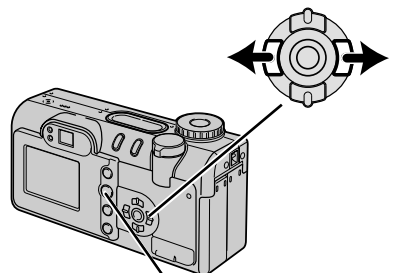
- ボタンを押すたびに、以下の順序で液晶モニターが切り替わります（AUTOまたはMの場合）。

撮影データあり　画像のみ表示　液晶モニター消灯

- 上記中央の状態でも、警告表示（赤色の表示）と日付写し込み表示（P.59）は現れます。フルオートシーンセレクター（P.32）は作動しますが、液晶モニターには表示されません。
- この使用説明書では、撮影データありの状態（左端）で説明しています。
- 液晶モニターをOFFにすると、電池の消耗を減らすことができます。このときはファインダーを使って撮影してください。
- このカメラでは、暗いところでも液晶モニターがよく見えるように、一定以下の暗さになるとモニター感度が自動的に上がります（モニター自動感度アップ機能）。

撮影した画像を確認する／消去する（クイックビュー）

画像を確認する（クイックビュー）

撮影した画像を簡単に見ることができます。

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

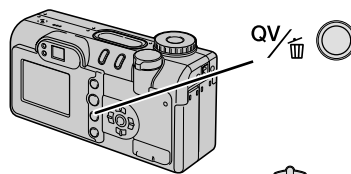
- 直前に記録された画像が液晶モニターに表示されます。動画（P.94）や音声（P.101）も同じように確認することができます。

2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。

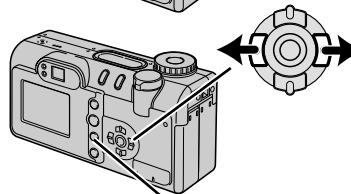
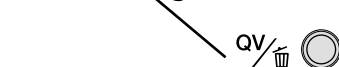
- 液晶モニターボタンを押すと、撮影データ表示の有無を切り替えることができます。→P.37
- 撮影データ表示ボタンを押すと、画像のヒストグラム（輝度分布）表示と通常の表示を切り替えることができます。→P.105
- ズームレバーで画像を拡大して見ることができます。→P.107

3. メニューボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると、元の撮影モードに戻ります。

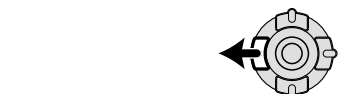
- 液晶モニター消灯時にクイックビュー／消去ボタンを押すと、液晶モニターは一時的に点灯します。この場合は、3の操作で再度消灯します。

画像を手早く消去する

クイックビューの状態で、画像を簡単に消去することができます。

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

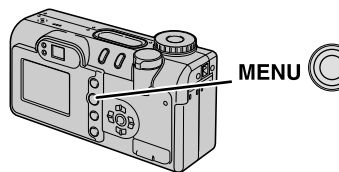
- 直前に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

3. もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。

- 右の画面が現れます。
- 消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押すか、再度クイックビュー／消去ボタンを押します。

このコマを消去しますか？
はい　いいえ

4. 十字キーの左側で「はい」を選びます。

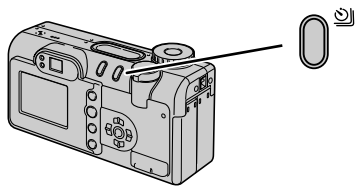
このコマを消去しますか？
はい　いいえ

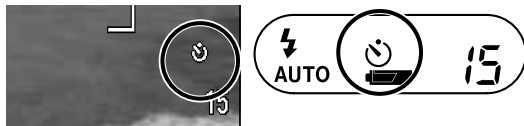
5. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 選んだ画像が消去されます。
- この後、2に戻って続けて画像を消去することもできます。

6. メニューボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると、元の撮影モードに戻ります。

※複数の画像を一度に消去するときは →P.113

ドライブモード

ドライブモードボタンを使うと1コマ撮影、セルフタイマー撮影、リモコン撮影、連続撮影、ブラケット（露出ずらし）撮影ができます。初期設定は1コマ撮影です。

ドライブモードボタンを押して、希望の設定を選びます。

- ドライブモードボタンを押す度に、以下の順序で設定が切り替わり、液晶モニターと上面データパネルに設定が表示されます。

1コマ撮影：シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。→P.41

↓

セルフタイマー撮影：シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます→P.41

↓

リモコン撮影：リモコンを使って、シャッターを切ることができます。→P.42

↓

連続撮影：シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影できます。→P.45

↓

ブラケット（露出ずらし）撮影：露出を自動的にずらした写真が3枚できます。→P.46

- メインスイッチ／モード切り替えダイアルを回すと、オート撮影モード AUTO 時のドライブモードの設定は全て1コマ撮影に戻りますが、マニュアル撮影モード M 時のセルフタイマー以外のドライブモードの設定は保持されます。

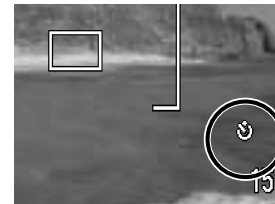
1コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影です。

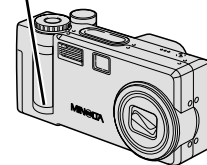
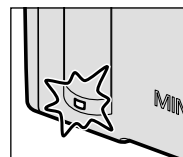
セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

1.ドライブモードボタンを押して、（セルフタイマー表示）を選びます。

- 液晶モニターと上面データパネルに が表示されます。

2.撮りたいものに［　］を合わせ、構図を決めます。

3.被写体にピントが合っていることを確認してから、シャッターボタンを押します。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマー／リモコン作動表示ランプが点滅します。撮影直前には素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー動作中は、ランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます。→P.137
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、ドライブモードボタンまたはメニューボタンを押すかメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを回してください。

リモコン撮影

付属のリモコンを使って、カメラから離れてシャッターを切ることができます。撮影者も一緒に写りたいときや、三脚使用時にカメラぶれを防ぐのにお使いください。

IRリモコンRC-3

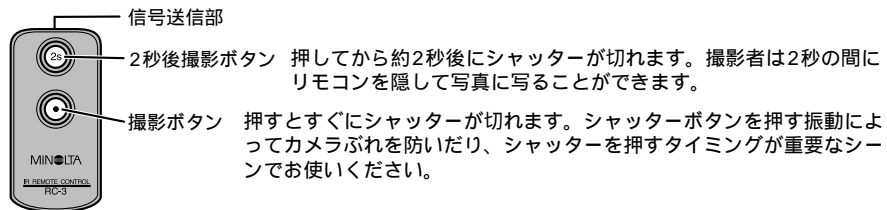
信号送信部

2秒後撮影ボタン　押してから約2秒後にシャッターが切れます。撮影者は2秒の間にリモコンを隠して写真に写ることができます。

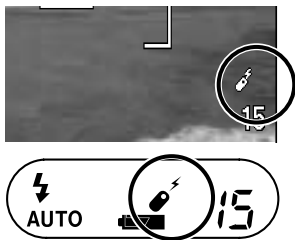
撮影ボタン　押すとすぐにシャッターが切れます。シャッターボタンを押す振動によってカメラぶれを防いだり、シャッターを押すタイミングが重要なシーンでお使いください。

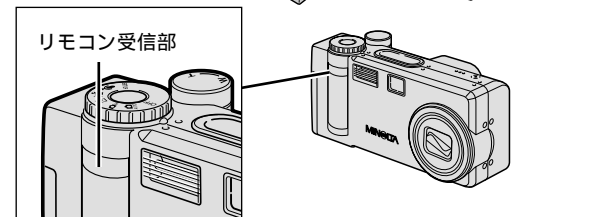
2s

MINOLTA

IR REMOTE CONTROL
RC-3

1. ドライブモードボタンを押して、（リモコン表示）を選びます。

● 液晶モニターと上面データパネルにが表示されます。

2. 撮りたいものに［　］を合わせ、構図を決めます。

3. 右図の範囲内で、リモコンの信号送信部をカメラのリモコン受信部に向け、2秒後撮影ボタンか撮影ボタンを押します。

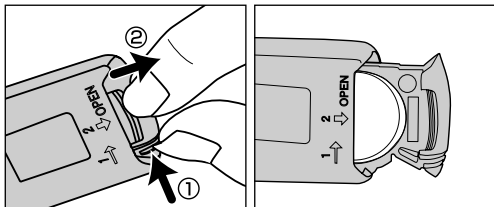
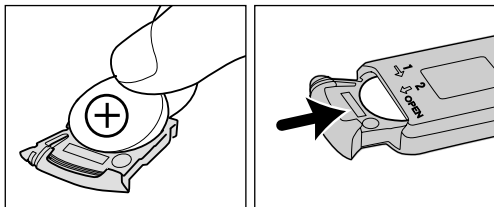
● 2秒後撮影ボタンを押したときは、カメラ前面のセルフタイマー／リモコン作動表示ランプが数回点滅し、2秒後に撮影されます。撮影ボタンを押したときは、1回点滅してすぐに撮影されます。

● 撮影後もリモコン設定のままです。解除するには、ドライブモードボタンを押してリモコン撮影以外に設定してください。

● 逆光時や蛍光灯の近く、極端に明るい場所では、リモコン撮影の可能な範囲が極端に短くなったり、リモコン撮影ができないことがあります。

● このカメラでは、リモコンを使ってのフォーカスロック撮影はできません。

リモコン用電池の交換

リモコンのボタンを押してもシャッターが切れなくなったら、電池を交換してください。電池の寿命は約10年です。（お買い上げ時に付属の電池はそれより消耗が早くなることがあります。）

使用電池：リチウム電池CR2032×1個

1.リモコン裏面下部に電池室があります。図のように①の方向に押しながら、電池室を②の方向に引き出します。

2.古い電池を取り出し、＋側を上にして新しい電池を入れます。

3.電池室を元通り確実にはめ込みます。

リモコン用リチウム電池は、幼児の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

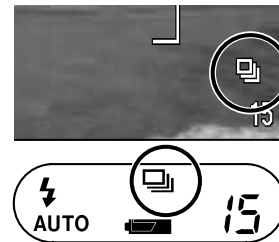
連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。最高毎秒約1.2コマの連続撮影ができます（シャッター音ありの場合）。

- シャッター音なしの場合（P.145）だと、最高毎秒約1.5コマの連続撮影が可能です。
- 連続撮影の速度は、被写体などの撮影条件によって異なります。

1.ドライブモードボタンを押して（連続撮影表示）を選びます。

- 液晶モニターと上面データパネルにが表示されます。

2.シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- 画質でTIFFを選んでいるときは、連続撮影は選べません。また連続撮影選択時は、TIFFは選べません。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
- カメラの内蔵メモリには限りがあるため、連続撮影の枚数には上限があります（以下参照）。これらの値は画像サイズや画質、被写体によって異なるので、あくまでも目安とお考えください。

	2272x1704	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	14	25	36	80
スタンダード	7	14	20	57
ファイン	3	7	11	36

- 日付写し込み（P.59）を行なっている場合は、連続撮影の速度は遅くなります。

ブラケット（露出ずらし）撮影

露出を自動的にずらした写真が3枚できます。シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

1. ドライブモードボタンを押して（ブラケット表示）を選びます。

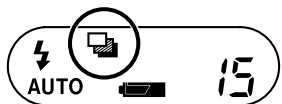
2. 十字キーの左右でずらし量を選びます。

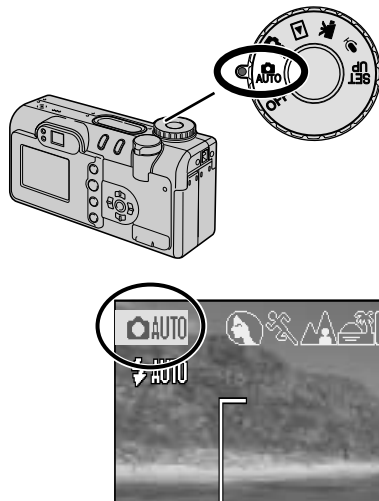
- ±0.3、±0.5、±1.0のいずれかを選びます。±1.0だとずれ量が大きくなり、±0.3だと小さくなります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

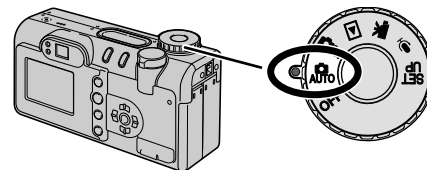
- 液晶モニター画面にと撮影枚数を表す3が、上面データパネルにが表示されます。

4. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- ±0 → －（露出アンダー）側 → ＋（露出オーバー）側、の順に撮影されます。
- 途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。
- 液晶モニターには、の横にブラケットの残り枚数が表示されます。

- フラッシュ撮影はできません。自動的に発光禁止になります。
- 画質でTIFFを選んでいるときは、ブラケット撮影は選べません。またブラケット撮影選択時は、TIFFは選べません。
- 基準値（±0）とピント位置は、1枚目を撮影するときに固定されます。露出補正により、基準値をあらかじめずらしておくことも可能です。→P.36
- 撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は途中で終了します。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色のが点灯している場合）は、1枚目の撮影しかできません。

オート撮影モード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがAUTO位置（オート撮影モード）にあるときの各種設定について説明しています。
オート撮影モードでは、複雑な機能はすべて自動で設定されます。カメラまかせで気軽に撮影したいときに便利です。

ダイヤルをAUTO位置（オート撮影モード）にしていると、液晶モニターの左上にAUTOが現れます。

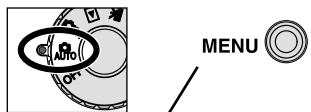
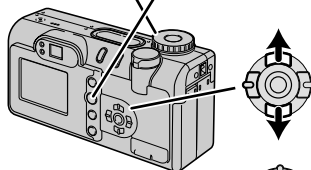
オート撮影モードについて

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをAUTOに合わせると、オート撮影モードになります。
オート撮影モードでは、複雑な機能はすべて自動で設定されます。さまざまな設定が可能なマニュアル撮影モード（P.65）に対し、カメラまかせで気軽に撮影したいときに便利です。

オート撮影モードで、設定可能な機能および自動的に設定される（変更不可能な）機能は以下の通りです。

項目	設定	説明	ページ
ズーム	可能	—	26
フラッシュモード	可能	—	31
ドライブモード	可能	—	40
フルオートシーンセレクター	可能	マニュアル撮影モードでは機能しません。	32
撮影シーンの選択	可能	マニュアル撮影モードより多くのシーンが選べます。	33
露出補正	可能	—	36
液晶モニター表示の切り替え	可能	—	37
クイックビュー	可能	—	38
オート撮影モードメニュー	可能	—	50
ローカルフォーカスフレームの選択	可能	—	62
フォーカスロック撮影	可能	—	64
マニュアル撮影モードメニュー	不可能	マニュアル撮影モードで設定してください。 オート撮影モードでは、マニュアル撮影モードメニューの設定はすべて初期設定値になります。	65

● オート撮影モードは、自動での撮影を基本としています。よって、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルでモードを切り替えたりカメラをOFFにしたりすると、いったん行なった設定は解除されます（フラッシュモードの赤目軽減の有無と、オート撮影モードメニューを除く）。

オート撮影モードメニュー

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがオート撮影モード位置 AUTO にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1.オート撮影モード位置 AUTO で、メニューボタンを押します。

● メニュー画面が現れます。

2.十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

3.十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

4.十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

5.十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

6.メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

● シャッターボタンの半押しでも戻ります。

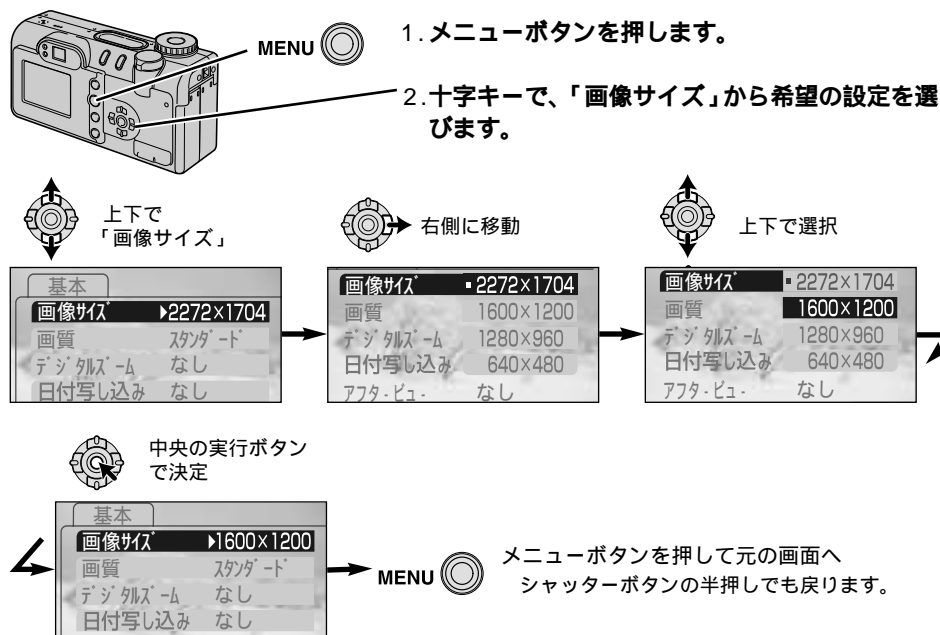
基本	
画像サイズ（P.52）	○2272×1704
	1600×1200
	1280×960
	640×480
画質（P.54）	TIFF
	ファイン
	○スタンダード
	エコノミー
デジタルズーム（P.57）	あり
	○なし
日付写し込み（P.59）	あり
	○なし
アフタービュー（P.60）	10秒
	2秒
	○なし

○印は初期設定値です。

● 上記5つのメニュー項目は、マニュアル撮影モードメニュー（P.65）と共通です。
● これらの項目は、オート撮影モードメニューで設定を変更した場合、マニュアル撮影モードでも自動的に同じ設定に変更されます。逆も同様です。またメインスイッチ／モード切り替えダイヤルでモードを切り替えたりカメラをOFFにしたりしても、設定は保存されています。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

メニューボタンを押して元の画面へ
● シャッターボタンの半押しでも戻ります。

● 選んだ画像サイズは、液晶モニターに大きい方の数値で表示されます。

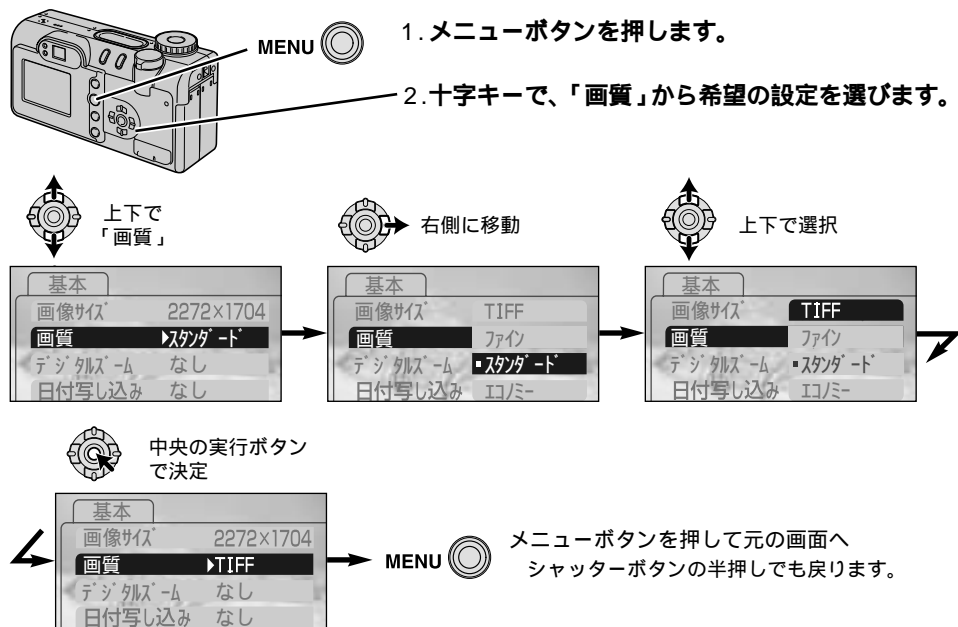
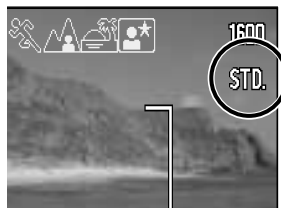
デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2272×1704ピクセルの場合、画像は横に2272、縦に1704に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素またはピクセル、ドットといった単位で表されます。大きくプリントする場合は画像サイズを大きく設定する必要がありますが、画像サイズを大きくすると1枚あたりのファイルサイズ（データ量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。
このカメラでは、画像サイズを以下の4通りの中から選ぶことができます。

液晶モニター	画像サイズ（単位ﾋﾟｸｾﾙ）	説明
2272	2272×1704	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする場合※1におすすめします。約390万画素の画像が撮影できます。 ※1 2L判（178mm×127mm）〜A4（297mm×210mm）程度
1600	1600×1200 (UXGA)	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする場合※2におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 ※2 L判（127mm×89mm）〜A5（210mm×148mm）程度
1280	1280×960 (SXGA)	枚数を多く撮影する場合に便利です。約120万画素の画像が撮影されます。
640	640×480 (VGA)	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi〜300dpiの場合を指しています。

● 画像サイズと画質を変更した場合のファイルサイズと撮影画像数について →P.56

画質

画像の圧縮率を指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

●選んだ画質は、液晶モニターにアルファベットの短縮形で表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。このカメラでは、初期設定（スタンダード、STD.）で撮影するとJPEG形式で圧縮されます。高画質になるほど1枚あたりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。

液晶モニター	ファイル形式	説明
TIFF	TIFF （非圧縮）	画像が圧縮されずにTIFF形式で記録されます。パソコンに取り込んで編集する場合におすすめです。画質は最高ですがファイルサイズは大きくなるため、記録できる枚数（撮影枚数）が少なくなったり、カードへの記録／再生に要する時間が長くなったりします。
FINE ファイン	JPEG （圧縮率小）	画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。JPEG形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画質を撮影後にパソコン等で戻すことはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行なう場合、画質設定は慎重に行なってください。 一般的な目安は以下のとおりです。 プリント：スタンダード、ファイン 画像加工：ファイン、 メール添付など：エコノミー
STD. スタンダード	JPEG （圧縮率中）	
ECON. エコノミー	JPEG （圧縮率大）	

●画質をTIFFに設定していると、連続撮影、ブラケット撮影など一部の機能が使えません。また、TIFF形式のファイルは、EPSON USB DIRECT - PRINTで印刷できません。

●TIFF形式で撮影した画像は、拡大再生に時間がかかることがあります。

●TIFFで撮影すると、撮影後カードに記録するのに数十秒かかることがあります。「カードに保存中」というメッセージが現れるので、この間はカードを抜かないようにしてください。

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と、例として16MBの1枚のSDメモリーカードに記録できる撮影画像数は以下の通りです。（ボイスメモなし）

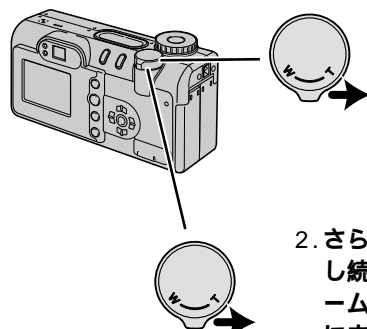
● 下記の値は被写体によって異なるため、撮影のたびに変動します。あくまでも目安とお考えください。

ファイルサイズ

	2272x1704	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約550KB	約300KB	約200KB	約90KB
スタンダード	約1.0MB	約550KB	約350KB	約130KB
ファイン	約2.0MB	約1.0MB	約650KB	約210KB
TIFF	約12MB	約5.8MB	約3.7MB	約950KB
動画	320x240：約340KB／秒 160x120：約85KB／秒			
音声	約8KB／秒			

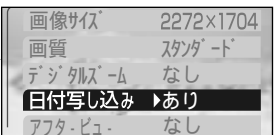
16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

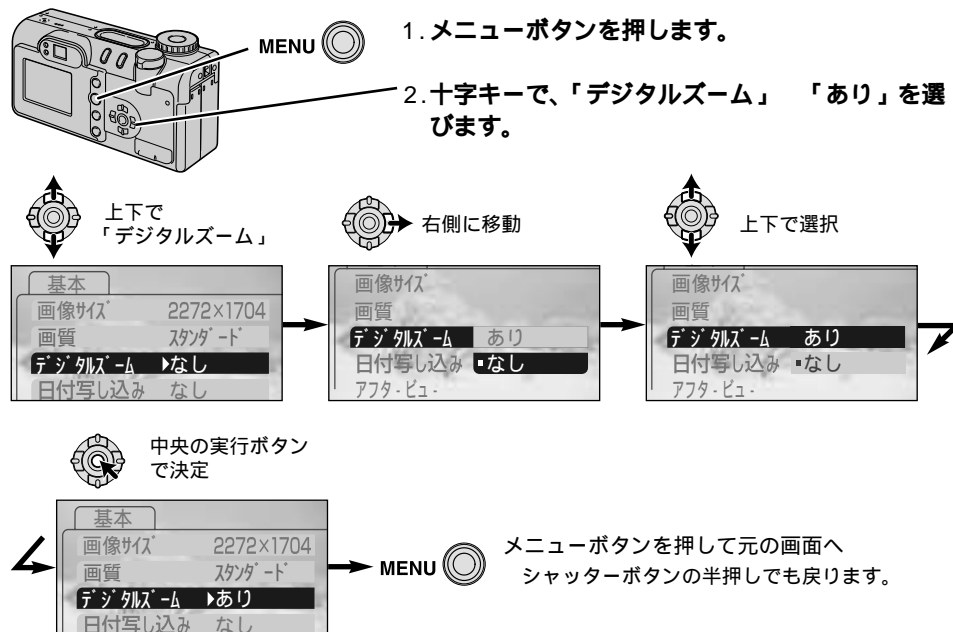
	2272x1704	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約27コマ	約47コマ	約69コマ	約150コマ
スタンダード	約14コマ	約27コマ	約39コマ	約100コマ
ファイン	約7コマ	約14コマ	約22コマ	約69コマ
TIFF	約1コマ	約2コマ	約3コマ	約14コマ
動画	320x240：約40秒 160x120：約2分30秒			
ボイスレコード	約30分50秒			

ボイスメモ→P.90
動画・ボイスレコード→P.93

デジタルズーム

通常の光学ズーム（P.26）は3倍までですが、デジタルズーム（4倍まで）と組み合わせると、最大12倍までの画角を得ることができます。

1. メニューボタンを押します。

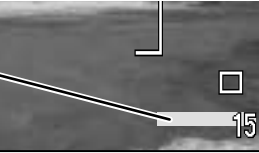
2. 十字キーで、「デジタルズーム」→「あり」を選びます。

メニューボタンを押して元の画面へ
● シャッターボタンの半押しでも戻ります。

次ページへ続く

操作方法

1. ズームレバーをT側に押して、望遠側にズームさせます。

2. さらにズームレバーをT側に押し続けると自動的にデジタルズームになり、画像がさらに4倍にまで拡大されます。

- 1.0倍から4.0倍まで、0.1倍ごとに拡大されます。元に戻すにはズームレバーをW側に押してください。
- デジタルズーム時には、液晶モニターに黄色で現在の倍率が表示されます。
- デジタルズームは、液晶モニターを見ながら操作してください。液晶モニターが消灯しているとデジタルズームはできません。

- デジタルズーム時には、自動追尾AF（P.28）は作動しません。中央部のセンサーのみ作動します（デジタルズームの倍率によりセンサーの表示は異なります。）
- デジタルズーム後に液晶モニターを消灯させると、デジタルズームなしの光学ズームの最望遠位置で撮影されます。
- デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。
- デジタルズーム時は通常撮影に比べて手ぶれしやすくなります。

日付写し込み

撮影の年月日を、画像の右下に入れることができます。

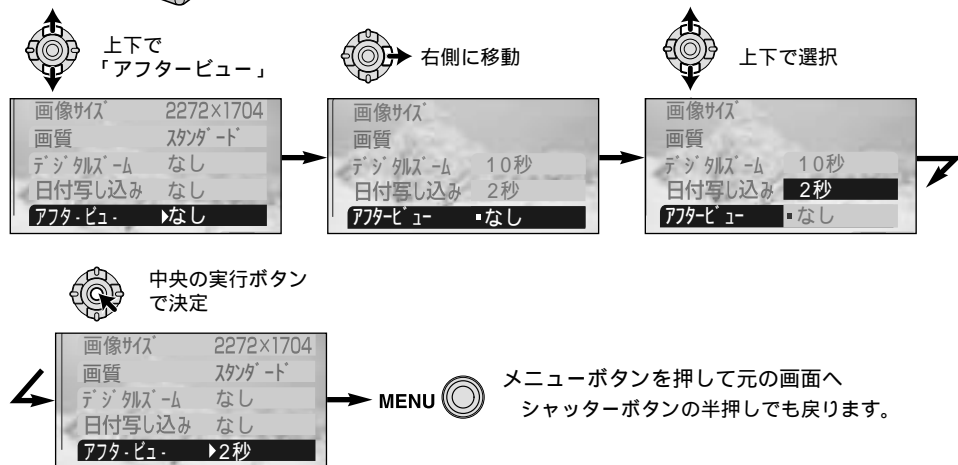
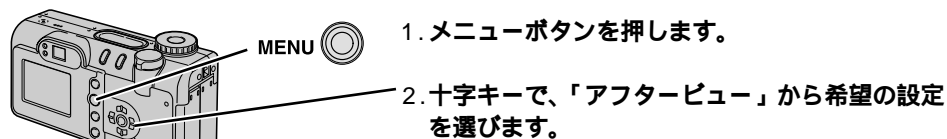
- 写し込みなしに設定していても、撮影時の年月日時刻は画像情報として記録され、再生時には液晶モニターの左下に表示されます。

※年月日や時刻、年月日の並びを変更するときは →P.150、151

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を液晶モニターに表示させることができます。

メニューボタンを押して元の画面へ

● シャッターボタンの半押しでも戻ります。

アフタービュー なし

撮影後、ライブビュー画面（その時にレンズが向けられている被写体が画面に表示される）に戻ります。初期設定はアフタービューなしです。

● アフタービューをなしにしていても、撮影後シャッターボタンから指を離さずにそのまま押し続けていると、押している間撮影した画像が液晶モニターに表示され、アフタービューの代わりになります（液晶モニター点灯時のみ）。

アフタービュー 2秒／10秒

撮影直後の約2秒間または約10秒間、撮影した画像を液晶モニターに表示させます。

● 2秒／10秒間の表示中にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされます。

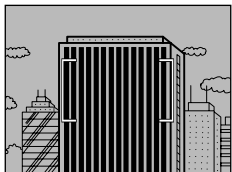
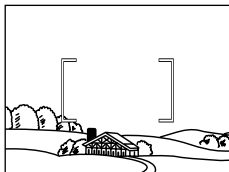
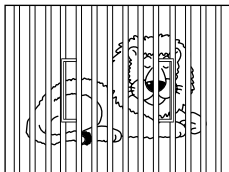
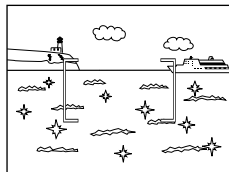
● 液晶モニター消灯中は、一時的にモニタを点灯しアフタービューを表示します。アフタービュー表示後に液晶モニターは消灯します。

● 連続撮影の場合は、インデックス表示（画面に6コマが同時に表示される）になります。（日付写し込みありで連続撮影する場合を除く）

ピント合わせ（詳細）

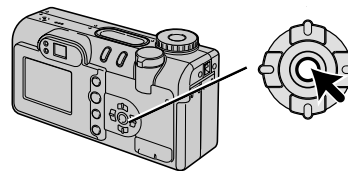
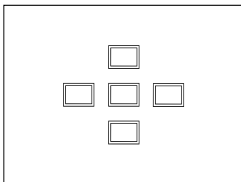
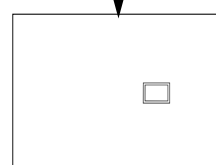
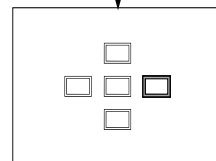
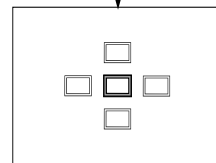
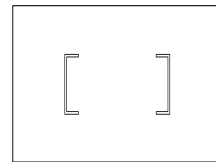
この項目は、オート撮影モード AUTO とマニュアル撮影モード M（P.65）に共通です。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。ピントが合わない場合は、液晶モニターに赤色の● が点灯（ファインダー横の緑ランプはすばやく点滅）します（P.29）。このような場合は、フォーカスロック撮影を行なってください。→P.62～64

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

［　］の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

ローカルフォーカスフレームの選択（フォーカスエリアセレクト機能）

ワイドフォーカスフレーム［　］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が5つあります。この5つの中から、実際に使うフレームを選択することができます。

- オート撮影モード AUTO では、この方法でピントを合わせた場合、自動追尾AF（P.28）は作動しません。
- マニュアル撮影モード M で追尾AF（P.80）を設定してる場合は、この方法でピントを合わせシャッターボタンを半押しし続けると被写体が動いてもピントを合わせ続けます。（ターゲットセレクト機能）

1.十字キー中央のフォーカスエリア切り替え／実行ボタンを約1秒間押し続けます。

2.十字キーで、ピントを合わせたいフレームを選びます。

- 選んだフレームは青色で表示されます。
- 中央のフレームを選んでおいて、シャッターボタン半押しでフォーカスロックする方法が便利です。→P.64

3.十字キー中央の実行ボタンを押します。

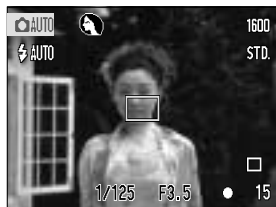
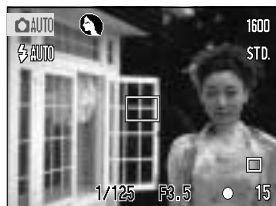
- 選んだフレームが設定されます。
- 設定したフレームを変更する場合は、実行ボタンを押して十字キーで選択し直してください。

4.シャッターボタンを半押ししてピントを合わせた後、押し込んで撮影します。

- ピントが合うと、フレームは赤くなります。

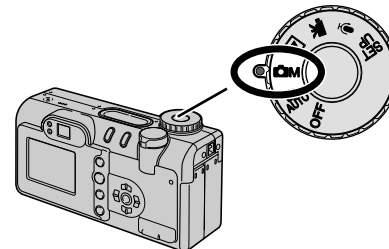
- 再度十字キー中央のフォーカスエリア／実行ボタンを約1秒押し続けると、ワイドフォーカスフレームに戻ります。
- 液晶モニター消灯時およびデジタルズーム時には、フレームを選択することはできません。

フォーカスロック撮影

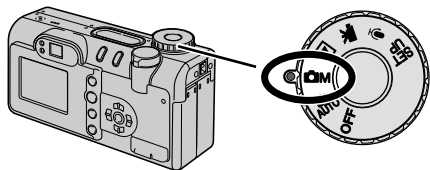
ピント位置を一時的に固定して、その間に構図を変えることができます。
● 追尾AFが作動する状態ではフォーカスロック撮影はできません。オート撮影モード AUTO の場合、あらかじめ使うローカルフォーカスフレームが選択されている必要があります（P.62）。マニュアル撮影モード M の場合、メニューで初期設定のワンショットAFが選択されている必要があります。

1.ピントを合わせたいものに、P.62〜63で選んだセンサーを合わせてシャッターボタンを半押しします。
● ピントが固定され、ローカルフォーカスフレームが赤くなります。液晶モニターには白色の ○ が点灯（ファインダー横の緑ランプも点灯）します。
● マニュアル撮影モードでワンショットAFになっている場合は、ピントを合わせたいものを［　］に合わせます。

2.シャッターボタンを半押ししたまま、構図を変えます。

3.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ピントと同時に露出も固定されます（シャッター速度と絞り値が黒く反転します）。
● シャッターボタンから手を離すと、固定されたピント位置は解除されます。

マニュアル撮影モード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが M 位置（マニュアル撮影モード）にあるときの各種設定について説明しています。
マニュアル撮影モードでは、撮影時のカメラの機能のほとんどを使うことができます。より表現の幅を広げたい場合にお使いください。

ダイヤルを M 位置（マニュアル撮影モード）にしていると、液晶モニターの左上に M が現れます。

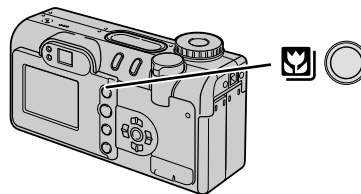
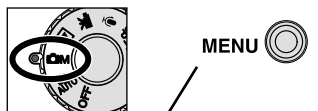
マニュアル撮影モードについて

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを M に合わせると、マニュアル撮影モードになります。マニュアル撮影モードでは、撮影時のカメラの機能のほとんどを使うことができます。一部の基本的な設定しかできないオート撮影モード（P.48）に対し、より表現の幅を広げたい場合に便利です。

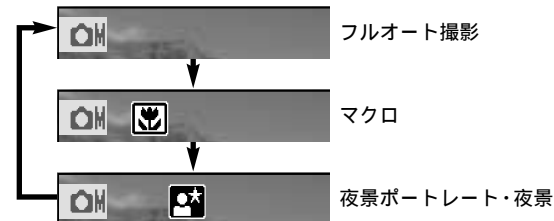
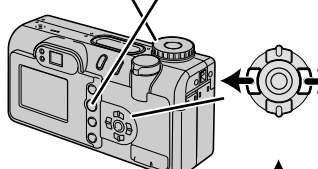
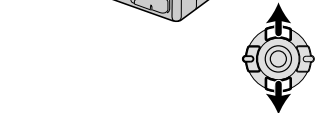
オート／マニュアル撮影モードで、設定可能な機能はそれぞれ以下の通りです。

項目	オートでの設定	マニュアルでの設定	説明	ページ
ズーム	可能	可能	—	26
フラッシュモード	可能	可能	—	31
フルオートシーンセレクター	可能	不可能	マニュアル撮影モードではできません。	32
撮影シーンの選択	可能	一部可能	オート／マニュアル撮影モードで内容が異なります。	33
露出補正	可能	可能	—	36
液晶モニター表示の切り替え	可能	可能	—	37
クイックビュー	可能	可能	—	38
ドライブモード	可能	可能	—	40
オート撮影モードメニュー	可能	可能	オート撮影モードメニューはすべてマニュアル撮影モードメニューにも含まれています。	50
ローカルフォーカスフレームの選択	可能	可能	—	62
フォーカスロック撮影	可能	可能	—	64
マニュアル撮影モードメニュー	不可能	可能	—	68

● マニュアル撮影モードは、撮影者が設定を変更することを前提として設計されています。よって、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルでモードを切り替えたりカメラをOFFにしたりしても、いったん行なった設定は保存されています。

マニュアル撮影モードでのシーンセレクター

マニュアル撮影モード M では、フルオートシーンセレクター（P.32）は機能しません。

撮影シーンの選択（P.33）で、マクロおよび夜景ポートレート・夜景のみ選ぶことができます。

オート撮影モードと同じく、シーンセレクターボタンを押して希望のモードを選びます。

撮影方法はオート撮影モードと同じです。
→マクロ P.34、夜景ポートレート・夜景 P.35

マニュアル撮影モードメニュー

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがマニュアル撮影モード位置 M にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1.マニュアル撮影モード位置 M で、メニューボタンを押します。

●メニュー画面が現れます。

2.十字キーの左右で、「基本」「応用1」「応用2」のいずれかを選びます。

3.十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

4.十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

5.十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

6.十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

画像ｴﾌｪｸﾄ –
ﾎﾞｲｽﾒﾓ あり
日付写し込み なし
ｱﾌﾀｰﾋﾞｭｰ なし

7.メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

●シャッターボタンの半押しでも戻ります。

基本	
露出モード（P.70）	○P（プログラム）
	A（絞り優先）
	S（シャッター優先）
	M（マニュアル）
画像サイズ※（P.52）	○2272×1704
	1600×1200
	1280×960
	640×480
画質※（P.54）	TIFF
	ファイン
	○スタンダード
	エコノミー
ホワイトバランス（P.76）	カスタム設定
	カスタム呼び出し
	○AUTO
	プリセット
撮像感度（P.79）	ISO800
	ISO400
	ISO200
	ISO100
	○AUTO

●上記※印のメニュー項目は、オート撮影モードメニュー（P.50）と共通です。これらの項目は、マニュアル撮影モードメニューで設定を変更した場合、オート撮影モードでも自動的に同じ設定に変更されます。逆も同様です。

●メインスイッチ／モード切り替えダイヤルでモードを切り替えたりカメラをOFFにしたりしても、メニュー設定は保存されています。

応用1	
AFモード（P.80）	○ワンショットAF
	追尾AF
	マニュアルフォーカス
フルタイムAF（P.82）	あり
	○なし
調光補正（P.83）	＋0.3 ～ ＋2.0 ○0 －2.0 ～ －0.3
測光モード（P.84）	○多分割
	中央重点平均
	スポット
デジタルズーム※（P.57）	あり
	○なし

応用2	
カラーモード（P.86）	○標準カラー
	ビビッドカラー
	モノクロ
	セピア
画像エフェクト（P.87）	シャープネス
	コントラスト
	彩度
ボイスメモ（P.90）	あり
	○なし
日付写し込み※（P.59）	あり
	○なし
アフタービュー※（P.60）	10秒
	2秒
	○なし

○印は初期設定値です。

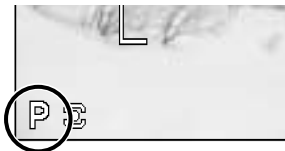
露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。

P（プログラム）モード　シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。
A（絞り優先）モード　希望の絞り値を決めることができます。
S（シャッター速度優先）モード　希望のシャッター速度を決めることができます。→P.72
M（マニュアル）モード　希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。→P.74

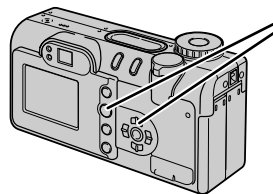
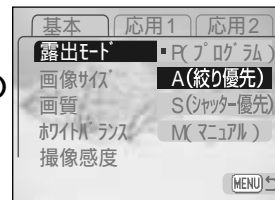
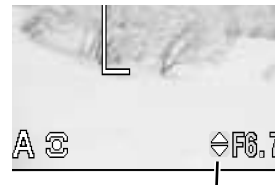
● A、S、Mモードでは、フラッシュは自動発光しません。→ P.75

P（プログラム）モード

シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができるので、スナップ写真など一般撮影に最適です。初期設定はPモードです。

A（絞り優先）モード

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に8などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「基本」→「露出モード」から「A（絞り優先）モード」を選び、実行ボタンを押します。
● 液晶モニターに絞り値が青く表示されます。

2. 十字キーの上下で、希望の絞り値を選びます。
● 以下の範囲から選ぶことができます。
広角側：2.8〜8
望遠側：4.7〜8

十字キー上下で変更する、の意味

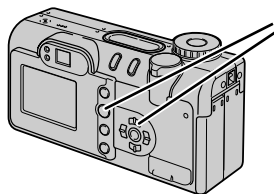
※Aモード撮影でフラッシュを使う場合は →P.75

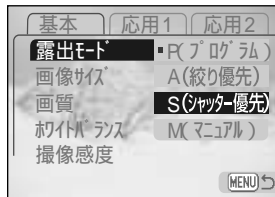
● マニュアルフォーカス（P.81)を設定しているときは、十字キーの上下で絞り値を変更するか、マニュアルフォーカスのピント合わせをするかを実行ボタンを押して切り替えます。設定を変更できる方が青く表示されます。
● 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります（手ぶれ警告 が表示されます）。三脚を使って撮影されることをおすすめします。
● シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が赤くなる場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に白く表示される範囲内で絞り値を設定してください。
● 被写体の状況によっては、絞り値を変えても、それに連動してシャッター速度が変化しないことがあります。これは、表示されている以上に細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には数値が白く表示されていれば適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

S（シャッター速度優先）モード

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「基本」→「露出モード」から「S（シャッター速度優先）モード」を選び、実行ボタンを押します。

● 液晶モニターにシャッター速度が青く表示されます。

2. 十字キーの上下で、希望のシャッター速度を選びます。

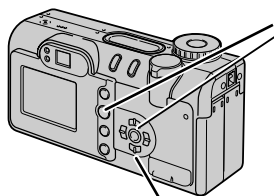
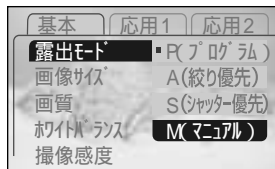
● 15秒〜1/1000秒の範囲から選ぶことができます。2″、4″など「″」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。

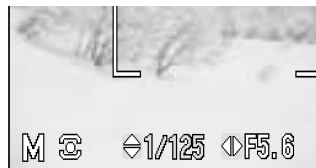
十字キー上下で変更する、の意味

※Sモード撮影でフラッシュを使う場合は →P.75

● マニュアルフォーカス（P.81）を設定しているときは、十字キーの上下でシャッター速度を変更するか、マニュアルフォーカスのピント合わせをするかを実行ボタンを押して切り替えます。設定を変更できる方が青く表示されます。
● シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が赤くなる場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に白く表示される範囲内でシャッター速度を設定してください。
● Sモードでは手ぶれ警告は表示されません。
● シャッター速度が1秒以上の場合、露光（撮影）終了後に続けてノイズ軽減処理が行われます。処理中は「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れます。→P.149
● バルブ撮影（長時間露光）はMモードで行なってください。→P.74、92
● 被写体の状況によっては、シャッター速度を変えても、それに連動して絞り値が変化しないことがあります。これは撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

M（マニュアル）モード

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「基本」→「露出モード」から「M（マニュアル）モード」を選び、実行ボタンを押します。

2. 十字キーの上下で、希望のシャッター速度を選びます。

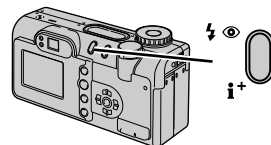
- シャッター速度は、15秒〜1/1000秒の範囲から選ぶことができます。15秒の次にはbulb（バルブ撮影、P.92）が表示されます。

3. 十字キーの左右で、希望の絞り値を選びます。

- 絞り値は、以下の範囲から選ぶことができます。
  広角側：2.8〜8
  望遠側：4.7〜8

- マニュアルフォーカス（P.81)を設定しているときは、十字キーの上下でシャッター速度を変更するか、マニュアルフォーカスのピント合わせをするかを実行ボタンを押して切り替えます。設定を変更できる方が青く表示されます。

※Mモード撮影でフラッシュを使う場合は →次ページ

- Mモードでフラッシュを発光させない場合は、設定されたシャッター速度と絞り値に応じて画面の明るさが変化します。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー／アンダーになる場合は、シャッターボタンを半押しするとシャッター速度と絞り値の両方が赤く点灯します。フラッシュを発光させる場合は、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るくなります。
- シャッター速度が1秒以上の場合、露光（撮影）終了後に続けてノイズ軽減処理が行われます。処理中は「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れます。→P.92
- Mモードでは、撮像感度（P.79）をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。
- Mモードでは手ぶれ警告は表示されません。
- Mモードでの露出補正（P.36）はできません。

A、S、Mモード時のフラッシュ

A、S、Mモードでは、フラッシュは自動発光しません。フラッシュモードボタンを押すたびに、フラッシュは以下の順序で切り替わります。

強制発光
フラッシュは必ず発光します。

赤目軽減強制発光
フラッシュは必ず発光します。撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのを和らげます。

発光禁止
フラッシュは発光しません。液晶モニターにが現れたとき（ファインダー横オレンジランプはゆっくり点滅）は、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

※液晶モニターと上面データパネルで表示は多少異なります。

※通常のフラッシュモードについて →P.31

- フラッシュを使用する場合、AモードやMモードで絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。※フラッシュ光の届く範囲 →P.30

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽく写ったり黄色っぽく写ったりします。これを白く写るように調整するのがホワイトバランスです。AUTO（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択したり、独自の設定を登録したりすることもできます。

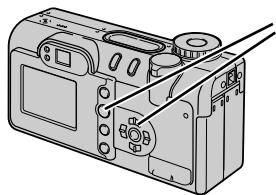
AUTO（オート）	ホワイトバランスは自動的に調整されます。
プリセット	昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯の4つから光源を選ぶことができます。
カスタム	独自のホワイトバランス設定を登録することができます。

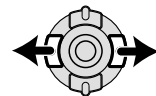
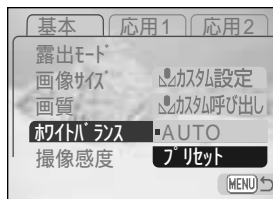
AUTO（オート）

ホワイトバランスは自動的に調整されます。初期設定はAUTO（オート）です。

● オートの場合、液晶モニターには表示は現れません。（ヒストグラム表示にはAWBと表されます。→P.105）

プリセット

被写体を照射している光源を選ぶことができます。AUTOで思うような色が出ないときにお使いください。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「基本」→「ホワイトバランス」から「プリセット」を選び、実行ボタンを押します。

● 液晶モニターに光源が表示されます。

2. 十字キーの左右で、希望の光源を選びます。

- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯

十字キー左右で設定変更、中央で完了する、の意味

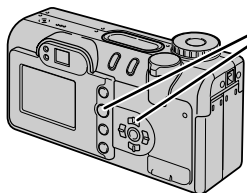
3. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

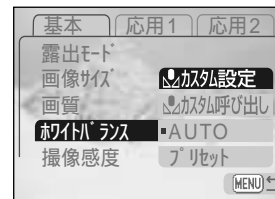
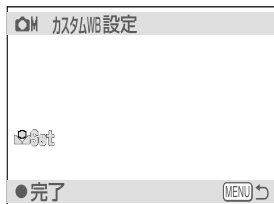
● 液晶モニターに選んだ光源が表示されます。

● 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

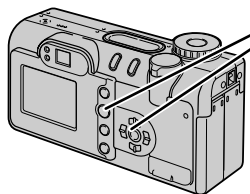
複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

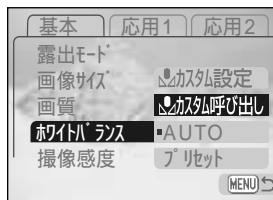
カスタムホワイトバランスを設定する

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「基本」→「ホワイトバランス」から「カスタム設定」を選び、実行ボタンを押します。

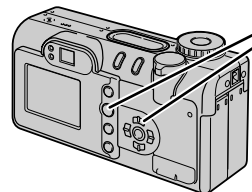
● カスタムホワイトバランスの設定画面が現れます。

次ページへ続く

2.白く写したいものが画面いっぱいになるような構図にして、十字キー中央の実行ボタンを押し込みます。

- ピントを合わせる必要はありません。
- 撮影はされません。ここで画面に入れたものが白くなるようなホワイトバランスに設定されます。
- 設定後は、カスタムホワイトバランスでの撮影になります。

- この操作で設定されたカスタムホワイトバランスは、次に同じ操作で別のカスタムホワイトバランスが設定されるまで有効です（メインスイッチOFFでもキャンセルされません）。
- 設定値リセット（P.147）をすると、それまでに設定したカスタムホワイトバランスは初期化されます。

いったん設定したカスタムホワイトバランスを呼び出す

P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「基本」→「ホワイトバランス」から「カスタム呼び出し」を選び、実行ボタンを押します。

- 液晶モニターに が表示されます。

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。AUTO（オート）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、画像が粗くなります。初期設定はAUTO（オート）です。

P.66の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「基本」→「撮像感度」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

- 感度は以下から選ぶことができます。
  AUTO（オート）、ISO 100、200、400、800

- AUTO（オート）の場合、液晶モニターや上面データパネルには表示は現れません。撮像感度は、ISO100〜200の範囲で自動的に設定されます。Mモード時にはISO 100で固定されます。
- AUTO（オート）以外を設定した場合は、液晶モニターに ISOと数値が表示されます。

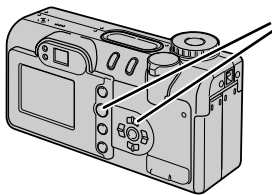
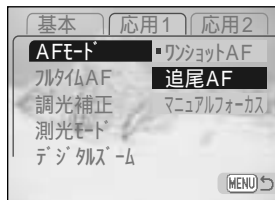
撮像感度を変更すると、フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。

撮像感度（フィルム換算値）	フラッシュの調光距離	
	広角側	望遠側
AUTO（オート）	0.5〜3.4m	0.5〜2.0m
ISO 100	0.5〜2.4m	0.5〜1.4m
ISO 200	0.5〜3.4m	0.5〜2.0m
ISO 400	0.5〜4.8m	0.5〜2.8m
ISO 800	0.5〜6.8m	0.5〜4.0m

AFモード

AF*モード（オートフォーカスモード）を、以下の3つから選ぶことができます。

ワンショットAF　シャッターボタン半押しでピントを合わせ、そのまま固定します。
追尾AF　シャッターボタンを半押し中は、被写体が動いてもピントを合わせ続けます。
マニュアルフォーカス　撮影者が手動でピントを合わせます。

*AF＝Autofocus（オートフォーカス）の略

P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用1」→「AFモード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

ワンショットAF

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピントはそこで固定されます。静止している被写体の撮影や、ピントを固定させたまま構図を変えるとき（フォーカスロック撮影、P.64）に適しています。マニュアル撮影モードでは、ワンショットAFが初期設定です。

● ワンショットAFでピントが合うと、液晶モニター右下には ○ が点灯します。

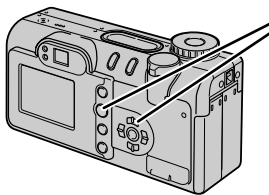
追尾AF（自動追尾AF）

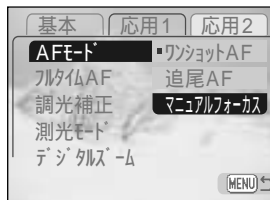
シャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせる被写体が決まります。被写体が決まると、その被写体が静止していても動いていても、シャッターボタンの半押しを続けている限りピントが合い続けます。また、ローカルフォーカスフレームを選択してピントを合わせても、同様にシャッターボタンの半押しを続けている限りピントが合い続けます（ターゲットセレクト機能）。動き回る子供やペットの一番いい表情を狙いたいときに便利です。

● 追尾AFでピントが合うと、液晶モニター右下には ((○)) が点灯します。

● オート撮影モードでは自動的に追尾AFになります。詳しくはオート撮影モードでのピント合わせをご覧ください。→P.28

マニュアルフォーカス

オートフォーカスを使わずに、被写体までの距離を自由に設定することができます。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用1」→「AFモード」から「マニュアルフォーカス」を選び、実行ボタンを押します。

● 液晶モニターはマニュアルフォーカス設定画面になります。

2. 十字キーの上下で、ピントを合わせます。

● 画面中央部が一時的に約2.5倍に拡大され、ピントの状態を見やすくします。（デジタルズーム2.5倍以上設定時は拡大されません。）

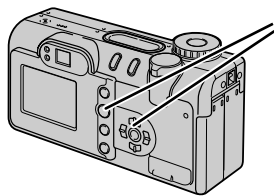
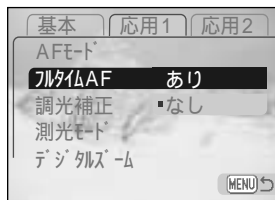
● 約2秒間何も操作しないか、シャッターボタンを半押しすると、元の画面に戻ります。

● A、S、Mモードでマニュアルフォーカス(p.81)を設定しているときは、十字キーの上下でシャッター速度を変更するかマニュアルフォーカスのピント合わせをするかを実行ボタンを押して切り替えます。設定を変更できる方が青く表示されます。

● 液晶モニターの画像を見ながらピント合わせを行なってください（画面右側のピント位置表示はピント位置の目安です）。液晶モニターが消灯しているとマニュアルフォーカスはできません。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フルタイムAF

フルタイムAFを機能させせると、シャッターボタンを半押ししなくても、フォーカスフレーム内のものに常にピントが合い続けます。

P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用1」→「フルタイムAF」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

フルタイムAF あり

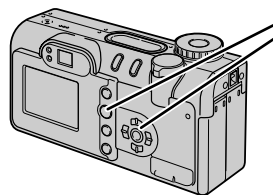
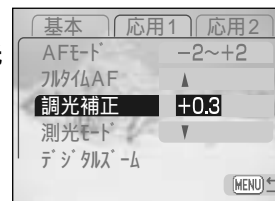
シャッターボタンを半押ししなくても、フォーカスフレーム内のものに常にピントを合わせ続けます。フルタイムAFなしと比べて、より速いピント合わせが可能です。常にピントの合った状態で構図を確認したい場合にも便利です。

- 液晶モニターを消灯時には、フルタイムAFは機能しません。
- フルタイムAFなしと比べると、電池の寿命がやや短くなることがあります。

フルタイムAF なし

シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。電池を節約したいときや、静かに撮影したい場合に便利です。初期設定はフルタイムAFなしです。

調光補正

フラッシュが発光する場合は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正と同じく、−2.0〜＋2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。

P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用1」→「調光補正」から希望の数値を選択し、実行ボタンを押します。

- 0以外に設定すると、設定後、液晶モニターに と数値が表示されます。

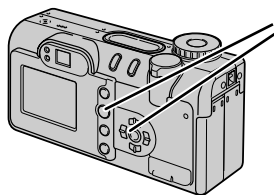
露出補正と調光補正の違い

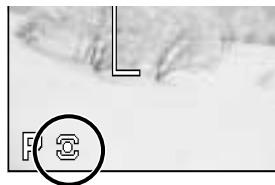
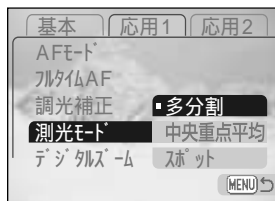
露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（−側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

- フラッシュの光量には限りがあるため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

測光モード

測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を以下の3つの中から選ぶことができます。

	多分割測光	画面を細かく分割して測光します。
	中央重点的平均測光	画面の中央部に重点を置きながら、全体の明るさを平均的に測光します。
	スポット測光	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行ないます。

P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用1」→「測光モード」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

● 測光モードは、液晶モニター内左下に表示されます。

多分割測光

CCDを細かく分割（256分割）して測光を行ないます。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

中央重点的平均測光

画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→P.36

スポット測光

画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。

● 測光したい部分が画面中央にないときは、フォーカスロック撮影を行なってください。→P.64

スポット測光サークル

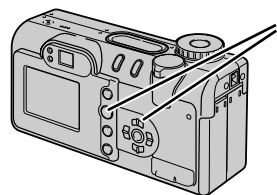
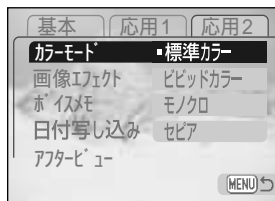
カラーモード

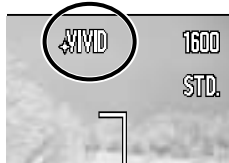
撮影する画像の色を、標準カラー、ビビッド、モノクロ、セピアの中から選ぶことができます。
● 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

標準カラー　：24bitの通常のカラー画像として記録されます。初期設定は標準カラーです。

VIVID ビビッド　：24bitのカラー画像ですが、より色が鮮やかに再現されるように、彩度とコントラストが調整されます。
● 彩度が高い被写体の場合、ビビッドカラーにすると再現できる限界を超えてしまい、階調が表現されないことがあります。

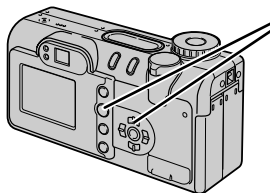
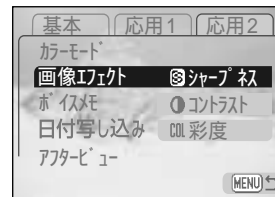
B W モノクロ　：白黒画像として記録されます。
● モノクロにしてもファイルサイズは標準カラーとほぼ同じです。

SEPIA セピア　：セピア調の画像として記録されます。
● セピアにしてもファイルサイズは標準カラーとほぼ同じです。

1. P.66の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用2」→「カラーモード」から希望の設定を選びます。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。
● 液晶モニターに選んだ設定が表示されます。

VIVID 鮮やかなカラー画像
B W モノクロ画像
SEPIA セピア調の画像

画像エフェクト

撮影画像のシャープネス（鮮鋭度）、コントラスト、彩度を調整することができます。
● 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

シャープネス

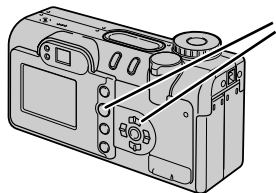
撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。3段階から選択することができます。
＋（ハード）：　輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準：　標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
－（ソフト）：　輪郭のやわらかな画像になります。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用2」→「画像エフェクト」から「シャープネス」を選び、実行ボタンを押します。
● シャープネスの設定画面が現れます。

2. 十字キーの左右で、希望の設定を選びます。

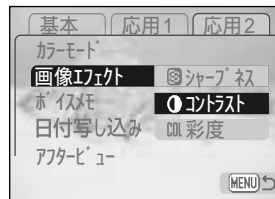
S＋　ハード
S　標準
S－　ソフト

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。
● 標準以外を選択した場合、液晶モニターに選んだ設定が表示されます。

コントラスト

撮影する画像のコントラスト（明暗差）を調整することができます。3段階から選択することができます。

＋（強い）：　コントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。
標準：　標準的なコントラストの画像になります。初期設定は標準です。
－（弱い）：　コントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用2」→「画像エフェクト」から「コントラスト」を選び、実行ボタンを押します。

● コントラストの設定画面が現れます。

2. 十字キーの左右で、希望の設定を選びます。

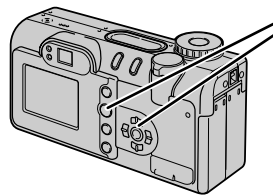
◑＋　強い
◑　標準
◑－　弱い

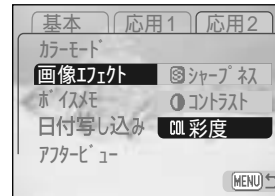
3. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

● 標準以外を選択した場合、液晶モニターに選んだ設定が表示されます。

彩度

彩度（色の鮮やかさ）を調整します。3段階から選択することができます。

＋（あざやか）：　彩度が強くなります。色鮮やかでくっきりとした画像になります。
標準：　標準的な彩度の画像になります。初期設定は標準です。
－（おちついた）：　彩度が弱くなります。落ち着いた画像になります。

1. P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用2」→「画像エフェクト」から「彩度」を選び、実行ボタンを押します。

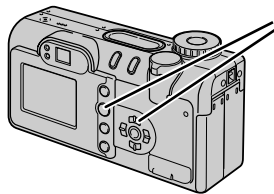
● 彩度の設定画面が現れます。

2. 十字キーの左右で、希望の設定を選びます。

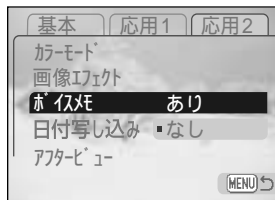
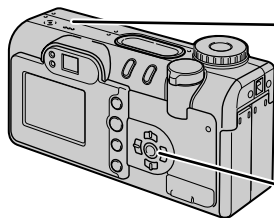
COL＋　あざやか
COL　標準
COL－　落ち着いた

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

● 標準以外を選択した場合、液晶モニターに選んだ設定が表示されます。

ボイスメモ

撮影した画像に、最長15秒間の音声メモを付けることができます。撮影のメモ代わりなどにお使いいただけます。撮影直後に録音が始まります。

P.68の要領で、マニュアル撮影モードメニュー →「応用2」→「ボイスメモ」から「あり」を選び、実行ボタンを押します。

● ボイスメモを設定すると、液晶モニターにが表示されます。

撮影方法

1.撮影します。

● 直後に右の画面が現れ、録音が始まります。

2.マイクに向かって話します。

● マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

3.録音を終了するには、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 15秒間経過すると、録音は自動的に終了します。

● ボイスメモを付けた画像にはが表示されます。音声を再生するには、再生モードあるいはクイックビューで画像を表示させ、十字キー中央の実行ボタンを押してください。→P.108

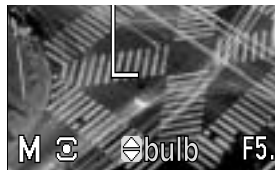
● アフタービュー設定時は、アフタービュー表示後すぐに録音が始まります。

● 連続撮影、ブラケット撮影の場合は、最終コマにのみボイスメモを付けることができます。動画に付けることはできません。

バルブ（長時間露光）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります（最長15秒）。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。Mモードでのみ撮影可能です。→P.74

1.Mモード撮影で、シャッター速度で「bulb」を選びます。

● 15秒からさらに長秒時側に下キーを押してください。

2.必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● 露光（撮影）中は液晶モニターは消灯します。

● 15秒経過すると、シャッターボタンを押し続けていても自動的に撮影は終了します。

● カメラぶれを少なくするため、付属のリモコンの使用をおすすめします（P.42）。リモコンを使う場合、

撮影ボタンの場合：　一度押すと露光が開始され、再度押すと終了します。

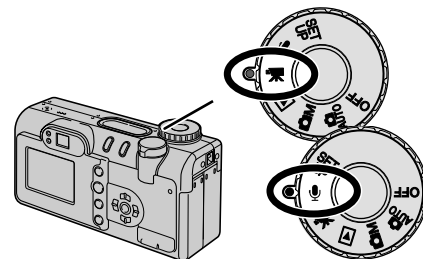
2秒後撮影ボタンの場合：　一度押すと2秒後に露光が開始され、再度押すとすぐに終了します。

いずれの場合も、ボタンを押し続ける必要はありません。

1秒以上の撮影を行なう場合の画面について

シャッター速度が1秒以上の場合は、露光（撮影）終了後に続けてノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます。ノイズリダクション中（約3～25秒程度、シャッター速度によって異なる）は、液晶モニターが消灯し、右のメッセージが現れます。この間は次の撮影はできません。

ﾉｲｽﾞﾘﾀﾞｸｼｮﾝ実行中

● 撮影のタイミングを優先させたい場合は、ノイズリダクションをなしにして、ノイズ軽減処理をせずに、すぐに次の撮影を行なうことができます。→P.149

動画撮影モード
ボイスレコード

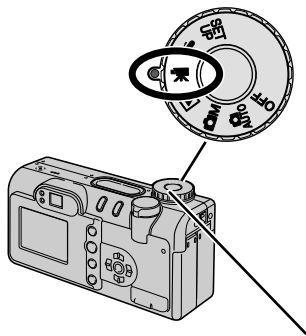
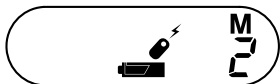
この章では、動画撮影モード（メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが動画位置）と、ボイスレコード（メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがマイク位置）について説明しています。

動画撮影モードでは、動画の撮影ができます。ボイスレコードでは、音声の記録ができます。

ダイヤルを動画位置またはマイク位置にしていると、液晶モニターの左上にそれぞれの表示が現れます。

ズームレバーをW側に押しながらダイヤルをOFFからマイクにすると、途中の撮影モードでレンズが出て来ません。ボイスレコードの録音に便利です。

動画撮影

動画撮影を行なうことができます。カードの容量がなくなるまで連続して撮影することが可能です。
- 動画のファイルサイズは、初期設定（画像サイズ320×240）で1秒あたり約340KB、画像サイズを小さくする（160×120）と約85KBです。128MBのカードには、それぞれ約6分間／約22分間記録することができます。 画像サイズを変更するには→P.96
- 長時間の撮影にはACアダプタ（別売り）のご使用をおすすめします。付属のニッケル水素電池では、約170分までの撮影が可能です。

1. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを 🎥 に合わせます。
- 液晶モニターと上面データパネルに、撮影可能な残り時間が表示されます（上面データパネルのMは分、Sは秒の意味）。

2. シャッターボタンを押して撮影を開始させます。
- 撮影中は●Recが表示され、残り時間が減っていきます。

3. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。
- 残り時間が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。
- 撮影された動画は、再生モードで、十字キー中央の実行ボタンを押すと再生されます。→P.109

ズームについて
- 動画撮影開始前は、通常のズーム（光学ズーム）とデジタルズームの両方が可能です。
- 動画撮影中は、デジタルズームのみ可能です。
- 撮影モードでのデジタルズームの有無にかかわらず、動画では常にデジタルズームが可能です。

ピントについて
- ピント位置は、動画撮影開始時に固定されます。
- マクロ撮影やマニュアルフォーカス撮影はできません。

その他の動画撮影時に可能な設定
- 露出補正の設定は可能です。
- 以下の機能は、動画撮影メニューでの設定が可能です。
  画像サイズ（P.96）、ホワイトバランス（P.97）、ナイトムービー（P.97）

その他の動画撮影時に固定される設定
- 動画撮影時には、以下の機能は（　　）内の設定に固定されます。変更はできません。
  フォーカスエリア（ワイドフォーカスフレーム）、露出モード（Pモード）、測光モード（多分割）、撮像感度（オート）、ファイル形式（Motion JPEG / MOV）
- 以下の機能は、動画撮影時には使用できません。
  フラッシュ、シーンセレクター、画像エフェクト、日付写し込み

- 付属のリモコンで動画撮影の操作を行なうことができます（P.42）。リモコンを使う場合は、
  撮影ボタンの場合：　　一度押すと動画撮影が開始され、再度押すと終了します。
  2秒後撮影ボタンの場合：一度押すと2秒後に動画撮影が開始され、再度押すとすぐに終了します。
  またリモコンで動画撮影の操作を行なう場合、開始時と終了時にはカメラ前面のリモコン作動表示ランプが点灯します。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の 🔋 が点灯している場合）は、動画撮影はできません。
- カードへの記録速度の関係上、カードによってはまれに、撮影残り時間があっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。
- 暗い場所で撮影する場合に、画面を見やすくすることができます（P.97）。

動画撮影モードメニュー

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが動画撮影モード位置 にあるときにメニューボタンを押すと、右の設定が可能です。操作方法はオート撮影モードメニューと同じです。→P.50

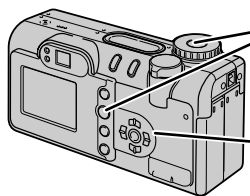
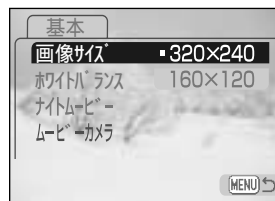
- ここでの画像サイズとホワイトバランスの設定は、動画のみに影響します。オート／マニュアル撮影モードでの設定には影響しません。
- 画像サイズとナイトムービーについては、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルでモードを切り替えたりカメラをOFFにしたりしても、設定は保存されています。
- ムービーカメラは、画像を外部出力する場合に便利にお使いいただける機能です。

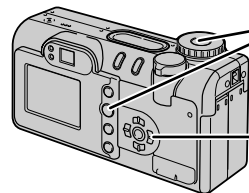
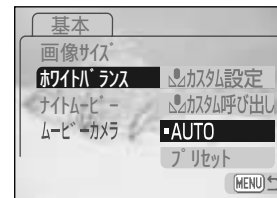
基本	
画像サイズ（P.96）	○320×240
	160×120
ホワイトバランス（P.97）	カスタム設定
	カスタム呼び出し
	○AUTO
	プリセット
ナイトムービー（P.97）	ON
	○OFF
ムービーカメラ（P.98）	ON
	○OFF

○印は初期設定値です。

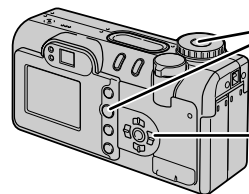
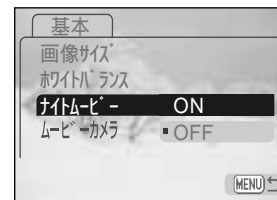
画像サイズ

動画の画像サイズを指定することができます。画像サイズを小さくすると画質は落ちますが、連続撮影時間が長くなります。

16MBのカード使用時　320×240：連続最長41秒までの動画撮影が可能です。
16MBのカード使用時　160×120：連続最長2分30秒までの動画撮影が可能です。

1. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを に合わせ、メニューボタンを押します。
2. P.50の2以降の要領で、動画撮影モードメニュー →「画像サイズ」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。
   - 選んだ画像サイズは、液晶モニターで大きい方の数値で表示されます。

ホワイトバランス（動画撮影メニュー）

動画のホワイトバランスを指定することができます。

1. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを に合わせ、メニューボタンを押します。
2. P.50の2以降の要領で、動画撮影モードメニュー →「ホワイトバランス」から希望の設定を選び、実行ボタンを押します。
   - 液晶モニターに選んだ光源が表示されます。

プリセット・カスタムホワイトバランスの操作方法については、マニュアル撮影モードメニューと同様です。→P.76

ナイトムービー

暗い場所で動画撮影を行なうと、被写体が暗いので撮影画像は見にくくなります。ナイトムービーをONにすると、感度を上げて撮影するので、暗い場所でもモニター画面や撮影画像が見やすくなります。

1. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを に合わせ、メニューボタンを押します。
2. P.50の2以降の要領で、動画撮影モードメニュー →「ナイトムービー」から「ON」を選び、実行ボタンを押します。

- ナイトムービーをONにすると、暗い場面ではノイズが増加し、多少ざらついた感じになることがあります。

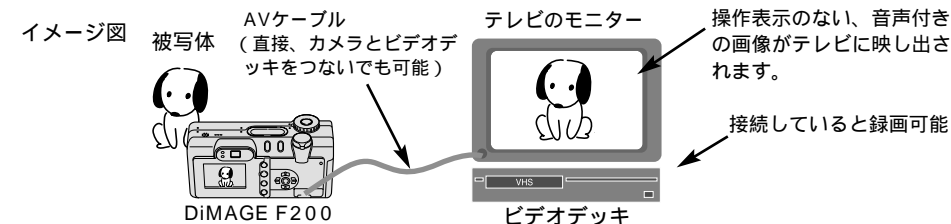
ムービーカメラ(画像の外部出力)

カメラのファインダーや液晶モニターで見える画像を、AVケーブルを介して外部出力し、テレビに映し出したり、そのままビデオテープやDVDに録画することができます。ムービーカメラ「OFF」でも可能ですが、「ON」にするとより便利にこの機能をお楽しみいただけます。パーティーシーンなどでご活用ください。

ムービーカメラをONにすると

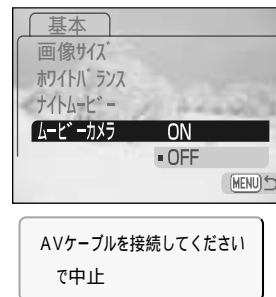
- テレビや録画画像には、操作用のアイコンや表示が表れません。
- 音声も画像と同じく外部出力されます。
- AVケーブルをつないでも、カメラ背面の液晶モニターは消灯しないので(NTSCのみ、PALは消灯→P.151)、カメラで構図を確かめることができます。

テレビに映し出したりビデオに録画すると、SDメモリーカードに動画を記録するよりも、より動きがなめらかな画像となります。

ムービーカメラがONの場合は、SDメモリーカードに動画は記録されません。

1. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを 🎥 に合わせ、メニューボタンを押します。

2. P.50の2以降の要領で、動画撮影モードメニュー →「ムービーカメラ」から「ON」を選び、実行ボタンを押します。

- 右のメッセージが現れます。

AVケーブルを接続してください
●で中止

3. カメラとテレビを、付属のAVケーブルで接続します。

- 接続の方法については、110ページの1～4のステップをご覧ください。

4. AVケーブルを接続すると、自動的にテレビなどへの画像の出力が開始されます。

ムービーカメラを開始します

- 右のメッセージが数秒間現れた後、カメラのファインダーや液晶モニターから見える画像が、テレビの画面にそのまま出力されます。
- SDメモリーカードに画像は記録されません。

5. ビデオデッキなどの録画開始の操作をすると、テレビの映像が録画されます。

- テレビとビデオデッキなどが接続されている必要があります。操作方法については、各々の使用説明書をお読みください。

設定変更可能な機能

- ムービーカメラを使って画像を外部出力中(テレビへ画像を映し出したりビデオなどに録画している間）に、以下のような設定を行うことが可能です。カメラを操作すると、「ムービーカメラを停止します」のメッセージが数秒間現れ、操作画面へ移ります。ビデオデッキなどで録画している場合は、テレビやカメラに映し出される設定用の操作画面(メニュー画面など)もビデオテープなどに録画されるので必要に応じて録画を停止してください。

動画メニューのナイトムービー（P.97）、ホワイトバランス（P.97）

ナイトムービー、ホワイトバランスの設定変更が可能です。メニューボタンを押すとメニュー画面へ移ります。元の画面に戻るにはメニューボタンを押してください。

光学ズーム（P.26）、デジタルズーム（P.57）

通常のズーム(光学ズーム)とデジタルズームの両方が可能です。ズームレバーをT側に押して、画像を拡大させてください。PAL(P.151)の場合、カメラの液晶モニターでデジタルズームを確認することはできません。元の画面に戻るにはズームレバーをW側に押してください。

露出補正（P.36）

露出補正が可能です。左右キーを押すと操作画面に移ります。元の画面に戻るには、中央ボタンを押してください。

ムービーカメラ（続き）

● 液晶モニターボタン |□| を押して、カメラ背面の液晶モニターを消灯させると、電池の消耗を減らすことができます。

● ムービーカメラ中にAVケーブルが外れてしまった場合、すぐにケーブルを接続しなおせば、続けてムービーカメラを使うことができます。10分間、AVケーブルを外して放置した場合は、「ムービーカメラを停止します」のメッセージが現れ自動的に通常の動画モードに戻ります。

● 長時間の撮影にはACアダプタ(別売り)のご使用をおすすめします。付属の電池では、約170分の撮影が可能です。

6.ムービーカメラを終了するには、メニューで「ムービーカメラ」からOFFを選び、実行ボタンを押します。

● 右のメッセージが現れ、ムービーカメラは終了し通常の動画モードになります。

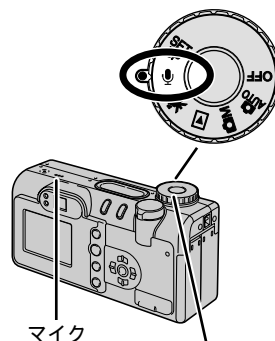
● メインスイッチ／モード切り替えダイアルを動画以外にしても、ムービーカメラはOFFになります。

ムービーカメラを停止します

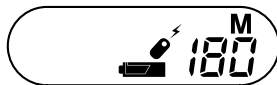
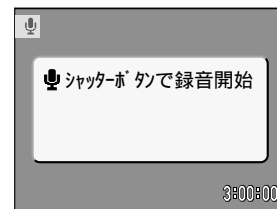
7.AVケーブルをカメラとテレビから外します。

ボイスレコード

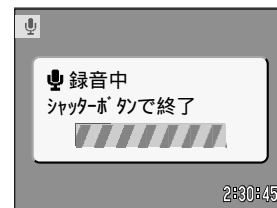
連続最長3時間*までの、音声のみの録音ができます。

*3時間の録音を行なうには、128MB以上のSDメモリーカードが必要です。またこの場合は、ACアダプタの使用をおすすめします。→P.21

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを 🎙 に合わせます。

● 液晶モニターと上面データパネルに、撮影可能な残り時間が表示されます（上面データパネルのMは分、Sは秒の意味）。

● ズームレバーをW側に押しながらダイヤルを回すと、レンズが前方に伸びません。

2.シャッターボタンを押して録音を開始させます。

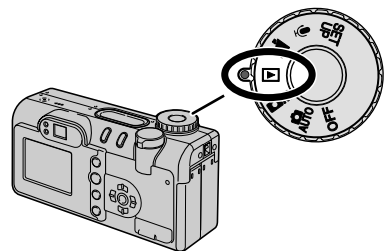
● 録音中は液晶モニターに表示された残り時間が減っていきます。

● 声を録音するときは、マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

3.録音を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 残り時間が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に録音が終了します。

● 録音された音声は、再生モードで、十字キー中央の実行ボタンを押すと再生されます。→P.108

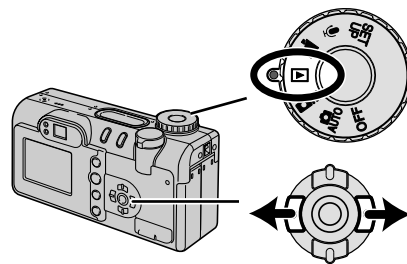
● 付属のリモコンでボイスレコードの開始・終了を行なうことができます（P.42）。リモコンの撮影ボタンを押すと直ちに、2秒後撮影ボタンを押すと約2秒後に録音が開始します。終了させるときは、どちらのボタンを押しても直ちに録音が終了します。

再生モード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが▶位置（再生モード）にあるときの各種設定について説明しています。
再生モードでは、通常の画像はもちろん、動画などの再生もできます。再生に関するさまざまな設定も可能です。

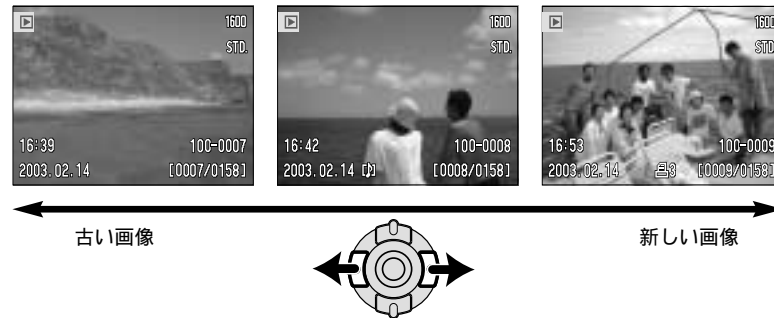
ダイヤルを▶位置（再生モード）にしていると、液晶モニターの左上に▶が現れます。

上面データパネルには、PLy（Playback、再生の意味）の文字が現れます。

ズームレバーをW側に押しながらダイヤルをOFFから▶にすると、レンズが前方に伸びません。再生のみ行なう場合に便利です。

1コマ再生

再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

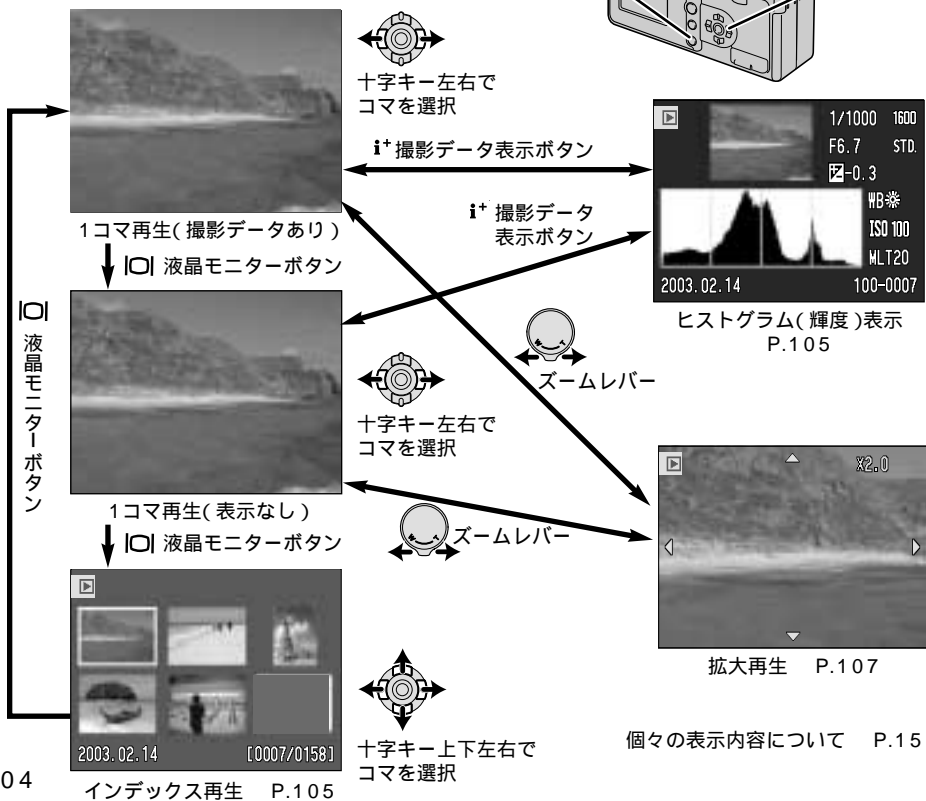
古い画像　　　　　新しい画像

- 十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
- クイックビュー（P.38）でも再生モードと同じ操作が可能です（インデックス表示・再生モードメニューを除く）。
- 動画の場合は動画開始時の画像が、ボイスレコードの場合は青い画面が表示されます。→P.108、109

液晶モニター表示の切り替え

再生モードおよびクイックビュー時には、液晶モニターボタン、撮影データ表示ボタン、十字キーにより、以下の通り画面の切り替えができます。

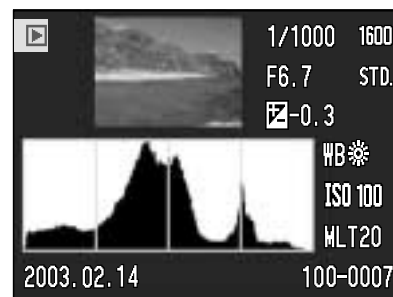
液晶モニターボタン
撮影データ表示ボタン
ズームレバー
十字キー

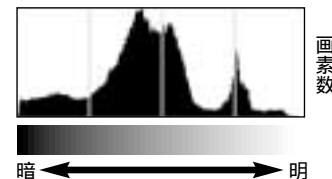
十字キー左右でコマを選択
i⁺撮影データ表示ボタン
1コマ再生（撮影データあり）
液晶モニターボタン
i⁺ 撮影データ表示ボタン
ヒストグラム（輝度）表示 →P.105
ズームレバー
十字キー左右でコマを選択
1コマ再生（表示なし）
液晶モニターボタン
ズームレバー
拡大再生 →P.107
液晶モニターボタン
十字キー上下左右でコマを選択
インデックス再生 →P.105

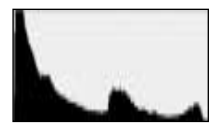
※個々の表示内容について →P.15

インデックス再生

6コマ分を一度に液晶モニターに表示します。十字キーの上下左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

- 動画の場合は動画開始時の画像が、ボイスレコードの場合は青い画面が表示されます。

ヒストグラム（輝度）表示

画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影データが表示されます。1コマ再生時およびクイックビュー中に撮影データ表示ボタンを押すと、ヒストグラム表示になります。

- 再度撮影データ表示ボタンを押すか、メニューボタンを押すとと元に戻ります。
- 左右キーを押すとコマを選択することができます。

- 動画やボイスレコードのヒストグラム表示はできません。左右キーでコマを選択中にいったん動画やボイスレコードを表示させると、次からはすべての画像が1コマ再生に戻ります。

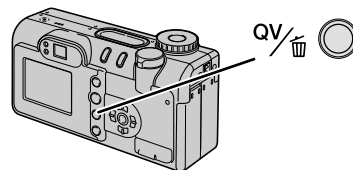
ヒストグラムについて

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

※画素について →P.53

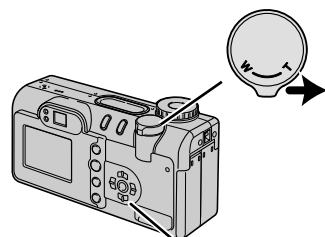
＋側に露出補正をかけると画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側だと逆にずれます。

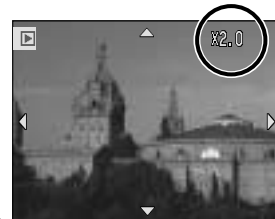
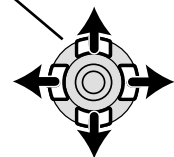
ヒストグラムの左右両端は、白または黒100%*を表します。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の階調を再現することはできません。

*正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

画像を手早く消去する

再生モード位置またはクイックビュー中にクイックビュー／消去ボタンを押すと、画像を1コマずつ簡単に消去することができます。操作方法についてはクイックビューの項目をご覧ください。→P.38

拡大再生

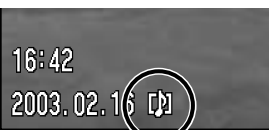
再生モードおよびクイックビュー中に、画像の一部を拡大することができます。

1.再生モード位置またはクイックビュー中に、ズームレバーをT側に押します。

- 拡大再生のズーム画面になり、拡大倍率が表示されます。
- 1.2倍～6倍の範囲内で、0.2倍ごとに倍率が選択できます。押し続けると早送りされます。
- 動画の拡大再生はできません。

2.十字キーの上下左右キーで、表示エリアを移動させることができます。

- 画面の上下左右に移動を示す△が青く表示されています。

3.メニューボタンを押すと、通常の1コマ再生に戻ります。

- ズームレバーをW側に押し続けるか、実行ボタンを押しても1コマ再生に戻ります。
- 液晶モニターボタン [□] を押すと、拡大再生中の画面内の表示を消すことができます。

音声の再生

音声付き画像（ボイスメモ、アフレコ）の場合は、再生時、液晶モニターに [♪] が表示されます。音声のみ（ボイスレコード）の場合は、青い画面に [♪] が表示されます。
音声はカメラのスピーカーから再生されます。

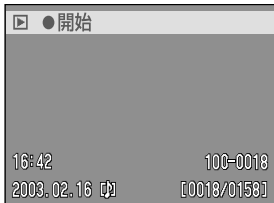
ボイスメモ／アフレコの再生

再生中画面

ボイスメモまたはアフレコを再生するには、画像を表示させてから、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 右上の数値は経過秒数です。再生中にメニューボタンを押すと、途中で再生を終了させることができます。
● 再生中、十字キーの上下で音量の調整ができます。

※ボイスメモの録音 →P.90、アフレコの録音 →P.118

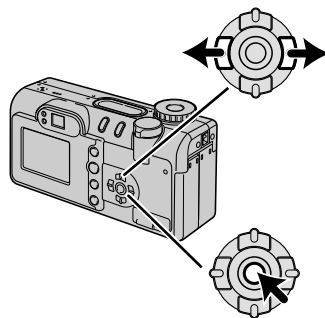
ボイスレコードの再生

ボイスレコードを再生するには、ボイスレコード（青い画面）を選んでから、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 再生中、
・十字キーの上下で音量の調整ができます。
・十字キーの左右を押し続けると、巻き戻しと早送りができます（左が巻き戻し、右が早送り）。
・十字キー中央の実行ボタンで、一時停止・再開ができます。
・メニューボタンを押すと、途中で再生を終了させることができます。
・右下の数値は経過秒数です。

再生中画面

※ボイスレコードの録音について →P.101

動画の再生

撮影した動画を再生します。

1. 十字キーの左右で再生したい動画を選びます。
● 動画開始時の画像が表示されます。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。
● 右下の数値は経過秒数です。
● 音声も同時に再生されます。

● 再生中、
・十字キーの上下で音量の調整ができます。
・十字キーの左右を押し続けると、巻き戻しと早送りができます（左が巻き戻し、右が早送り）。
・十字キー中央の実行ボタンで、一時停止・再開を繰り返します。

最後まで再生すると、自動的に動画開始前の状態に戻ります。
● 途中で終えるときは、メニューボタンを押してください。

● 動画再生中は、十字キーの左右でコマの切り替えを行なうことはできません。
● 動画のヒストグラム表示や拡大再生はできません。

※動画撮影について →P.94

画像をテレビで見る

付属のAVケーブルAVC-200でカメラとテレビを接続して、画像をテレビに映して見ることができます。

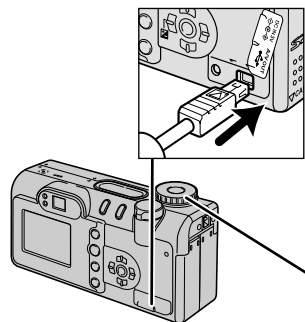
1.テレビとカメラの電源を切ります。

2.AVケーブルの黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

3.カメラ背面の端子カバーを開け、AVケーブルのもう一方の、ミニプラグ側をAV出力端子に差し込みます（左図）。

4.テレビの電源を入れ、テレビの［テレビ／ビデオ切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

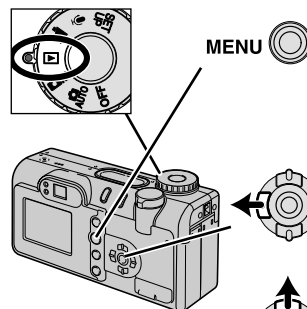
●詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

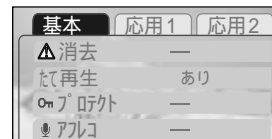
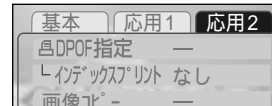
5.カメラのメインスイッチ／モードダイヤルを▶位置（再生モード）に合わせます。

●上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる再生画像がそのままテレビに映ります。AVケーブルを接続するとカメラの液晶モニターは消灯しますが、テレビに映る画面を見ながら通常の再生モードと同様に、表示の切り替えや音声の再生等を行なうことができます。

●上記の操作で、撮影画像をテレビに映し出すこともできます。ムービーカメラ(p.98)をONにすると、より便利にこの機能をお使いいただけます。

●万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→P.151

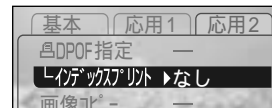
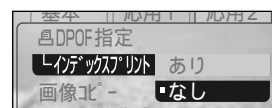
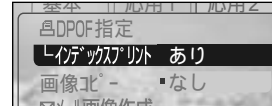
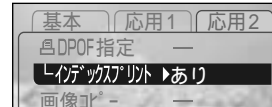
再生モードメニュー

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが再生モード位置▶にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

1.再生モード位置▶で、メニューボタンを押します。

●メニュー画面が現れます。

2.十字キーの左右で、「基本」「応用1」「応用2」のいずれかを選びます。

基本 応用1 応用2
DPOF指定 —
インデックスプリント なし
画像コピー —

3.十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

基本 応用1 応用2
DPOF指定 —
インデックスプリント ▶なし
画像コピー —

4.十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

5.十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

6.十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

7.メニューボタンを押して元の画面に戻ります。

基本	
消去（P.113）	○このコマ
	全コマ
	コマを指定
たて再生（P.115）	○あり
	なし
プロテクト（P.116）	○このコマ
	全コマ
	コマを指定
	全コマ取り消し
アフレコ（P.118）	実行する

応用1	
スライドショー（P.119）	実行する
スライドショー再生画像（P.120）	○全コマ
	コマを指定
スライドショー間隔（P.120）	1～4秒 ○5秒 6～60秒
スライドショー繰り返し（P.120）	あり
	○なし

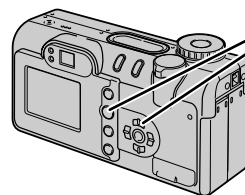
応用2	
DPOF（プリント）指定（P.122）	○このコマ
	全コマ
	コマを指定
	全コマ取り消し
DPOF（プリント）指定インデックスプリント（P.125）	あり
	○なし
画像コピー（P.130）	○このコマ
	コマを指定
メール画像作成（P.132）	○このコマ
	コマを指定
メール画像作成画像サイズ（P.132）	○640X480
	160X120

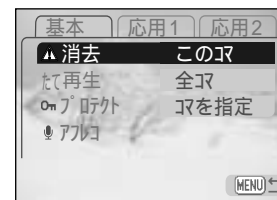
○印は初期設定値です。

● メインスイッチ／モード切り替えダイヤルでモードを切り替えたりカメラをOFFにしたりしても、メニュー設定は保存されています。

画像の消去

画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。
このコマ（1コマ消去）：　再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ消去：　カード内の画像すべてを消去します。
コマを指定：　指定した画像だけを消去します。
※1コマずつ手早く消去する方法もあります。→P.39

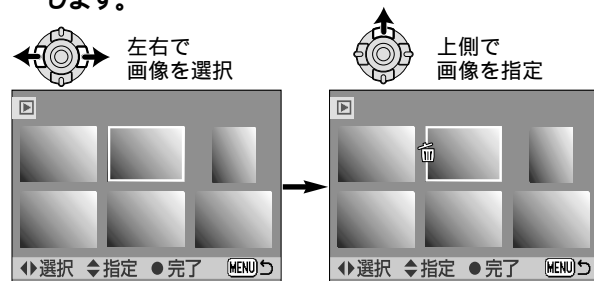
いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. P.111の要領で、再生モードメニュー→「基本」→「消去」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

基本　応用1　応用2
消去　このコマ
たて再生　全コマ
プロテクト　コマを指定
アフレコ
MENU

「このコマ」「全コマ」の場合
3の確認画面へ

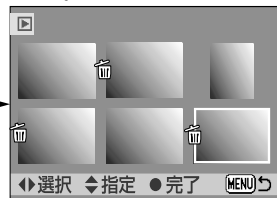
「コマを指定」の場合
2でコマを指定後、3の確認画面へ

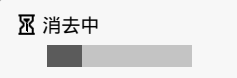
2.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

左右で画像を選択

上側で画像を指定

消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。
● 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

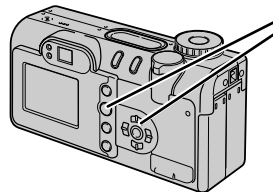
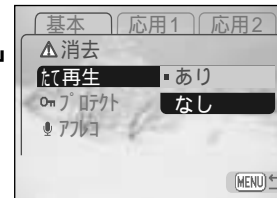
画像の消去（続き）

中央で
指定を完了

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、3の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

3.確認後、消去します。（下図は指定コマ消去の場合）

プロテクトされています

- 左のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止）されています。該当する画像は消去できません。→P.116

たて再生

カメラを縦にして撮影した画像は、液晶モニターの再生においても縦の表示になります。初期設定は「あり」になっています。

1.P.111の要領で、再生モードメニュー →「基本」→「たて再生」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

たて再生　あり

たて再生　なし

- インデックス表示(P.105)やヒストグラム表示(P.105)、クイックビュー(P.38)でもたてに再生されます。アフタービュー(P.60)のみ、たてに再生されません。
- 動画はたて再生になりません。
- たて再生は、たて再生なしのときに比べて4分の3の大きさになります。

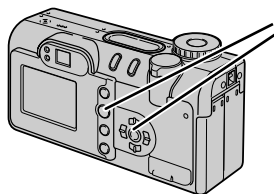
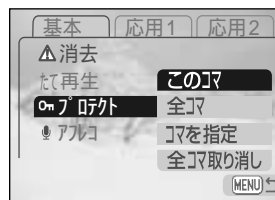
プロテクト（誤消去防止）

撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の3通りのプロテクト方法と、プロテクトの取り消しがあります。

このコマ（1コマプロテクト）： 再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。

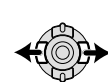
全コマプロテクト： カード内の画像すべてにプロテクトをかけます。

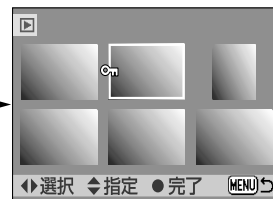
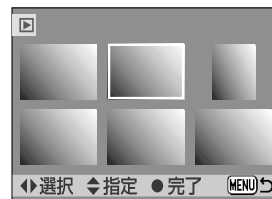
コマを指定： 指定した画像だけにプロテクトをかけます。

全コマ取り消し： カード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

1.**P.111の要領で****、再生モードメニュー →「基本」→「プロテクト」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。**

「このコマ」「全コマ」「全コマ取り消し」の場合
メニューボタンで元の画面へ

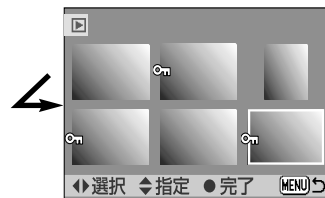
「コマを指定」の場合
2に進んでコマを指定

● 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに ⊶ が表示されます。

2.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトをかける（または取り消す）コマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

左右で
画像を選択

上側で
画像を指定

プロテクトを指定したコマには ⊶ が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

中央で
指定を完了

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。

● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

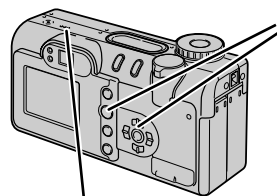
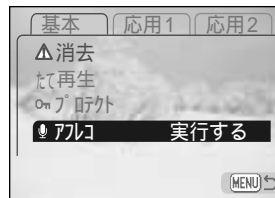
プロテクト

アフレコ

ボイスメモ（P.90）では撮影と同時に録音が行われるのに対し、アフレコ*では撮影後、改めて画像に音声を付けます。最長15秒間の録音が可能です。ボイスメモの上書きもできます。

*アフレコ ＝ アフターレコーディング（After recording）の略

マイク

1.アフレコを付けたい画像を表示させます。

2.P.111の要領で、再生モードメニュー →「基本」→「アフレコ」から「実行する」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

3.実行ボタンを押すとすぐに録音が開始されます。マイクに向かって話します。

- マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

4.録音を終了するには、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 15秒間経過すると、録音は自動的に終了します。
- メニューボタンを押すと元の画面に戻ります。

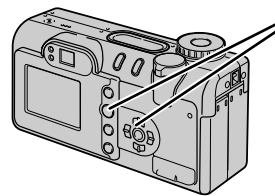
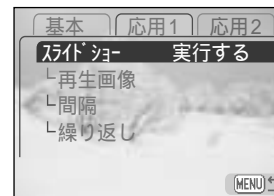
録音可能残り秒数

⚠音声を上書きしますか？
はい　いいえ

- すでに音声（ボイスメモまたはアフレコ）が付いている場合、左のメッセージが現れます。上書きする場合は「はい」を選択し、実行ボタンを押すと、前の音声を上書きして新たな音声が録音されます。

- アフレコを付けた画像には、液晶モニターに♪が表示されます。音声を再生するには、再生モードで画像を表示させ、十字キー中央の実行ボタンを押してください。→P.108
- 動画とボイスレコード、およびプロテクトをかけた画像にはアフレコを付けることはできません。

スライドショー（画像の自動再生）

カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、カード内のすべての画像が最初から順に5秒ずつ表示されます。

1.P.111の要領で、再生モードメニュー →「応用1」→「スライドショー」から「実行する」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- スライドショーが開始されます
- スライドショー実行中に十字キーの中央を押すと、一時停止・再スタートが繰り返されます。

2.スライドショーを途中で終えるときは、メニューボタンを押します。

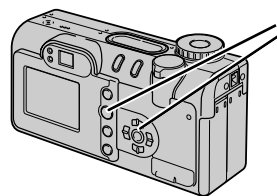
- すべての画像を再生し終えると、自動で停止します。

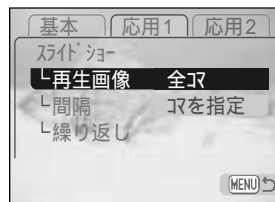
- 動画はスライドショーでは再生されません。
- スライドショー開始前にあらかじめ、液晶モニター表示ボタン で撮影データを消しておくこともできます。

スライドショー
アフレコ

スライドショーの設定変更

スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。

再生画像：　全コマを再生する／再生するコマを指定する
間隔（画像表示時間）：　1～60秒
繰り返し：　あり／なし

1. P.111の要領で、再生モードメニュー →「応用1」から希望の項目と設定を選択し、実行ボタンを押します。

●秒数を設定する際は、十字キーを押し続けると数値が早送りされます。

「再生画像」で「コマを指定」を選んだ場合
2に進んでコマを指定

左記以外
続けて「スライドショー」「実行する」で
スライドショー再生 →前ページ

2.「コマを指定」の場合、十字キーでスライドショー再生するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

左右で
画像を選択

上側で
画像を指定

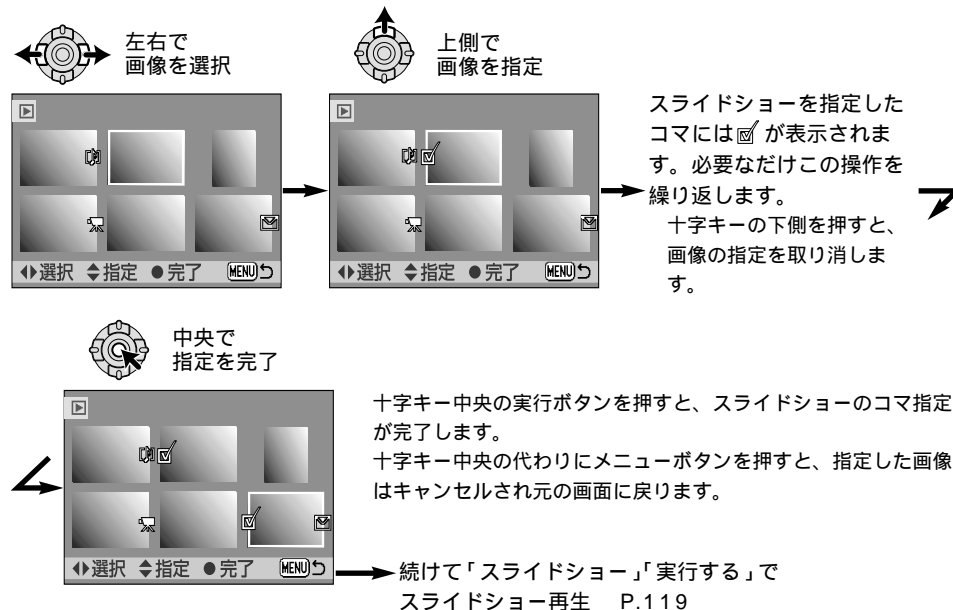
スライドショーを指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

●十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

中央で
指定を完了

●十字キー中央の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定が完了します。

●十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

続けて「スライドショー」「実行する」で
スライドショー再生 →P.119

●動画やボイスレコードを指定することはできません。

画像のプリント

撮影した画像は様々な方法でプリントすることが可能です。

①ご自分のプリンタで印刷する
画像をパソコンに取り込んで、そこから印刷する方法が一般的です。DPOF対応のプリンタでは、パソコンを使わずに直接カードから印刷できます。またUSB DIRECT-PRINT対応のプリンタでは、カメラとプリンタをケーブルで接続するだけでプリントすることができます。→P.125

②ご購入店やカメラ店などにプリントを依頼する
カードをお店にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントすることができます。

③ネットプリントを利用する
インターネット経由でプリントの依頼をすることができます。Windowsをお持ちの方は、付属のCD-ROMからアクセスすることができます（P.170)。また、ミノルタホームページのクラブ・フォトナビゲーションからも同様にプリント依頼をすることができます。
http://www.photo.minolta.co.jp

ここでは、より便利にプリントする方法の1つとしてプリントする画像や枚数をあらかじめカメラで指定しSDメモリーカードにその情報を書き込む(DPOF指定)方法と、カメラとプリンタを直接USBケーブルでつないでプリントする方法(P.125)を紹介します。

DPOF（プリント）指定

DPOF(プリント)指定とは、撮影した画像を、ご自分のプリンタでプリントする場合やプリント店にプリントを依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことです。

● プリンタやプリント店がDPOF*に対応している必要があります。

*DPOF＝ディーポフ、Digital Print Order Formatの略。SDメモリーカード等の記録メディアに入っているデータのうち、プリントしたいコマや枚数等の指定情報をメディアに記録するフォーマット。

●動画とボイスレコードのDPOF(プリント)指定はできません。

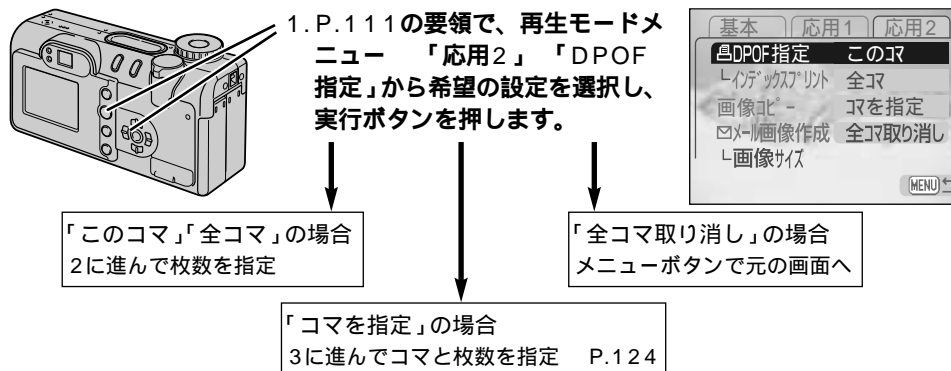
どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。

このコマ（1コマプリント）： 再生中の画像を1コマだけDPOF(プリント)指定します。
全コマ： カード内の画像すべてをDPOF(プリント)指定します。
コマを指定： 指定した画像だけをDPOF(プリント)指定します。
全コマ取り消し： カード内の画像すべてのDPOF(プリント)指定を取り消します。

1. P.111の要領で、再生モードメニュー →「応用2」→「DPOF指定」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

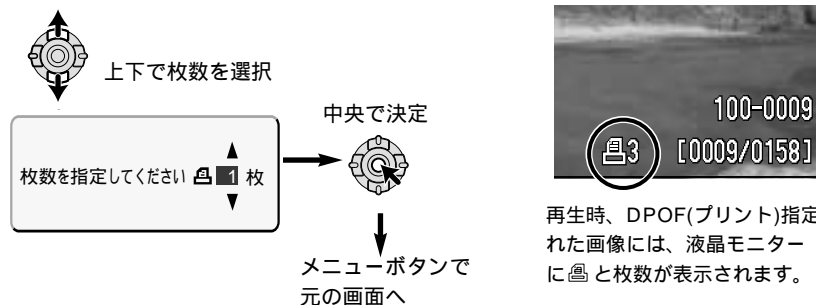
「このコマ」「全コマ」の場合
2に進んで枚数を指定

「全コマ取り消し」の場合
メニューボタンで元の画面へ

「コマを指定」の場合
3に進んでコマと枚数を指定 →P.124

2.「このコマ」「全コマ」の場合、十字キーで希望の枚数を選んで実行します。

●「このコマ」の場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚)。
●「全コマ」の場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0〜9枚)。

●再生時、DPOF(プリント)指定された画像には、液晶モニターに🖶と枚数が表示されます。

次ページへ続く

3.「コマを指定」の場合、十字キーでDPOF(プリント)指定するコマを指定して枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

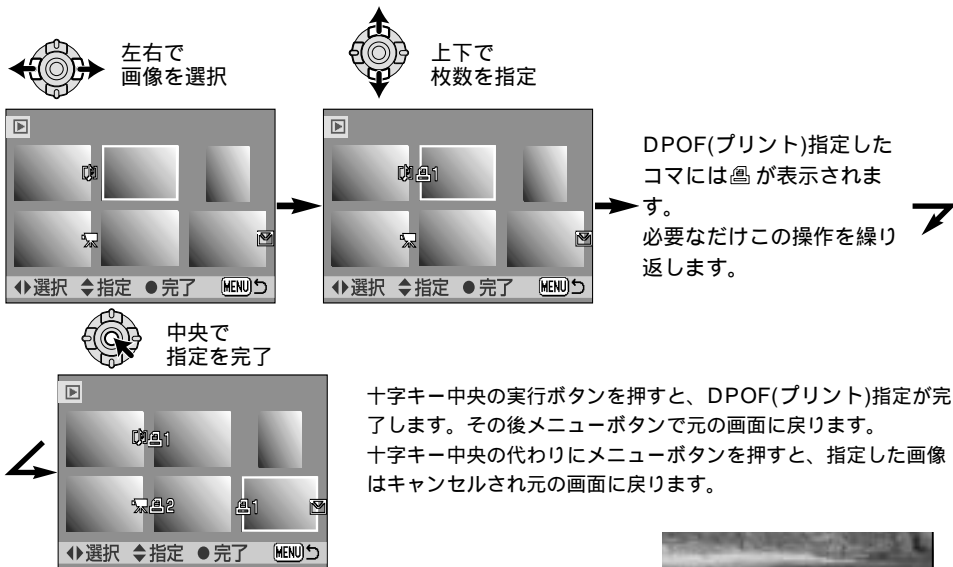
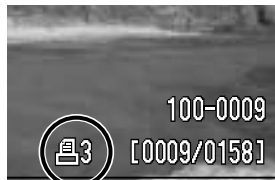
●「コマを指定」の場合、各コマごとに希望の枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。

左右で画像を選択

上下で枚数を指定

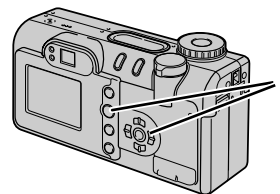
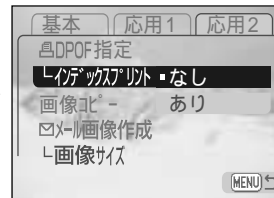
DPOF(プリント)指定したコマには🖶が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

中央で指定を完了

●十字キー中央の実行ボタンを押すと、DPOF(プリント)指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
●十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

●再生時、DPOF(プリント)指定された画像には、液晶モニターに🖶と枚数が表示されます。

●他のデジタルカメラでDPOF(プリント)指定したカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

インデックスプリント

カードに記録されているすべての画像を一覧表示用としてまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。DPOF(プリント)指定では、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの有無を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

●1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
●インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。改めて設定してください。

P.106の要領で、再生モードメニュー →「応用2」→「インデックスプリント」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

USB DIRECT-PRINT（USBダイレクトプリント）

USB DIRECT-PRINT（USBダイレクトプリント）対応のエプソンプリンタをお持ちの場合、カメラとプリンタを直接USBケーブルで接続してプリントを行なうことができます。

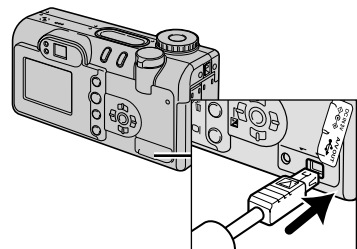
●プリントの途中でカメラの電池がなくなると、印刷が中断されます。フル充電した電池か新品電池（CRV3電池の場合）、またはACアダプタの使用をおすすめします。

1.カメラとプリンタの電源を入れます。

●カメラは、OFF以外ならどの位置でも構いません。

2.カメラとプリンタを接続する前に、用紙設定等のプリント側の設定を行います。

●詳しい設定方法については、プリンタの使用説明書をご覧ください。
●日付写し込み（P.59）付きの画像をプリントする場合は、二重写し込みを防ぐため、プリンタ側での日付写し込み設定は行なわないでください。
●1枚の用紙に2種類以上の画像をプリントしたい場合は、DPOF指定を利用してください。→P.128

3.USBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

4.カメラ背面の端子カバーを開け、付属のUSBケーブルの小さいほうのコネクタをUSB端子に差し込みます

- 「USB接続中」のメッセージが現れた後、USBダイレクトプリントの画面になります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は、正常に作動しない場合があります。

USB接続中

5.プリントするコマと枚数を指定します。

- USBダイレクトプリントの画面で指定する方法と、DPOF（プリント）指定を利用する方法（P.128）があります。1枚の用紙に2種類以上の画像をプリントしたい場合は、DPOF指定を利用してください。

USBダイレクトプリントの画面で指定する

USBダイレクトプリントの画面で、コマを選んで指定することができます。また、基本メニューでは一括で全コマを指定したり、全コマの指定を取り消すことができます。

コマを選んで指定

①左右で画像を選択

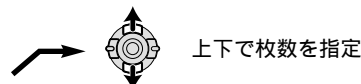
- TIFFを除く静止画のみプリント可能です。プリントできない場合は、画像の右上に が表示されます。
- 画像の情報が表示されます。

ズームレバーで拡大表示が可能です。撮影した画像のピントの合い具合などを確認できます。

液晶モニターボタンを押すとインデックス表示に切り替わります。

MENU メニューの基本で、一括指定が可能です(次ページ)。

- プリントする画像の合計枚数です。999枚を超える場合は、999と表示されます。

②上下で枚数を指定

①と②を繰り返してコマと枚数を指定

メニューの一括指定を行わない場合

中央でプリント実行

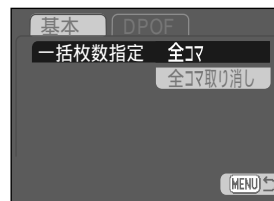
6に進んでプリントを開始 →P.129

MENU

メニューの基本で一括枚数指定が可能です。メニューでカード内の全コマを指定した後、元の画面に戻って、そこから不必要なコマの指定を取り消したり、すでに行った指定を、全コマ取り消したりすることができます。

全コマ指定

メニューボタンを押し、上下左右キーで「基本」→「一括枚数指定」から「全コマ」を選択します。

- TIFF以外の静止画全コマがプリント指定されます。

上下で枚数を選択

上下キーで枚数を選択して、中央ボタンで決定します。

- 全コマとも同じプリント枚数しか選べません。（1～9枚）

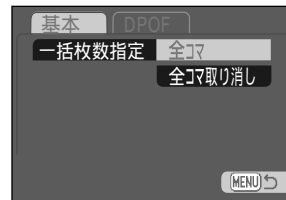
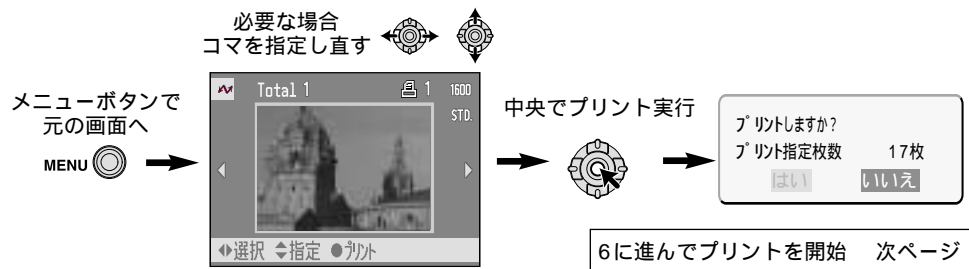
中央で決定

全コマ取り消し

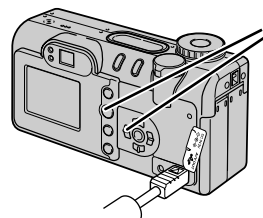
メニューボタンを押し、上下左右キーで「基本」→「一括枚数指定」から「全コマ取り消し」を選択します。

- 左キーで「はい」を選択して、中央の実行ボタンを押すと、全コマの指定が取り消されます。

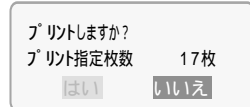
全コマ取り消しますか？

はい　いいえ

画像のプリント

6に進んでプリントを開始 →次ページ

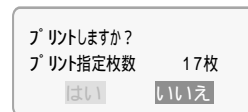
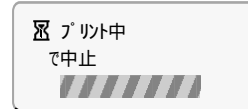
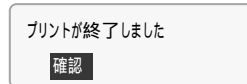
DPOF(プリント)指定を利用する

USBケーブルでカメラとプリントを接続する前にDPOF(プリント)指定(P.122)している必要があります。インデックスプリントを含む、TIFF以外のDPOF指定した画像がエプソンのプリンタでプリントされます。

メニューボタンを押し、上下左右キーで「DPOF」→「DPOFプリント」→「実行する」を選択します。

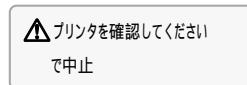
中央でプリント実行

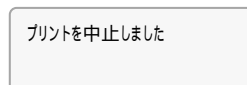
プリントしますか？
プリント指定枚数 17枚
はい いいえ

6に進んでプリントを開始 →次ページ

- DPOF(プリント)指定で、インデックスプリント(P.125)をありにしている場合は、プリント指定枚数は1枚多く表示されます。
- DPOF(プリント)指定(P.122)があらかじめされていないときは「コマ指定がありません」のメッセージが現れます。

6.次の画面が現れたら、十字キーの左側で「はい」を選び、中央の実行ボタンでプリントを開始します。

左で「はい」 中央で実行

- プリント中に、実行ボタンを押すとプリントが中止されます。5でのコマと枚数の指定は保持されているので、再度実行ボタンを押すと印刷がもう一度はじめから始まります。

中央を押す

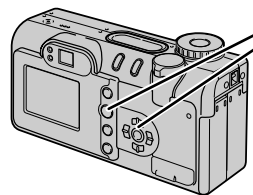
- プリントが終了したら左のメッセージが現れます。実行ボタンを押してプリントを終了してください。USBダイレクトプリントを終了するには、カメラとプリンタをOFFにしてUSBケーブルを外してください。

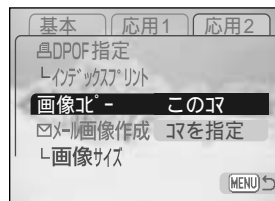
⚠プリンタを確認してください
●で中止

- 左のエラーメッセージが現れた場合は、プリンタ側の問題（用紙切れなど）によりプリントできません。プリンタ側の問題を解決するとプリントが再開されます。再開されない場合は、十字キー中央の実行ボタンを押していったんプリントを中止してください。

プリントを中止しました

- プリント中や上記エラーメッセージ表示中に実行ボタンを押すと、プリントは途中で中止されます。USBケーブルを外すか、カメラの電源を切ってください。再度プリントする場合は、カメラ側でプリント指定、プリンタ側で用紙等の設定をし直してから、再度前ページの要領でプリントを行なってください。

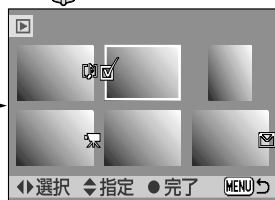
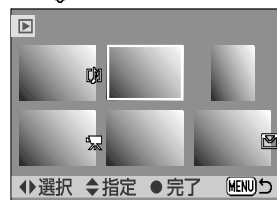
画像のコピー

あるカードに記録された画像を、別のカードにコピーすることができます。
このコマ（1コマコピー）：　再生中の画像を1コマだけコピーします。
コマを指定：　指定した画像だけをコピーします。

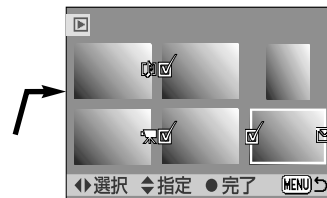
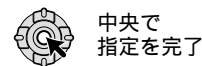
1.コピーする画像が入ったカードをカメラに入れます。

2.P.111の要領で、再生モードメニュー →「応用2」→「画像コピー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

基本　応用1　応用2
DPOF指定
└インデックスプリント
画像コピー　このコマ
メール画像作成　コマを指定
└画像サイズ
MENU

「このコマ」の場合
4のコピー実行へ

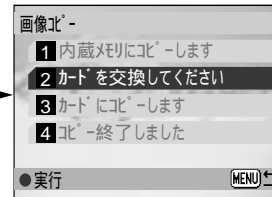
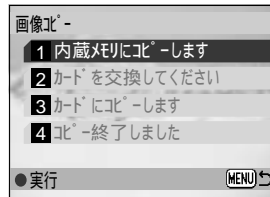
「コマを指定」の場合
3でコマを指定後、4のコピー実行へ

3.「コマを指定」の場合、十字キーでコピーするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

コピーを指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

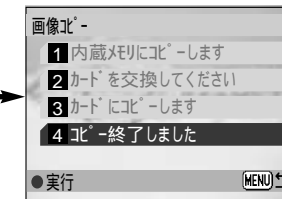
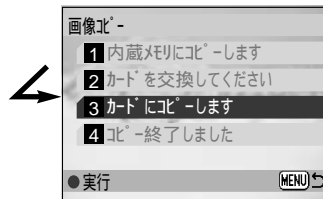
● 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

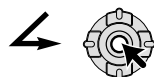
中央で
指定を完了

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、4のコピー実行画面に進みます。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4.画面の指示に従ってコピーを続けます。

この状態でしばらく待ちます。

カードを交換した後、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● カードを交換せずに実行ボタンを押すと、同一カード内にコピーされます。
● メニューボタンで元に戻ります。

この状態でしばらく待ちます。

コピー先のフォルダ名が表示されます。

中央を押す

メニューボタンで
元の画面へ

次ページへ続く

● 画像をコピーすると、
再生時には、コピーされた画像が最新画像として液晶モニターに表示されます。
パソコンに接続すると、カード内に "MLTCP" のフォルダが新たに作成され、コピーされた画像はその中に保存されています。コピーするたびに新しいフォルダが作成されます。先頭の数字3桁はフォルダの通し番号です。詳しくは →P.141～142
（MLT＝Minolta、CP＝Copy の意味）
● プロテクトされた画像をコピーした場合、コピーされた画像にはプロテクトがかかっていません。
● 動画、ボイスメモ、アフレコ、ボイスレコードもある一定のファイルサイズまではすべてコピーできます。

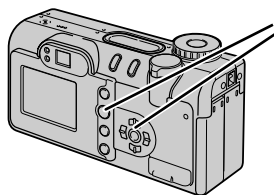
画像が多すぎます
指定し直してください

● 左のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリにコピーできません。画像全体のファイルサイズを減らして指定し直してください。（内蔵メモリには約15MBコピーできます。）

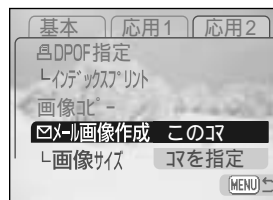
メール画像作成

カードに記録された画像から、Eメールに添付するのに適したメール画像（画像サイズ640×480または160×120、画質スタンダードまたはエコノミー）を作成することができます。元の画像はそのまま残ります。

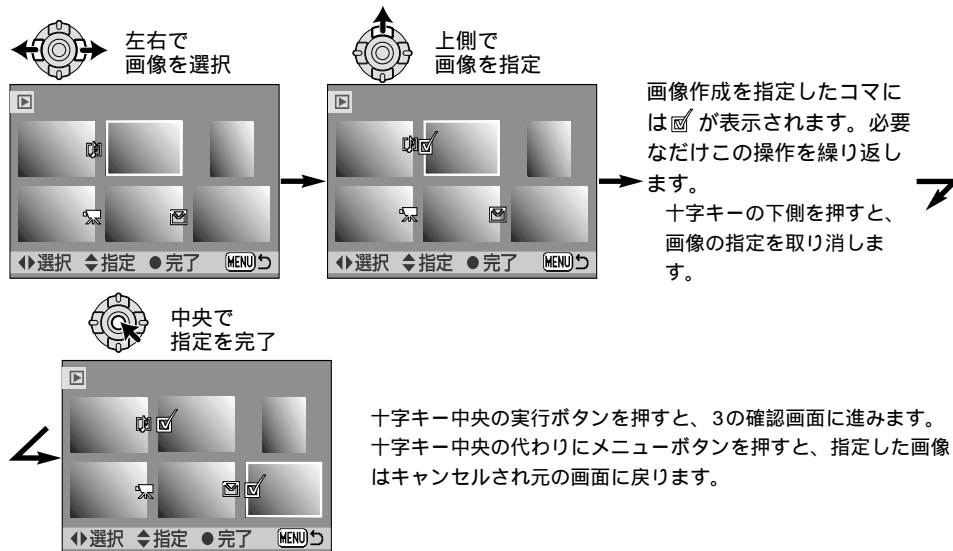
このコマ（1コマのみ作成）：　再生中の画像を1コマだけメール用に新たに作成します。
コマを指定：　指定した画像をすべてメール用に新たに作成します。

● 画像サイズは、メール画像作成をする前にあらかじめ設定しておく必要があります。初期設定は640×480になっています。→P.134

1. P.111の要領で、再生モードメニュー →「応用2」→「メール画像作成」から希望の設定を選択します。

「このコマ」の場合
3の確認画面へ

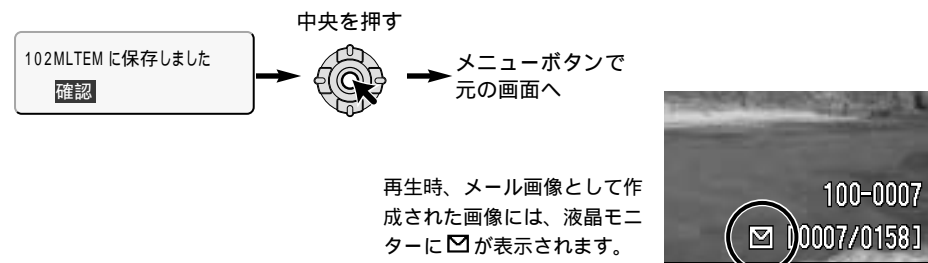
「コマを指定」の場合
2でコマを指定後、3の確認画面へ

2.「コマを指定」の場合、十字キーでメール画像を作成するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

画像作成を指定したコマには ☑ が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。
● 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、3の確認画面に進みます。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

3. メール画像の作成が完了すると、確認画面が現れます。

● 再生時、メール画像として作成された画像には、液晶モニターに ✉ が表示されます。

メール画像作成

次ページへ続く

メール画像作成（続き）

作成されるメール画像は、

- 画質は、元画像がTIFF・ファイン・スタンダードの場合はスタンダードに、エコノミーの場合はエコノミーになります。

メール画像を作成すると、

- 再生時には、新たに作成された画像が最新画像として液晶モニターに表示されます。
- パソコンに接続すると、カード内に "MLTEM" のフォルダが自動的に作成され、作成されたメール画像はその中に保存されています。先頭の数字3桁はフォルダの通し番号です。詳しくは →P.141～142
  （MLT＝Minolta、EM＝E-mail の意味）

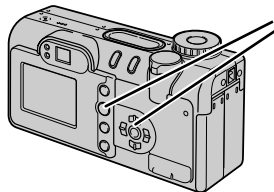
- ボイスメモやアフレコの音声は、作成されたメール画像にも添付されます。
- 動画やボイスレコードからメール画像を作成することはできません。
- プロテクトされた画像からメール画像を作成した場合、作成された画像にはプロテクトがかかっていません。

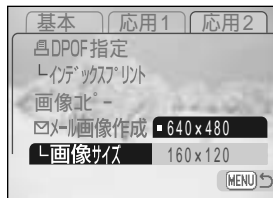
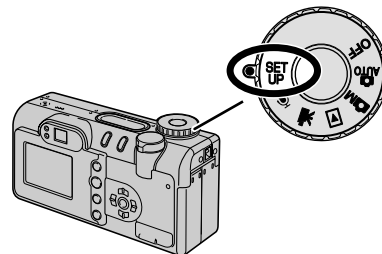
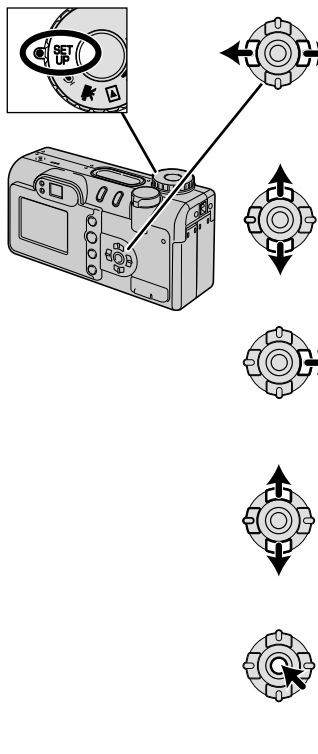
画像が多すぎます
指定し直してください

- 左のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくてカードの容量を超えています。画像の数を減らして指定し直してください。

画像サイズ(メール画像作成)

作成するメール画像の画像サイズを2種類のサイズから選ぶことができます。640×480はパソコンなどでのEメールに添付するのに適しています。160×120は携帯電話のメールに添付するのに適しています。

- 画像サイズは、メール画像作成をする前にあらかじめ設定しておく必要があります。初期設定は640×480になっています。

P.111の要領で、再生モードメニュー →「応用2」→「画像サイズ」から希望の設定を選択し実行ボタンを押します。

- この操作以降に作成するメール画像の画像サイズが設定されました。

セットアップモード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがSET UP位置（セットアップモード）にあるときの各種設定について説明しています。
セットアップモードでは、カメラの細かな設定を変更することができます。

上面データパネルには、SEtの文字が現れます。

ズームレバーをW側に押しながらダイヤルをOFFからSET UPにすると、レンズが前方に伸びません。セットアップで設定のみ行なう場合に便利です。

セットアップモードメニュー

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがセットアップモード位置（SET UP）にあるときは、以下の設定が可能です。十字キーを使って設定します。

1. 十字キーの左右で、「基本」「応用1」「応用2」のいずれかを選びます。

2. 十字キーの上下で、希望の項目を選びます。

3. 十字キーの右側で、設定内容を表示させます。

4. 十字キーの上下で、希望の設定を選びます。

5. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

ﾌｧｲﾙNo.ﾒﾓﾘｰ しない
ﾌｫﾙﾀﾞ形式 標準形式
操作音 音2
ｼｬｯﾀｰ音 音1
音量 2

基本	
モニター明るさ（P.138）	実行する
フォーマット（P.139）	実行する
パワーセーブ（P.140）	10分
	5分
	3分
	○1分
言語/Lang.（P.140）	○日本語/JPN
	English
	Deutsch
	Français
	Español

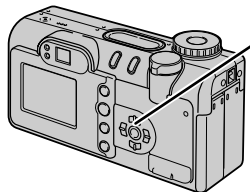
応用1	
ファイルNo.メモリー（P.144）	あり
	○なし
フォルダ形式（P.143）	○標準形式
	日付形式
操作音（P.145）	○音1
	音2
	なし
シャッター音（P.145）	○音1
	音2
	音3
	なし
	音3録音
音量（P.145）	3（大きい）
	○2
	1（小さい）

応用2	
設定値リセット（P.147）	実行する
ノイズリダクション（P.149）	○あり
	なし
日時設定（P.150）	実行する
日付並び（P.151）	○年/月/日
	月/日/年
	日/月/年
ビデオ出力（P.151）	○NTSC
	PAL

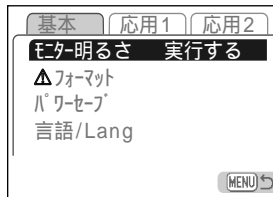
○印は初期設定値です。

● メインスイッチ／モード切り替えダイヤルでモードを切り替えたりカメラをOFFにしたりしても、メニュー設定は保存されています。

液晶モニターの明るさ調整

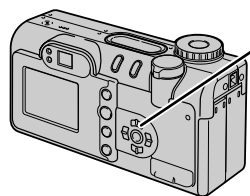
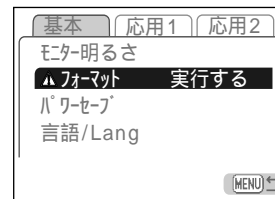
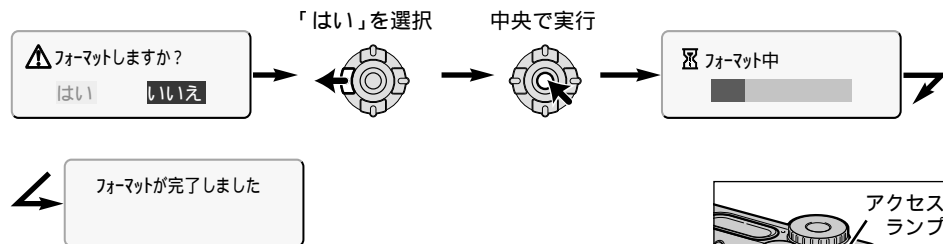
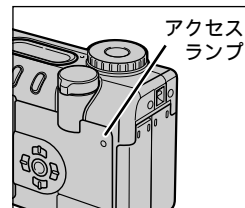
液晶モニターの明るさを調整することができます。

1. P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「基本」→「モニター明るさ」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

2. 十字キーの左右で、モニターの明るさを調整します。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

カードのフォーマット（初期化）

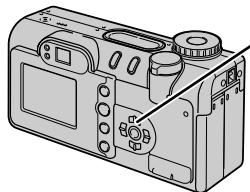
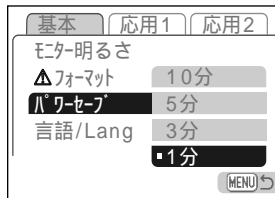
カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、SDメモリーカードのフォーマットが便利です。

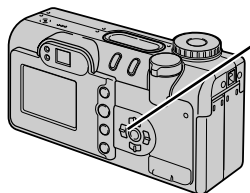
フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

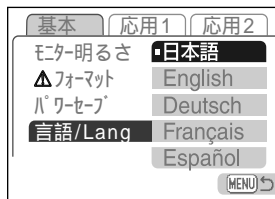
1. フォーマットするカードをカメラに入れます。

2. P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「基本」→「フォーマット」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

3. 十字キーでカードのフォーマットを行ないます。

● フォーマット中はアクセスランプが点滅します。点滅中はカードを抜かないでください。

● カードのフォーマットはこのページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラでカードが認識できないことがあります。

パワーセーブまでの時間変更

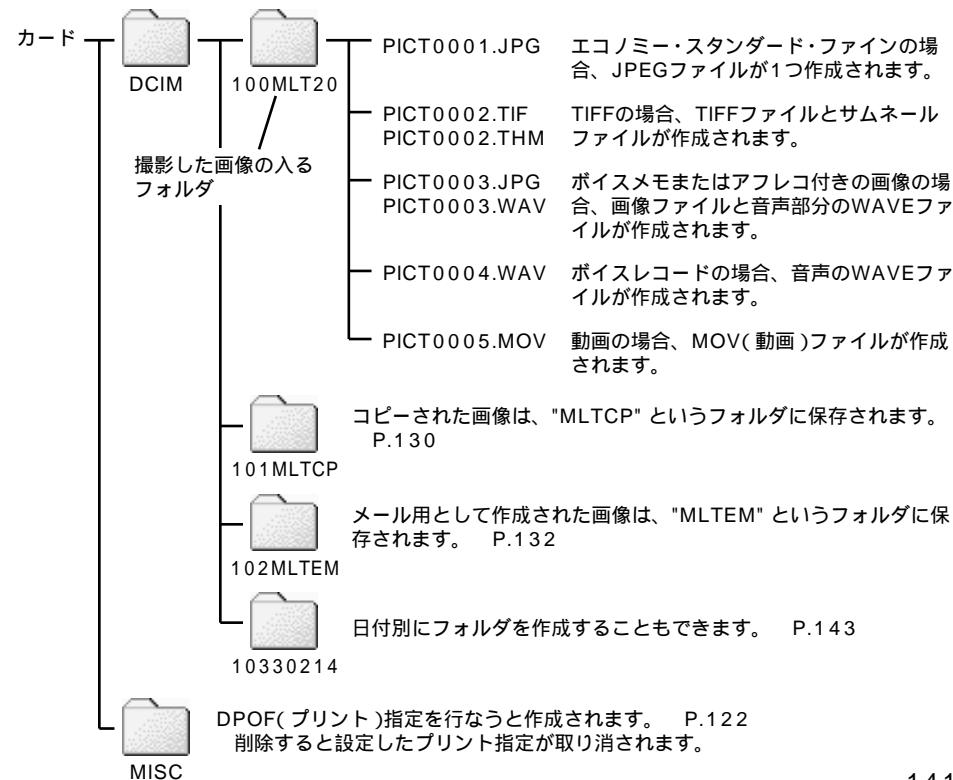
このカメラは、初期設定では約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、上面データパネルが消灯します（パワーセーブ →P.21）。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分のいずれかに変更することができます。

● 液晶モニターは約30秒間何も操作をしなければ消灯します。この時間の変更はできません。

P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「基本」→「パワーセーブ」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

言語設定

液晶モニターに表示される言語を、5カ国語の中から選ぶことができます。

P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「基本」→「言語/Lang」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

● 選べる言語は以下の通りです。
- 日本語
- 英語（English）
- ドイツ語（Deutsch）
- フランス語（Françeis）
- スペイン語（Español）

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、カード内のフォルダに入れられます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は以下の通りです。パソコンに接続すると見ることができます。→P.155

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

例：　100 MLT20

フォルダ番号（100～）　識別文字

フォルダ名は、フォルダ番号3桁＋識別文字5文字、から成り立っています。
フォルダ番号（フォルダの通し番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
識別文字の "MLT" はミノルタを、"20" はこのカメラ（DiMAGE F200）を表します。画像をコピーすると "MLTCP"、メール画像を作成すると "MLTEM" というフォルダが作成されます。日付別にフォルダを自動的に作成することもできます（P.143）。

● フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.155～）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（P.139）。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

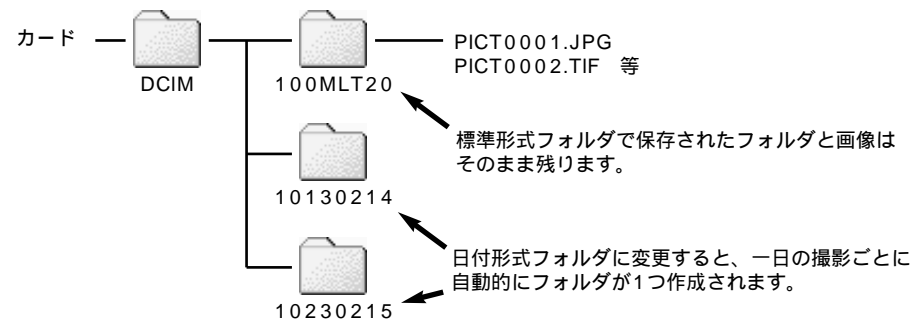
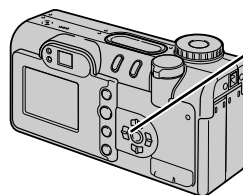
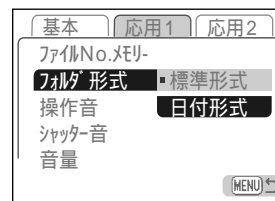
PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

● カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び0001から始まります（初期設定のファイルNo.メモリーなしの場合、P.144）。
● "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと "104MLT20"）、その中で再び"PICT0001"から画像の記録が開始されます。
● 各フォルダ内では、常にファイル名は"PICT0001"から（すでにファイルが存在する場合はその次の番号から）始まります（初期設定のファイルNo.メモリーなしの場合、P.144）。

※通し番号にするには →ファイルNo.メモリー、P.144

● お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

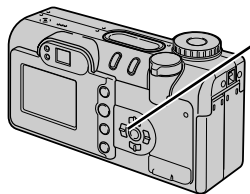
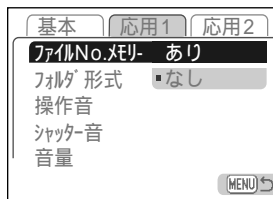
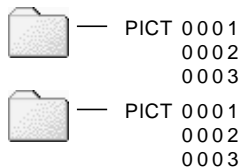
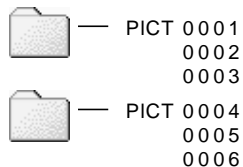
初期設定の標準形式フォルダ（100MLT20等）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存することができます。

フォルダを日付形式に変更すると、フォルダ名は左の通りに表されます。

P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「応用1」→「フォルダ形式」から「日付形式」を選び、実行ボタンを押します。

● 初期設定では、日付が変わってフォルダが変わるたびに、中のファイル番号はPICT0001に戻ります。

※通し番号にするには →ファイルNo.メモリー、次ページ

ファイルNo.メモリー

フォルダが変わると、初期設定のファイルNo.メモリー「なし」では、ファイル名は再び "PICT0001" から始まります。これを続き番号にすることができます。

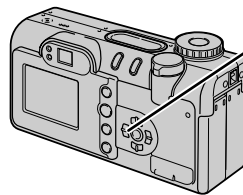
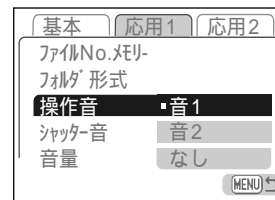
なし：　ファイルNo.メモリーは機能しません。画像のコピーやメール画像の作成、日付形式フォルダで日付が変わる等でフォルダが変わると、ファイル番号は0001に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

あり：　ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。

P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「応用1」→「ファイルNo.メモリー」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

イメージ図

● 設定値リセット（P.148）を行なうと、ファイルNo.メモリー「あり」でカメラが記憶しているファイル番号は消去され、0001に戻ります。

操作音と音量の設定

カメラを操作すると操作音が出ます。その音や音量を変えることができます。シャッター音をご自分で録音することもできます。

P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「応用1」から希望の項目と設定を選択し、実行ボタンを押します。

基本 応用1 応用2
ﾌｧｲﾙNo.ﾒﾓﾘｰ
ﾌｫﾙﾀﾞ形式
操作音 ▪音1
ｼｬｯﾀｰ音 音2
音量 なし
MENU

操作音は音1、音2、なしの3つから、シャッター音は音1、音2、音3、なしの4つから、音量は3段階から選ぶことができます。音量は、操作音とシャッター音の両方に反映されます。

操作音	ボタンを押す、ダイヤルを回す等、カメラの操作時に出る音	音1（機械音をベースにした音）
		音2（電子音をベースにした音）
		なし（音は出ません）

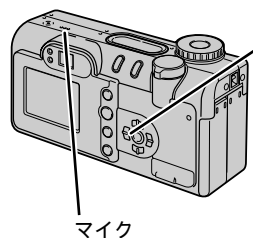
シャッター音	シャッターを切った時に出る音	音1（ミノルタCLEのシャッター音）
		音2（電子的なシャッター音）
		音3（ご自分で録音された音）
		なし（音は出ません）
		音3録音（音3録音用 →次ページ）

音量	3（大きい）
	2（中）
	1（小さい）

ミノルタCLE

● シャッター音の「音3」は、ご自分で録音できる音です。→次ページ
ご購入時には音1と同じ音が入っています。

シャッター音を録音する

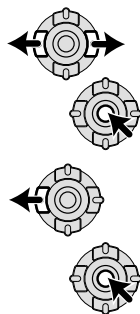
シャッター音をご自分で録音することができます（マイサウンド機能）。

1. P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「応用1」→「シャッター音」から「音3録音」を選び、実行ボタンを押します。

● 録音開始画面が現れます。

2. シャッターボタンを押して録音を開始します。

● マイクに向かって話すなどしてください。

3. 再度シャッターボタンを押して録音を終了します。

● 5秒経過すると、録音は自動的に終了します。

4. 録音した音を再生する場合は、「はい」を選んで十字キー中央の実行ボタンを押します。

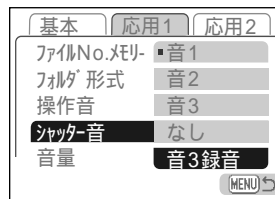
● 「次へ」で5に進みます。

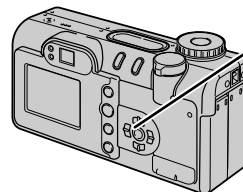
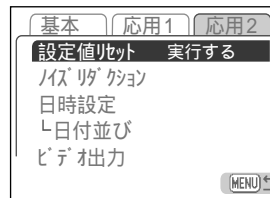
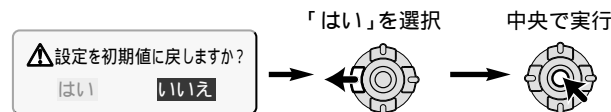
● 再生中、十字キーの上下で音量の調整ができます。

5. 登録する場合は、「はい」を選んで十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 再度音3に登録すると、古い音声が新しい音声に上書きされます。

● 録音登録後は、登録した音3が設定されている状態になっています。

● 設定値リセット（次ページ）を行なうと、登録した音は消去され、音1に戻ります。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

1. P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「応用2」→「設定値リセット」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

2. 十字キーで設定値のリセットを行ないます。

リセットされる内容は以下の通りです。

ボタンで設定するもの

項目	設定	ページ
フラッシュモード	自動発光	31
ドライブモード	1コマ撮影	40
シーンセレクター	（フルオート）シーンセレクター	32
露出補正	±0	36
液晶モニター表示	撮影データあり	37
フォーカスエリア	ワイド	62

オート撮影モードメニュー

項目	設定	ページ
画像サイズ	2272×1704	52
画質	スタンダード	54
デジタルズーム	なし	57
日付写し込み	なし	59
アフタービュー	なし	60

次ページへ続く

設定値リセット（続き）

マニュアル撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
露出モード	Pモード	70
画像サイズ	2272×1704	52
画質	スタンダード	54
ホワイトバランス	AUTO	76
カスタムホワイトバランス	昼光	77
撮像感度	AUTO	79
AFモード	ワンショットAF	80
フルタイムAF	なし	82
調光補正	±0	83
測光モード	多分割測光	84
デジタルズーム	なし	57
カラーモード	標準カラー	86
シャープネス	標準	87
コントラスト	標準	88
彩度	標準	89
ボイスメモ	なし	90
日付写し込み	なし	59
アフタービュー	なし	60

動画撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
画像サイズ	320×240	96
ホワイトバランス	AUTO	97
ナイトムービー	OFF	97
ムービーカメラ	OFF	98

再生モードメニュー

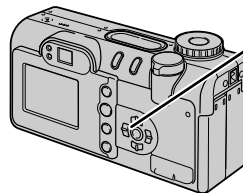
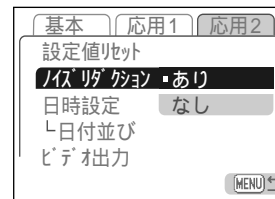
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ再生画像	全コマ	120
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ間隔	5秒	120
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ繰り返し	なし	120
たて再生	あり	115
ﾒｰﾙ画像作成(画像ｻｲｽﾞ)	640×480	132

セットアップモードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	138
パワーセーブ	1分	140
ファイルNo.メモリー	なし	144
フォルダ形式	標準形式	143
操作音	音1	145
シャッター音	音1	145
音3登録音	音1	146
音量	2	145
ノイズリダクション	あり	149

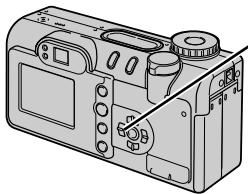
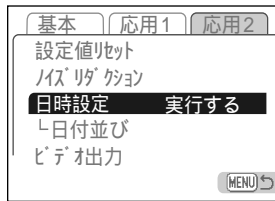
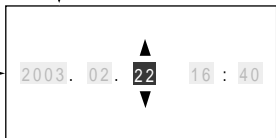
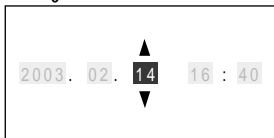
ノイズリダクション

長時間露光時にはノイズが目立ちやすくなります。このカメラでは、シャッター速度が1秒以上の場合はスローシャッターノイズリダクション*が機能して、長時間露光時に目立ちやすい粒状ノイズを低減させます。
このノイズリダクションの有無を切り替えることができます。初期設定は「あり」です。

*リダクション ＝ Reduction（低減、削減）

P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「応用2」→「ノイズリダクション」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

● ノイズリダクションが「あり」の状態で1秒以上の撮影を行なうと、撮影後3～25秒間程度、ノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行われます。ノイズリダクション中は液晶モニターが消灯して右のメッセージが現れます。この間は撮影はできません。→P.92
● 撮影のタイミングを優先させたい場合は、ノイズリダクションをなしにして、ノイズ軽減処理をせずに、すぐに次の撮影を行なうことができます。

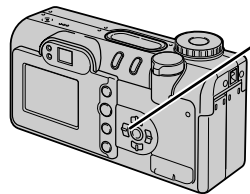
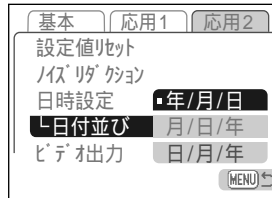
ﾉｲｽﾞﾘﾀﾞｸｼｮﾝ実行中

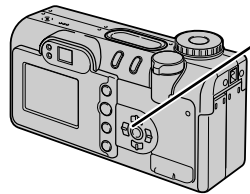
日時設定

日時の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。
● 通常は撮影のたびに数値を設定する必要はありません。

1. P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「応用2」→「日時設定」から「実行する」を選び、実行ボタンを押します。

2. 十字キーで日時と時刻を設定します。

必要なだけこの操作を繰り返します。
● 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。
● メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面に戻ります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

日付並び

「年月日」の並び順を、「月日年」または「日月年」に変えることができます。

P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「応用2」→「日付並び」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

ビデオ出力形式の切り替え

撮影した画像をテレビで見ることができます（P.110）。テレビのビデオ信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ等ではNTSC、ヨーロッパの多くの国々ではPALが採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

P.136の要領で、セットアップモードメニュー →「応用2」→「ビデオ出力」から希望の設定を選択し、実行ボタンを押します。

パソコンとの接続

この章では、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する方法を説明しています。
- 付属のソフトウェア「DiMAGE Viewer（ディマージュ ビューア）」を使われる場合は、別冊のDiMAGE Viewerの使用説明書をご覧ください。

USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続には付属のUSBケーブル USB-500をお使いください（USBマスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機 （NEC PC98-NXシリーズを含む）	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows XP、Windows Me、 Windows 2000 Professional、 Windows 98、98 Second Editionが インストール済み	Mac OS 9.0〜9.2.2、 Mac OS X v10.1.3〜10.1.5、 Mac OS X v10.2.1、10.2.2が インストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、弊社ホームページ（以下参照）をご覧いただくか、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。
　http://www.photo.minolta.co.jp

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows XP、Me、2000の場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.147〜

次ページへ続く

USB接続の動作環境（続き）

Windows 98または98SEの場合

付属のディマージュビューアCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→P.162
その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.155～

Macintoshの場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.155～

パソコンに接続する（USB接続）

接続する

1. パソコンの電源を入れます。

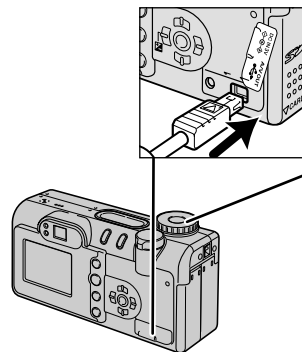
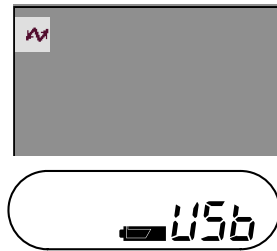
2. USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。
● USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま接続することができますが、取り外す際にはP.160の指示にしたがってください。

3. 端子カバーを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。

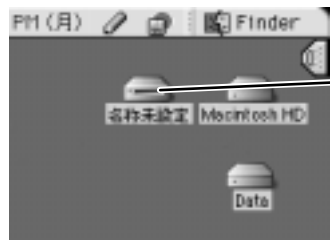
4. カメラにカードを入れ、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFF以外に合わせます。

● OFF以外ならどこに合わせても構いません。

● 正しくUSB接続されると、液晶モニター左上に　、上面データパネルに "USb" が表示されます。

画像ファイルを開く

USB接続が完了すると、カメラ内のSDメモリーカードの画像をパソコンで見ることができます。

1.カードのアイコンをダブルクリックして開きます。

Windowsでは、カードがマイ コンピュータ上に「リムーバブル ディスク」として現れます。

Windows XPでは右の画面が現れるので、目的に応じて選択してください。

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に「名称未設定」として現れます。

Mac OS Xでは、カードがデスクトップ上に現れます（名称はカードによって異なります）。

左の画面（Image Capture）が現れた場合は、どちらかをクリックしてダウンロードを行なうことができます。

- ダウンロード先を左図の通りに設定した場合、静止画像はPicturesフォルダ、動画はMoviesフォルダ、音声データはMusicフォルダに自動的にコピーされます。

2.目的の画像を探します。

※カード内のフォルダ構成について →P.141

3.画像を開けるには、画像ファイルをダブルクリックします。画像をパソコンに保存するときは、ドラッグアンドドロップで画像ファイルを任意の場所にコピーします。

- USB接続中は、カメラ・パソコン間で10分間以上データの交信が行われなかった場合、自動的にパワーセーブ（P.21）が機能し、USB接続が切断されます（OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USBケーブルを取り外すことをおすすめします。→P.160

※画像表示・再生用ソフトについて →P.159

次ページへ続く

パソコンに接続する（USB接続）

- Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合はP.162へ、すでにしている場合はP.164へ
- カードに該当するアイコンが表示されない（カードが認識されない）場合は、パソコンを再起動してください。それでも認識されない場合は →P.166
- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプタ AC-6の使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（アクセスランプが赤く点滅中）には、以下の操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
  ・カメラのメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを動かす。
  ・USBケーブルを取り外す。
  ・カードまたは電池を取り出す。
- カードのフォーマットはカメラ側で行なってください（P.139）。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。
- パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

画像の表示・再生に必要なソフトウェア

このカメラで撮影した画像をパソコンで表示させるには、以下のソフトウェアが必要です。

JPEGファイル（エコノミー・スタンダード・ファインで撮影された画像）の場合
最後に「.JPG」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

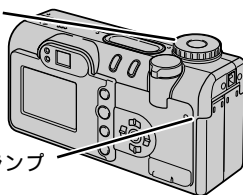
TIFFファイル（TIFFで撮影された画像）の場合
最後に「.TIF」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

WAVEファイル（音声ファイル）の場合
最後に「.WAV」が付いているファイルで、OSに付属の音声再生ソフト（Media Player、QuickTime Player等）で再生することができます。画像と同時に再生することはできません。

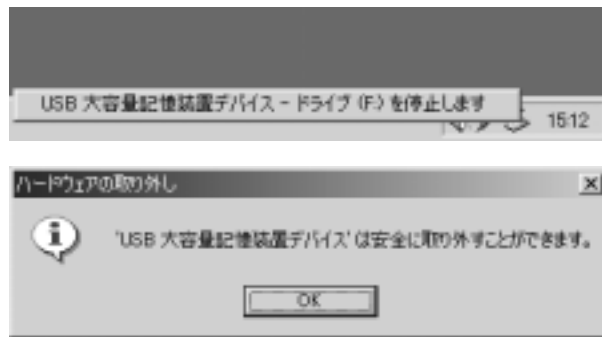
MOVファイル（動画）の場合
最後に「.MOV」が付いているファイルで、再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.168
- DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。
- Macintoshの場合通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

サムネール画像の場合
最後に「.thm」が付いているファイルで、DiMAGE Viewerのサムネール表示用です。

USBケーブルの取り外し・接続中のカードの交換

USBケーブルを取り外す場合や、パソコンに接続した状態でカメラ内のSDメモリーカードを交換する場合は、先に以下の操作を行なってください。

Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが赤く点滅していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］または［ハードウェアの安全な取り外し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USBディスクの停止］または［USB大容量記憶装置デバイスを停止します（または安全に取り外します）］を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックします。
5. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFにしてカメラの電源を切ります。
6. USBケーブルを取り外します。（またはカードを交換します。）

● カード交換後は、もう一度カメラのUSB接続を行なってください。→P.155

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。

1. ハードウェアの取り外し画面が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFにしてカメラの電源を切る。
5. USBケーブルを取り外す、またはカードを交換する。

Windows 98または98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが赤く点滅していないことを確認します。
2. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFにしてカメラの電源を切ります。
3. USBケーブルを取り外します。（またはカードを交換します。）

● カード交換後は、もう一度カメラのUSB接続を行なってください。→P.155

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが赤く点滅していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
3. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFにしてカメラの電源を切ります。
4. USBケーブルを取り外します。（またはカードを交換します。）

● カード交換後は、もう一度カメラのUSB接続を行なってください。→P.155

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

Windows 98／98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュビューアCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。

1.ディマージュビューアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

●左の画面が現れます。

2.［USBデバイスドライバ インストーラの起動］をクリックします。

3.画面の指示に従い、インストールを開始します。

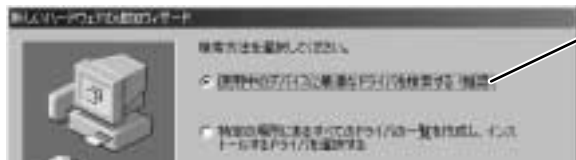
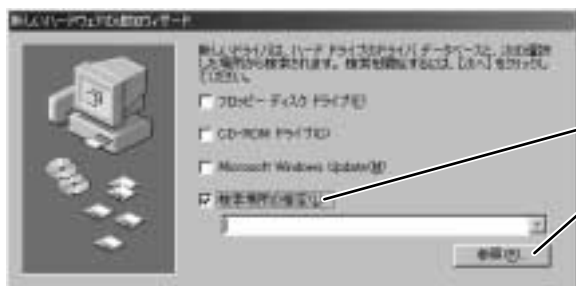
ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続し、カードが正しく認識されるかどうか確認してください。→P.155〜

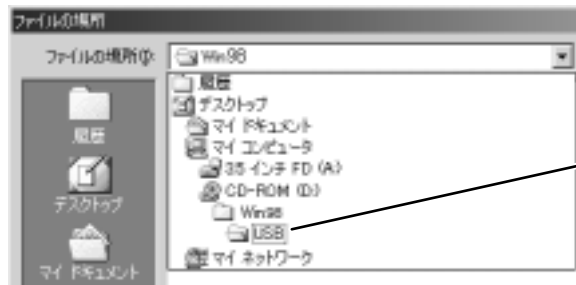
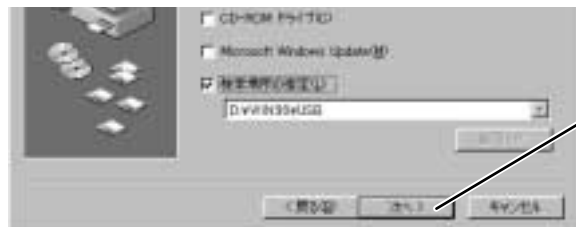
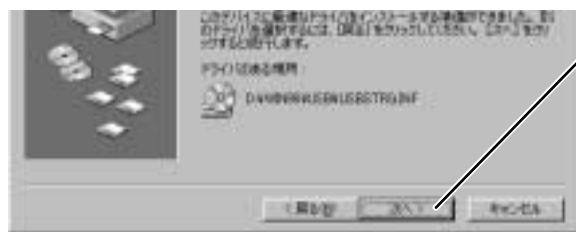
● このカメラ（DiMAGE F200）のWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE F200のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE F200のドライバをインストールするだけで、それ以前のカメラのUSB接続もできるようになります。
● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

● インストール後、接続時に右の画面が現れた場合は、次ページの手順にそってインストールを完了させてください。

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、P.162の要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。以下の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1.［次へ>］をクリックします。

2.［使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）］を選択し、［次へ>］をクリックします。

3.DiMAGEビューアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4.［検索場所の指定］を選択し、［参照］をクリックします。

5.検索場所を、［CD-ROM］－［Win98］－［USB］の順に指定します。

6.［次へ>］をクリックします。

7.ドライバが検出されインストールの準備ができると、［次へ>］をクリックします。

8.インストールが完了すると、［完了］をクリックします。

●お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ＵＳＢ接続ができないときは

Windowsをお使いの場合でカメラをパソコンに接続しても認識されなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページもご覧ください。　http://www.photo.minolta.co.jp/

Windows XP、2000の場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.155
 ● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選びます。
 ● Windows XPでデスクトップ上に「マイコンピュータ」がない場合は、[スタート] ― [コントロールパネル] ―（[パフォーマンスとメンテナンス]）― [システム] と選択してください。
3. 「システムのプロパティ」が表示されるので、「ハードウェア」のタブをクリックし、続いてその中の「デバイスマネージャ」をクリックします。
4. 「その他のデバイス」または「USBコントローラ」にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
 ● 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
 ● カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」マークで表示されている項目を選んでください。
5. デバイスマネージャ画面の上部にある「操作」から「削除」を選んでクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。

Windows Me、98、98SEの場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.155
 ● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選びます。
3. 「システムのプロパティ」が表示されるので、「デバイスマネージャ」のタブをクリックします。
4. 「その他のデバイス」または「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
 ● 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
 ● カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「？」または「！」マークで表示されている項目を選んでください。
5. デバイスマネージャ画面の下部にある「削除」をクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。Windows 98/98SEの場合は、この後P.162の要領で再度ドライバをインストールします。

QuickTimeのインストールと使い方（Windowsのみ）

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアCD-ROMからインストールしてください。

● Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 5 動作環境

● Pentiumプロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
● 32MB以上のメモリ（RAM）
● Windows 95/98/NT/Me/2000/XPオペレーティングシステム
● Sound Blasterおよびその互換サウンドカード、スピーカー
● DirectXバージョン3.0以降推奨

インストール方法

1. ディマージュビューアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

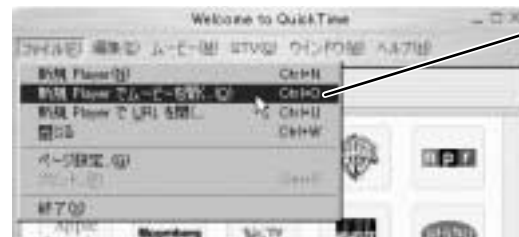
● 左の画面が現れます。

2. [QuickTimeインストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

2. [ファイル（F）] から [新規Player でムービーを開く…（O）] を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、[開く（O）] をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

オンラインラボ工房

付属のディマージュビューアCD-ROMをWindowsパソコンに入れると、オンラインラボ工房をインストールすることができます。
［オンラインラボ工房 インストーラの起動］をクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。

オンラインラボ工房を起動させてインターネットに接続すると、以下のサービスが可能です。

- 撮影した画像のプリント注文ができます。
- 年賀状などのポストカードの作成や注文ができます。
- オンラインアルバムに画像を保管してインターネット上にアルバムが作れます。アルバム上で画像を整理したり、友人に見てもらったり、そこからプリント注文したりすることができます。

ミノルタホームページ（http://www.photo.minolta.co.jp）のクラブ・フォトナビゲーションでも、上記と同様のサービスを行なっています。WindowsでもMacintoshでもご利用になれます。

その他

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
カードが入っていません	カードが入っていない	カードを入れてください。カードが入ってないと、撮影や再生はできません。	22
カードがロックされています	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、カードのライトプロテクトスイッチを上げてください。	22
カードに空きがありません	カードがいっぱいである	画像サイズまたは画質を変更する、撮影した画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。	52 54 113
このカードは使えません	カメラでカードをフォーマット（初期化）してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		139
日付／時刻を設定してください	長時間電池を抜いたままにしておいたので、日時の設定が失われた	日時を再設定してください。	150
画像がありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
表示できない画像です	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。		—
音声を上書きしますか？	すでにボイスメモまたはアフレコが録音されている画像に、新たにアフレコを録音しようとしている	ボイスメモまたはアフレコは一回分しか録音できません。新しい音声を上書きすると、古い音声は削除されます。	118
コマ指定がありません	消去や画像コピー等で「コマを指定」を選択したのに、実際に消去するコマを選ばずに実行しようとした	十字キーでコマを指定してください。	—

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
プロテクトされています	プロテクト（誤消去防止）をかけた画像を消去しようとしている、またはアフレコを録音しようとしている	消去する、またはアフレコを録音する場合は、先にプロテクトを解除してから行なってください。	116
操作できる画像がありません	スライドショーで、動画などスライドショーが不可能な画像しか存在しない	スライドショーは静止画でのみ可能です。	119
プリンタを確認してください	USB DIRECT-PRINTで、用紙切れ等プリンタ側で問題が起こっている	プリンタの問題を解決してください。	126
画像が多すぎます　指定し直してください	画像コピー・メール画像作成で、内蔵メモリの容量以上の画像を一度に指定した	一度に指定する画像数を減らしてください。	132
電池がなくなりました	電池が切れた	新しい電池を入れる、ニッケル水素電池の場合は充電する、ACアダプタを使う、のいずれかを行なってください。	20
システムエラー	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。		—

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影ができない	電池が消耗している	電池を交換してください。	20
	カメラがパソコンまたはプリンタに接続されている	パソコンやプリンタに接続されている間は、撮影できません。	—
液晶モニターが点灯しない	液晶モニターがOFFになっている	液晶モニターボタンを押してONにしてください。	37
	パワーセーブが作動した	約30秒間以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に液晶モニターが消灯します。	21
ファインダー横の緑ランプが点灯せず、すばやく点滅している	オートフォーカスの苦手な被写体（P.62）を撮ろうとしている	被写体と同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを合わせて、フォーカスロック撮影を行なってください。	62 64
	被写体に近づき過ぎている	通常はカメラより約50cm以上、シーンセレクターでマクロ選択時は約20cm以上離れたものにしかピントが合いません。	34
	レンズが汚れていてピントが合わない	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	180
ファインダー横のオレンジランプがゆっくり点滅している	フラッシュ発光禁止や夜景ポートレート・夜景撮影のため、シャッター速度が遅くなっている	三脚を使って、カメラがぶれないようにして撮影してください。	30

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
シャッター速度と絞り値が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲またはシャッター速度や絞り値の範囲を超えている	明る過ぎるときは、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。	—
Aモードでシャッター速度が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている	シャッター速度が白くなる範囲で絞り値を設定してください。	71
Sモードで絞り値が赤く表示される	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、絞り値の範囲を超えている	絞り値が白くなる範囲でシャッター速度を設定してください。	73
Mモードでシャッター速度と絞り値が赤く表示される	設定したシャッター速度と絞り値では写真が大幅に露出オーバーまたはアンダーになる	シャッター速度か絞り値を変更してください。	75
再生や設定ができない	カメラがパソコンまたはプリンタに接続されている	パソコンやプリンタに接続されている間は、撮影や再生、カメラの設定はできません。	—
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	30 79
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	—
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	180

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
写真の左側と下側に画面外のものが写っている	ファインダーを使って近くのものを撮影した	近距離撮影の場合、ファインダーで見る画面と撮影される画面にはずれが生じます。液晶モニターを使って撮影してください。	25
撮影した画像と実際の写真がずれている			
パソコンがカードを認識しない	USBドライバのインストールに失敗した	一度アンインストールを行なった後、再接続（または再インストール）を行なってください。	166
カメラが正常に作動しない	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。		—

取り扱い上の注意

電池について

● 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。また、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
● いったん容量切れになった電池は必ず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

ニッケル水素電池の取り扱い上のご注意

● ニッケル水素電池の特性上、初めてお使いになるときや長期間放置後にお使いになるときは、最初は十分に充電が行われないことがあります。このような場合でも2、3回充電と使用を繰り返すと、本来の性能を発揮します。
● 電池の両電極を乾いた布でよく拭き、汚れを取り除いてからご使用ください。汚れたままだと接触が悪くなり、新品電池でも電池がすぐに使えなくなる場合があります。
● ニッケル水素電池には「メモリー効果」と呼ばれる現象があり、十分に使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電完了後の容量が徐々に少なくなります。電池容量がなくなるまで使い切った後、充電を行なうことをおすすめします。
● 電池は、2本を一緒に充電してください。また、このカメラで使用した電池はこのカメラを専用とされることをおすすめします。
● 充電時間がかなり短い場合は、充電が不十分なことがあります。再度充電を行なってください。
● 充電器に付属の取り扱い説明書も合わせてよくお読みください。

使用温度について

● このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
● 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
● カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

SDメモリーカード、マルチメディアカードについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
  2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
  4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
- カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えたりしないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられていますが、極めてわずかながら画素欠けや常時点灯するものがあります。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置したりしないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々カメラを作動させるようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- 本製品および充電器の修理に関しては、「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

主な性能

有効画素数	約400万画素
撮像素子	1/1.8型総画素約410万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO、ISO 100、200、400、800相当
画面アスペクト比	4:3
レンズ構成	7群8枚
焦点距離	7.8～23.4mm（35mmフィルム換算：38～114mm相当）
開放絞り値	F2.8～F4.7
撮影距離	0.45m～∞（レンズ先端から） 0.5m～∞（CCD面から） マクロモード時（焦点距離23.4mm）：14.5～54.5cm（レンズ先端から） 20～60cm（CCD面から） 最大撮影倍率：0.17（35mmフィルム換算で0.74倍相当） 最大撮影倍率時の被写体サイズ：42.0×31.7mm
ズーム方式	電動ズーム
フォーカス方式	映像AF方式
AFエリア	ワイドフォーカスエリア（エリアAF）／ローカルフォーカスエリア（フォーカスエリアセレクト機能）切り替え可能
フォーカス制御	AF（追尾AF、ワンショットAF）、ターゲットセレクト機能（マニュアル撮影モードで追尾AF選択時） フルタイムAF選択可能 マニュアルフォーカス切り替え可能
フォーカスロック	ワンショットAF時あるいはローカルフォーカスフレーム選択時、シャッターボタン半押しで可能 追尾AF時、シャッターボタン半押しでフォーカスロックはしない
被写体ロック	追尾AF時、シャッターボタン半押しで可能
ホワイトバランス	オート、プリセット（昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯）、カスタム設定
測光方式	多分割測光（256分割）、中央重点的平均測光、スポット測光
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用 シャッター速度：P/Aモード時 4～1/1000秒、S/Mモード時 15～1/1000秒、BULB（最長15秒）
AEロック	ワンショットAF選択時、MF選択時、あるいはローカルフォーカスフレーム選択時、シャッターボタン半押しでAEロック 追尾AF時、シャッターボタン半押しでAEロック
露出モード	P、A、S、M
シーンセレクター	フルオート時：ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景ポートレート・夜景 任意設定時：ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景ポートレート・夜景、マクロ
露出補正	±2Ev（1/3Evステップ）
フラッシュ制御方式	TTL調光
フラッシュモード	Pモード時：自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、発光禁止 A/S/Mモード時：強制発光、赤目軽減強制発光、発光禁止

主な性能（続き）

フラッシュ連動距離	広角：約0.5〜3.4m、望遠：約0.5〜2.0m（CCD面から、撮影感度オート時）
充電時間	約6秒
調光補正	±2Ev（1/3Evステップ）
ファインダー形式	実像式光学ズームファインダー
視野率	約80%
アイポイント	21.4mm（接眼レンズより）、18mm（接眼枠より）
A/D変換bit数	12 bit
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、TIFF、Motion JPEG（MOV）（音声付き） DCF 1.0準拠　DPOF（Ver.1.1）のプリント機能対応
記録フォルダ形式	標準形式、日付形式
Exif Print	対応
PRINT Image Matching II	対応
記録画素数	2272×1704、1600×1200、1280×960、640×480
画質モード	エコノミー、スタンダード、ファイン、TIFF
カラーモード	標準カラー、ビビッドカラー、モノクロ、セピア
シャープネス	3段階調整可能
コントラスト	3段階調整可能
彩度	3段階調整可能
Exif Tag情報	撮影年月日時分、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報
消去機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　クイックビュー（撮影モード）時の消去可能 誤消去防止機能：あり（1コマ／全コマ／指定コマ）
フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	あり
液晶モニター	3.8cm（1.5インチ）低温ポリシリコンTFTカラー　モニター画素数：約11万画素 視野率：約100%　モニター自動感度アップ機能あり　反射防止コーティング
ノイズリダクション機能	あり／なし選択可能
連続撮影	連続撮影：約1.5コマ／秒（シャッター音なし）、約1.2コマ／秒（シャッター音あり）
セルフタイマー	約10秒
リモコン	RC-3
連続ブラケット	露出ずらし量：0.3Ev、0.5Ev、1.0Ev　枚数：3枚
動画	ファイル形式：Motion JPEG（MOV）　記録画素数：320×240、160×120 フレームレート：15フレーム／秒 録画時間：記録メディアの容量を限度に長時間録画可能　音声付き（モノラル）　再生時音量調節可能、早送り巻き戻し可能、動画の一時停止時に画像のコマ送り可能、ナイトムービー機能あり（ON/OFF選択可能）、ムービーカメラ機能あり(ON/OFF選択可)
音声	ボイスレコード（最大180分、128MB以上の記録メディア使用時）、アフレコ（最大15秒）、ボイスメモ（最大15秒）　モノラル 再生時音量調節可能、早送り巻き戻し可能 ファイル形式：WAVE形式
デジタルズーム	1.1倍から4.0倍まで0.1刻み
画像コピー	あり
メール画像作成	あり　640×480、160×120にリサイズ
縦画像の自動回転	可能
操作音	操作音2種類、シャッター音3種類・うち1種はユーザーが録音して設定可能（マイサウンド機能）、音量調節可能
使用電池	本体：ニッケル水素電池単3形　2本、またはCR-V3　1個 リモコン：ボタン型リチウム電池CR2032　1個
外部電源	DC 3V（ACアダプター使用時）
連続動作時間	連続再生：約270分（CR-V3電池使用時）　約170分（2100mAhニッケル水素電池使用時）
撮影可能コマ数	約160コマ　当社試験条件による（2100mAhニッケル水素電池使用、液晶モニターON、画像サイズ2272×1704、画質STD、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ50%使用、フルタイムAFなし、追尾AFなし）
PC用インターフェース	USB1.1
USB DIRECT-PRINT	対応
AV出力	NTSC／PAL切り替え可能
大きさ	111.0（幅）× 52.5（高さ）× 32（奥行き）mm
質量（重さ）	約185g（電池、記録メディア別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

数字・アルファベット